

男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書

平成 25 年 11 月

戸 田 市

目 次

第1章 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査の方法	3
4 回収結果	3
報告書の利用にあたって	4

第2章 調査結果の概要

1 基本的属性	7
2 男女のあり方をめぐるさまざまな問題について	8
3 結婚や家族、生活などのことについて	11
4 老後の生活について	13
5 DV（ドメスティック・バイオレンス）について	14
6 地域活動などについて	16
7 「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について	17

第3章 調査結果

1 基本的属性	21
2 男女のあり方をめぐるさまざまな問題について	27
3 結婚や家族、生活などのことについて	45
4 老後の生活について	55
5 DV（ドメスティック・バイオレンス）について	57
6 地域活動などについて	63
7 「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について	65

第4章 「自由記入」のまとめ

1	男女共同参画全般について	73
2	市の施策・事業について	75
3	情報提供・周知について	78
4	子育て・介護について	79
5	社会参加・労働環境について	81
6	アンケートについて	82
7	教育・学校について	83
8	DV（ドメスティック・バイオレンス）について	84
9	家庭生活について	84

第5章 調査結果からの課題

1	目標ごとの課題	87
	目標Ⅰ 男女共同参画の意識づくり	87
	目標Ⅱ 人権の尊重と男女平等の推進	88
	目標Ⅲ 豊かな暮らしを育む環境づくり	89
	目標Ⅳ 男女ともに働きやすい職場づくり	90
	目標Ⅴ あらゆる分野における男女共同参画の促進	92
	目標Ⅵ 推進体制の整備	93
2	目標値の達成状況一覧（アンケート調査部分）	94

資 料

◇男女共同参画に関する市民アンケート調査（票）	97
-------------------------	----

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、『第四次戸田市男女共同参画計画』の見直しを図るとともに、今後の男女共同参画行政を推進していくための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

調査は以下の内容で、F 1 から問 25 までの質問、および自由記入欄にて構成した。

1. 基本的属性（F 1～F 7）
2. 男女のあり方をめぐるさまざまな問題について（問 1～問 9）
3. 結婚や家族、生活などのことについて（問 10～問 16）
4. 老後の生活について（問 17、問 18）
5. DV（ドメスティック・バイオレンス）について（問 19～問 21）
6. 地域活動などについて（問 22）
7. 「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について（問 23～問 25）

3 調査の方法

- (1) 調査区域：市内全域
- (2) 調査対象：平成 25 年 5 月 1 日現在戸田市に居住する満 18 歳以上の市民
- (3) 標本数（送付者数）：3, 0 0 0 人（男性・女性各 1,500 人）
- (4) 抽出方法：無作為抽出法
- (5) 実施方法：郵送配付－郵送回収（「お礼状兼督促状葉書」を 1 回、対象者に送付）
- (6) 調査期間：平成 25 年 6 月上旬～6 月 17 日（7 月 12 日到着分まで結果に反映）

4 回収結果

- (1) 有効回収数：1, 1 0 0 票
- (2) 有効回収率：3 6. 7 %（男性 42.9%、女性 56.3%、無回答 0.8%）

報告書の利用にあたって

- 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- 表・グラフ中、整数は回答者数（単位：人）を、小数第1位までの数値は百分率（単位：%）を、それぞれ表している。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数（n）として、小数第2位を四捨五入して算出している。そのため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。

* 「標本誤差」について

調査結果の比率から母集団の傾向を推測する際には、統計上の誤差（標本誤差）を考慮に入れる必要がある。本調査における各回答比率での標本誤差は、下記の早見表のとおりとなる。例えば回答者総数（1,100人）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%のとき、戸田市に居住する満18歳以上の市民（平成25年5月現在104,915人）のこの質問に対する回答は、47.1%～52.9%の間にあると考えてよい。

各回答比率における標本誤差早見表

回答比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,100人	±1.8	±2.4	±2.7	±2.9	±2.9
500人	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
250人	±3.7	±5.0	±5.7	±6.1	±6.2
100人	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

- ・標本誤差の算出式（ただし、信頼度を95%とする。）

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

（b = 標本誤差、N = 母集団数、n = 比率算出の基数 [サンプル数]、P = 回答比率）

第2章 調査結果の概要

1 基本的属性

- 性別は、男性が 42.9%、女性が 56.3%となっており、平成 19 年調査（以下、「前回調査」）（男性 36.3%、女性 60.3%）に比べてバランスのとれた性別構成比となっている。
- 年齢は、前回調査では「30～39 歳」（26.0%）の年齢層が最も多かったが、今回調査では「60～69 歳」（22.1%）が最も多く、以下、「70 歳以上」（19.2%）、「50～59 歳」（17.8%）と続いており、“60 歳以上” が 4 割強を占めている。
- 職業は、男性は「常勤の勤め（会社員・公務員・教員など）」（48.1%）が約半数を占めており、女性は「専業主婦」（31.3%）が最も多く、次いで、「アルバイト・パート」（24.9%）、「常勤の勤め（会社員・公務員・教員など）」（21.0%）となっている。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	常勤の勤め（会社員・公務員・教員）	自営業・家業（商業）	自営業・家業（工業）	アルバイト・パート（学生を除く）	在宅の仕事	学生	専業主婦（主夫）	無職	その他	無回答
合計	1100 100.0	357 32.5	53 4.8	36 3.3	186 16.9	5 0.5	23 2.1	194 17.6	211 19.2	23 2.1	12 1.1
男性	472 100.0	227 48.1	28 5.9	21 4.4	32 6.8	3 0.6	13 2.8	0 0.0	132 28.0	13 2.8	3 0.6
女性	619 100.0	130 21.0	24 3.9	15 2.4	154 24.9	2 0.3	9 1.5	194 31.3	76 12.3	10 1.6	5 0.8

- 結婚等の状況は、「している」（73.7%）と「していないがパートナーと暮らしている（事実婚）」（1.5%）は前回調査（「している」が 73.6%、「していないがパートナーと暮らしている（事実婚）」が 1.6%）からの変化はみられず、「していた（離婚・離別・死別など）」（10.8%）は前回調査（7.9%）に比べて 2.9 ポイント増加、「していない（未婚）」（13.4%）は前回調査（16.3%）に比べて 2.9 ポイント減少となっている。
- 結婚をしている、またはパートナーと暮らしている人に共働きの状況についてきいたところ、「共働き（ともにフルタイム）」が 21.3%、「共働き（どちらか、またはともにパート）」が 22.8%、「夫だけ仕事をしている」が 28.6%となっており、前回調査（「共働き（ともにフルタイム）」が 19.5%、「共働き（どちらか、またはともにパート）」が 20.4%、「夫だけ仕事をしている」が 37.5%）に比べて、“共働き” は 4.2 ポイント増加し、「夫だけ仕事をしている」は 8.9 ポイント減少している。
- 同居の家族等は、「配偶者（パートナー）」が 72.0%で最も多く、次いで、「未婚の子ども」が 44.5%、「自分の親」が 10.5%、「ひとり暮らし」が 8.5%となっている。
- 未婚の子どもと同居している人に子どもの年齢についてきいたところ、「社会人」が 41.1%で最も多く、次いで、「中学・高校生」が 16.8%、「小学生」が 15.3%となっている。

2 男女のあり方をめぐるさまざまな問題について

- 用語の認知度については、「男女雇用機会均等法」(83.5%)が最も多く、以下、「ストーカー規制法」(81.5%)、「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法」(80.7%)、「育児・介護休業法」(73.8%)と続いている。

前回調査と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス」(23.8%)は前回調査(11.9%)に比べて11.9ポイント増加し、「育児・介護休業法」(73.8%)は前回調査(81.5%)に比べて7.7ポイント減少している。

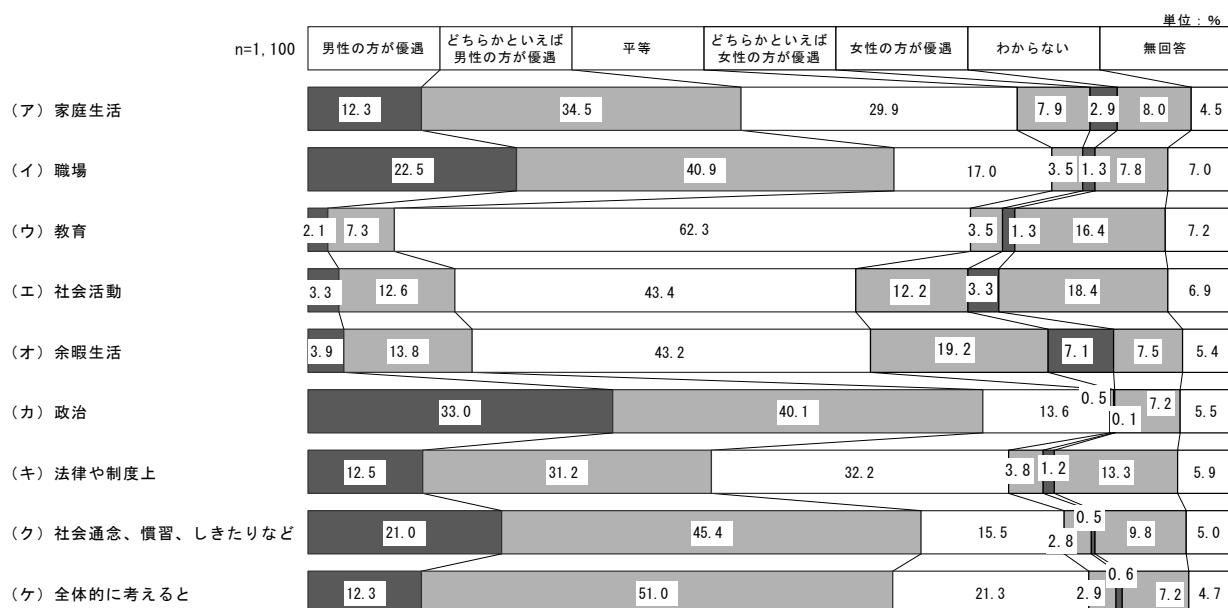
- 用語について、おおよその内容まで知っているものは、「男女雇用機会均等法」(16.6%)が最も多く、以下、「育児・介護休業法」(12.4%)、「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法」(11.4%)と続いている。

前回調査と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス」(3.4%)が1.9ポイントの微増、「男女共同参画社会基本法」(2.9%)がほぼ同率であった以外は減少しており、特に、「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法」(11.4%)は前回調査(20.5%)に比べて9.1ポイントの減少となっている。

- 各分野の男女の地位について、「平等」との回答が最も多い分野は「教育」(62.3%)となっている。また、最も少ない分野は「政治」(13.6%)となっており、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計(73.1%)が7割強を占めている。

「女性の方が優遇」と「どちらかといえば女性の方が優遇」の合計が「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計を上回っている分野は「余暇生活」のみ(*「平等」が43.2%で最も多い)となっており、「全体的に考えると」では、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計(63.3%)が6割強を占めている。

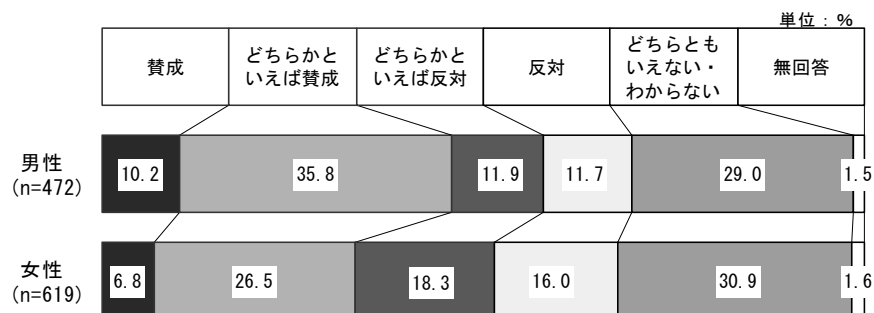
前回と比較すると、「平等」との回答が「法律や制度上」「社会通念、慣習、しきたりなど」「全体的に考えると」で増加しており、それぞれ4.9ポイント、4.3ポイント、3.5ポイントの増加となっている。



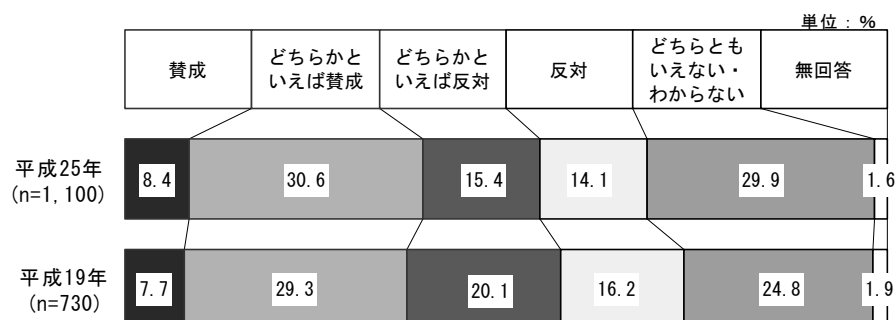
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「肯定派」（「賛成」が 8.4%＋「どちらかといえば賛成」が 30.6%）が 39.0%、「否定派」（「反対」が 14.1%＋「どちらかといえば反対」が 15.4%）が 29.5%となっており、「肯定派」が「否定派」を上回っている。

性別にみると、「肯定派」は男性（46.0%）が女性（33.3%）に比べて 12.7 ポイント多く、「否定派」は女性（34.3%）が男性（23.6%）に比べて 10.7 ポイント多くなっている。前回調査と比較すると、「否定派」が 6.8 ポイントの減少となっている。

【性別】



【前回調査との比較】



- 女性の働き方についての考えは、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び仕事をするのがよい」（46.1%）が最も多く、以下、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるのがよい」（20.7%）、「子どもが生まれるまでは仕事をして、生まれた後は家事や育児に専念するのがよい」（12.4%）と続いている。
- 女性が働き続けたり、再就職するために必要なことは、「夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること」（60.7%）が最も多く、以下、「保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること」（45.6%）、「上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること」（40.7%）と続いている。
- 現在何らかの形で仕事に就いている人に、セクシャル・ハラスメントについてきいたところ、「なかった」（52.7%）との回答が最も多くなっているが、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」（17.3%）、「外部の人に話す際などに（うちの）『男の子、女の子』『おじさん、おばさん』といった呼び方をする」（8.2%）、「性的な話をする、質問をする」（7.9%）などの回答もみられる。

- 現在何らかの形で仕事に就いている人に、育児・介護休業制度利用の可否についてきいたところ、「できない」(50.6%)が過半数を占めており、「できる」(38.3%)を12.3ポイント上回っている。
- 育児・介護休業制度を利用できない人にその理由をきいたところ、「職場に休業制度があるか分からないから」(25.4%)が最も多く、以下、「経済的な理由から」(21.0%)、「職場に休める雰囲気がないから」(21.0%)、「自分の仕事は代替りの人がいないから」(15.3%)と続いている。

性別にみると、男性は「職場に休める雰囲気がないから」と「自分の仕事は代替りの人がいないから」が女性に比べて、それぞれ7.5ポイント、8.9ポイント多く、女性は「職場に休業制度があるか分からないから」と「一度休むと元の職場に戻れないから」が男性に比べて、それぞれ9.6ポイント、6.2ポイント多くなっている。

【性別】

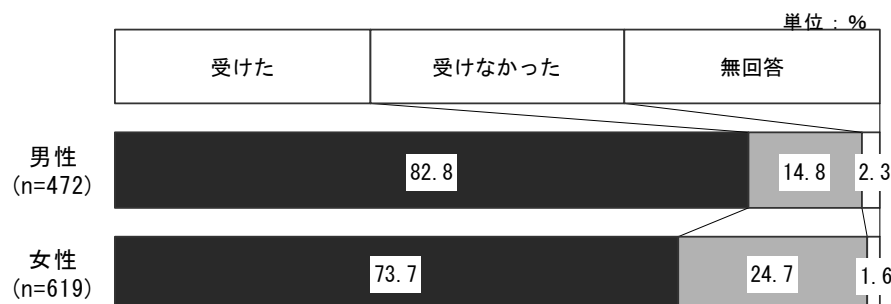
上段：人 下段：%	全体	経済的な理由から	職場に休業制度があるか分からないから	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると勤務評価に影響するから	自分の仕事は代替りの人がいないから	一度休むと元の職場に戻れないから	仕事を続けたいから	配偶者の理解が得られないから	その他	無回答
合計	334 100.0	70 21.0	85 25.4	70 21.0	5 1.5	51 15.3	17 5.1	5 1.5	1 0.3	29 8.7	1 0.3
男性	161 100.0	33 20.5	33 20.5	40 24.8	4 2.5	32 19.9	3 1.9	3 1.9	0 0.0	12 7.5	1 0.6
女性	173 100.0	37 21.4	52 30.1	30 17.3	1 0.6	19 11.0	14 8.1	2 1.2	1 0.6	17 9.8	0 0.0

- 学校において力をいれてほしいことについては、「性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う」(71.2%)が7割強を占め圧倒的に多くなっており、次いで、『男女平等』の意識を育てる授業をする」(41.7%)、「教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う」(31.0%)となっている。
- 「女性の人権が侵害されている」と感じることについては、「痴漢やレイプなどの性犯罪」(61.8%)が最も多く、以下、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(51.4%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」(46.2%)、「ストーカー行為」(41.3%)と続いている。

3 結婚や家族、生活などのことについて

- 健診、検診の受診状況について、「受けた」との回答は男性が82.8%、女性が73.7%となっており、女性の割合が男性に比べて9.1ポイント少なくなっている。

【性別】



- 女性の健康を支援するために必要なことは、「子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」(55.5%)が最も多く、以下、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」(38.9%)、「女性のための健康教育・健康相談」(37.6%)と続いている。女性自身の回答では、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」(44.6%)が全体に比べて多くなっている。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	女性のための健康教育・健康相談	女性の性に関する相談	子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実	妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	その他	無回答
合計	1100 100.0	414 37.6	58 5.3	610 55.5	428 38.9	257 23.4	31 2.8	77 7.0
男性	472 100.0	196 41.5	24 5.1	263 55.7	148 31.4	121 25.6	10 2.1	41 8.7
女性	619 100.0	215 34.7	34 5.5	343 55.4	276 44.6	135 21.8	21 3.4	33 5.3

- 「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方については、“肯定派”（「賛成」28.2%+「どちらかといえば賛成」23.3%）が51.5%で過半数を占めており、“否定派”（「どちらかといえば反対」18.0%+「反対」7.1%）を26.4ポイント上回っている。
- 離婚についての考えは、「離婚を安易に考えるべきではない」(41.3%)と「DVがあれば離婚する」(40.6%)が多くなっており、次いで、「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」(31.7%)となっている。

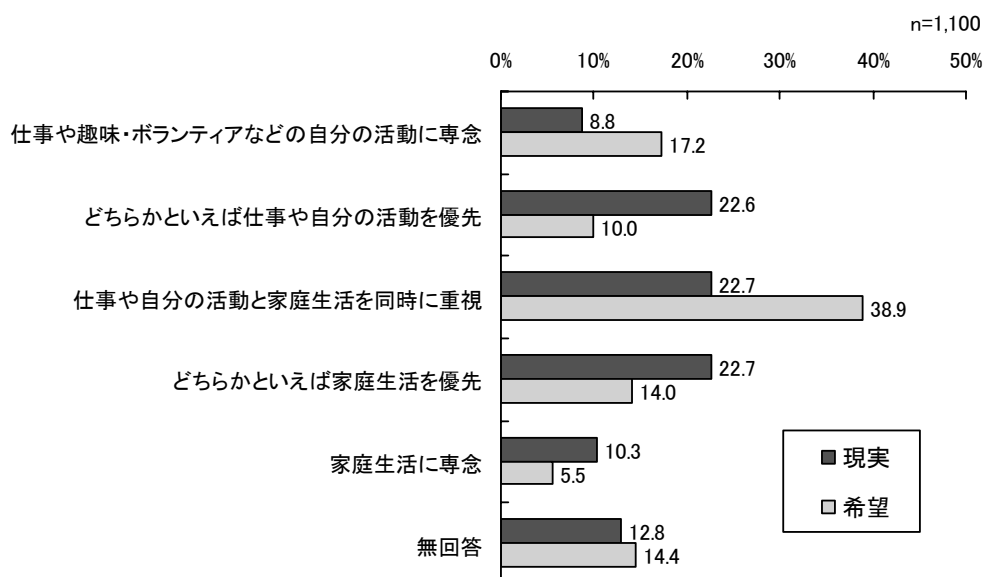
- 家事の担当者については、いずれの分野においても妻が担当しているとの回答が多くなっており、特に、「食事の準備」や「洗濯」では「おもに妻」が約4分の3を占めている。

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
(ア) 食事の準備	792 100.0	599 75.6	104 13.1	38 4.8	11 1.4	13 1.6	9 1.1	18 2.3
(イ) 食事の後片づけ	792 100.0	461 58.2	183 23.1	64 8.1	20 2.5	30 3.8	12 1.5	22 2.8
(ウ) 部屋の掃除	792 100.0	471 59.5	157 19.8	79 10.0	28 3.5	29 3.7	6 0.8	22 2.8
(エ) ふろの掃除	792 100.0	345 43.6	150 18.9	68 8.6	63 8.0	106 13.4	34 4.3	26 3.3
(オ) 洗濯	792 100.0	580 73.2	102 12.9	55 6.9	8 1.0	15 1.9	8 1.0	24 3.0
(カ) 日常の買い物	792 100.0	388 49.0	257 32.4	76 9.6	19 2.4	23 2.9	8 1.0	21 2.7

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	該当者なし	無回答
(キ) 子どもの世話や教育	792 100.0	211 26.6	206 26.0	58 7.3	6 0.8	2 0.3	5 0.6	229 28.9	75 9.5
(ク) 高齢者・病人の介護	792 100.0	96 12.1	71 9.0	34 4.3	8 1.0	8 1.0	6 0.8	489 61.7	80 10.1

- 家庭生活についての考えは、希望では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」(38.9%)が最も多くなっているが、現実では22.7%にとどまっており、「仕事や自分の活動」(現実：22.6%)あるいは「家庭生活」(現実：22.7%)を優先せざるを得ない状況であることが分かる。また、「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」も希望(17.2%)と現実(8.8%)で8.4ポイントの差がある。

【現実と希望の比較】



- 男性があまり家事に参加しない理由については、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」(57.1%) が最も多く、以下、「仕事が忙しくて疲れている」(46.6%)、「家事は女性の仕事である、と考えている」(32.2%)、「子どものときから家事をするようにしつけられていない」(30.3%)、「家事の仕方がよくわからない」(29.5%) と続いている。

性別にみると、男性は「家事参加を女性が望んでいない」との回答が女性に比べて9.1ポイント多く、女性は「子どものときから家事をするようにしつけられていない」と「家事は女性の仕事である、と考えている」との回答が男性に比べて、それぞれ18.2ポイント、21.8ポイント多くなっている。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	仕事が忙しくて疲れている	家事参加を女性が望んでいない	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	家事をする手が足りている	子どものときから家事をするようにしつけられていない	家事は女性の仕事である、と考えている	家事をするのは世間体が悪いと感じている	家事の仕方がよくわからない	その他	わからない	無回答
合計	1100 100.0	513 46.6	78 7.1	628 57.1	90 8.2	333 30.3	354 32.2	35 3.2	325 29.5	38 3.5	28 2.5	72 6.5
男性	472 100.0	214 45.3	58 12.3	275 58.3	47 10.0	95 20.1	94 19.9	16 3.4	124 26.3	17 3.6	16 3.4	40 8.5
女性	619 100.0	294 47.5	20 3.2	349 56.4	42 6.8	237 38.3	258 41.7	18 2.9	200 32.3	21 3.4	11 1.8	30 4.8

4 老後の生活について

- 老後を誰と暮らしたいかについては、「配偶者（パートナー）と2人で暮らしたい」(53.6%) が過半数を占め最も多く、次いで、「子どもや孫と一緒に暮らしたい」(18.5%) となっている。
- 介護や介助を受けることになったときの希望については、「介護保険の在宅サービスを利用する」(45.5%) が最も多く、以下、「老人ホームなどの福祉施設を利用する」(44.2%)、「配偶者（パートナー）の世話になる」(36.6%) と続いている。

性別にみると、男性は「配偶者（パートナー）の世話になる」(51.1%) が過半数を占め最も多く、女性は「老人ホームなどの福祉施設を利用する」(52.0%) と「介護保険の在宅サービスを利用する」(51.2%) が過半数を占めている。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	配偶者（パートナー）の世話になる	娘の世話になる	息子の世話になる	息子の妻の世話になる	娘の夫の世話になる	介護保険の在宅サービスを利用する	老人ホームなどの福祉施設を利用する	その他	わからない	無回答
合計	1100 100.0	403 36.6	91 8.3	49 4.5	8 0.7	2 0.2	501 45.5	486 44.2	25 2.3	107 9.7	31 2.8
男性	472 100.0	241 51.1	27 5.7	27 5.7	4 0.8	1 0.2	180 38.1	159 33.7	15 3.2	55 11.7	11 2.3
女性	619 100.0	160 25.8	64 10.3	22 3.6	3 0.5	1 0.2	317 51.2	322 52.0	10 1.6	52 8.4	18 2.9

5 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

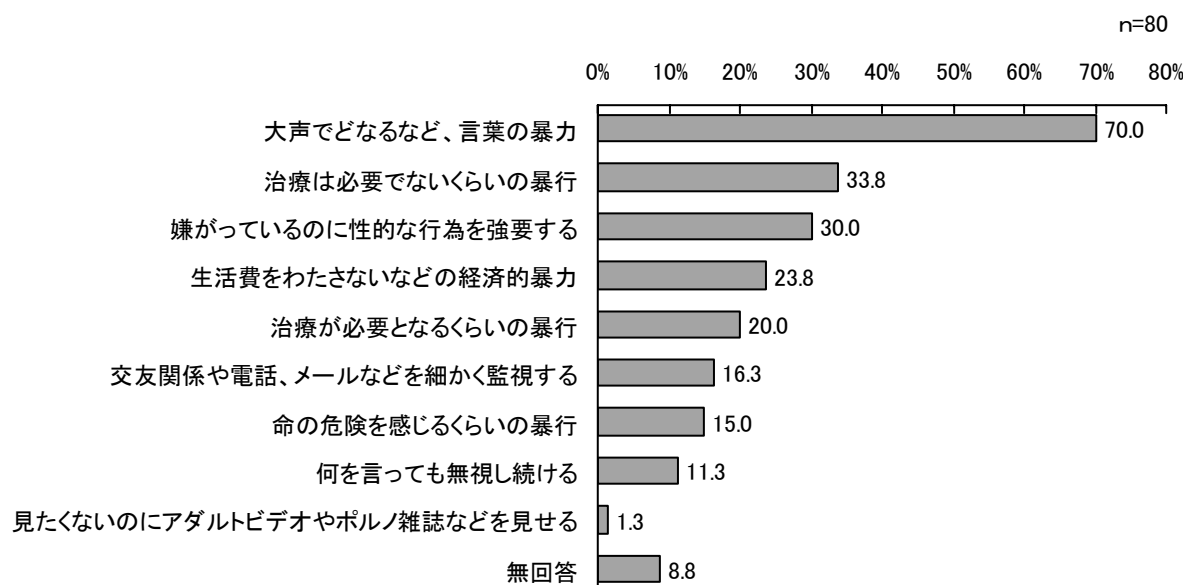
- DVの認知度については、身体的暴力のみならず、性的暴力や言葉による精神的暴力、生活費をわたさないなどの経済的暴力などもDVであることを「知っていた」人は51.8%と過半数を占めており、「一部の内容まで知っていた」は27.7%、「言葉ぐらひは知っていた」は9.3%、「知らなかった」は8.0%となっている。
- DVの経験については、女性の1割強が「DVを受けたことがある」（11.6%）と回答している。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	DVを受けたことがある	DVをしたことがある	自分自身の経験はないが、身近で見聞きしたことがある	1～3のような経験はない	無回答
合計	1100 100.0	80 7.3	19 1.7	244 22.2	709 64.5	48 4.4
男性	472 100.0	8 1.7	14 3.0	100 21.2	325 68.9	25 5.3
女性	619 100.0	72 11.6	5 0.8	142 22.9	379 61.2	21 3.4

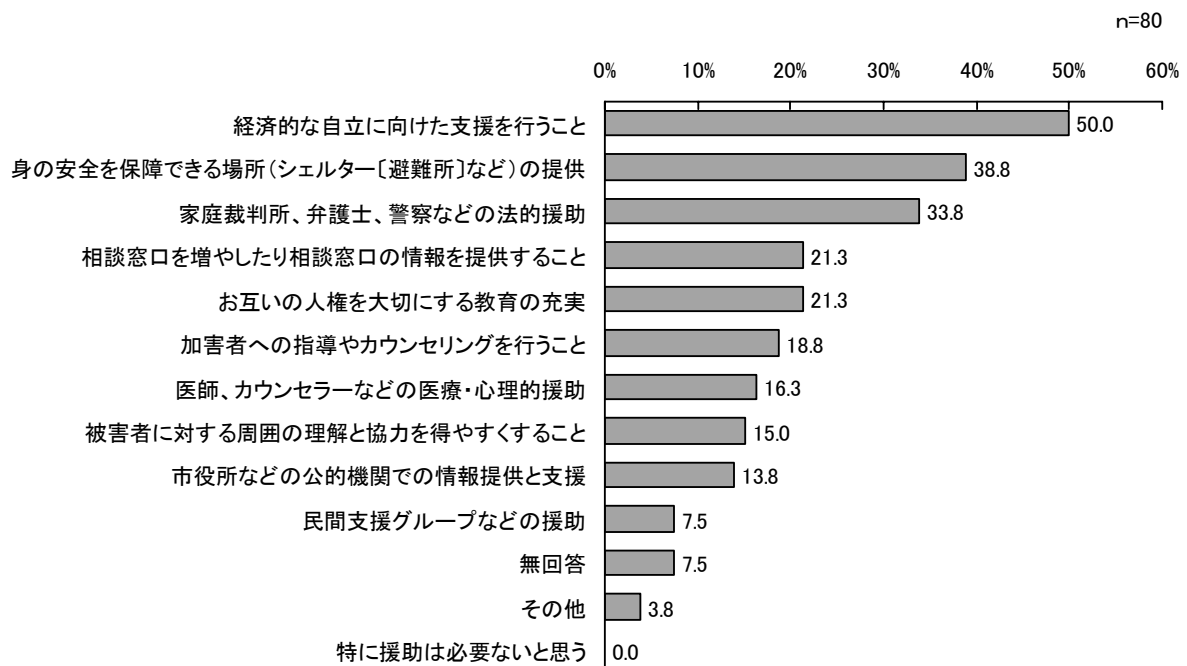
- 「DVを受けたことがある」と回答した人のDVの内容については、「大声でどなるなど、言葉の暴力」（70.0%）が7割を占め最も多く、次いで、「治療は必要でないくらいの暴行」（33.8%）、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」（30.0%）が多くなっている。

【DVの内容（「DVを受けたことがある」と回答した人）】



- DVを受けたことがある人に、誰に相談したかをきいたところ、「家族・親族」(33.8%)が最も多く、次いで、「誰にも相談しなかった」(28.8%)が3割弱となっており、以下、「友人・知人」(23.8%)、「医師、カウンセラーなど」(11.3%)と続いている。
- DV被害に対する有効な援助については、「身の安全を保障できる場所(シェルター〔避難所〕など)の提供」(50.1%)が最も多く、以下、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」(44.5%)、「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」(35.8%)、「経済的な自立に向けた支援を行うこと」(33.0%)と続いている。
- 「DVを受けたことがある」と回答した人の考える有効な援助は、「経済的な自立に向けた支援を行うこと」(50.0%)が最も多く、以下、「身の安全を保障できる場所(シェルター〔避難所〕など)の提供」(38.8%)、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」(33.8%)と続いている。

【DV被害に対する有効な援助（「DVを受けたことがある」と回答した人）】



6 地域活動などについて

- 地域活動等への参加状況は、「参加していない」(43.6%)が4割強を占め最も多く、以下、「町会や自治会、商店会などの地域活動」(24.0%)、「趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動」(21.4%)、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」(15.2%)と続いている。

性別にみると、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」と「趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動」は女性の割合が男性に比べて、それぞれ11.9ポイント、6.6ポイント上回っている。また、男性は「参加してない」(49.2%)が約半数を占めている。

【性別（選択肢抜粋）】

上段：人 下段：%	保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動	趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動	参加していない
合計	167 15.2	235 21.4	480 43.6
男性	40 8.5	84 17.8	232 49.2
女性	126 20.4	151 24.4	244 39.4

7 「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について

- 市の事業の認知度については、「全てを知らない」(39.7%)が4割を占めており、知っている事業では「戸田公園駅前子育て広場」(28.6%)が最も多く、以下、「戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』」(27.1%)、「とだファミリー・サポート・センター事業」(18.2%)となっている。

性別にみると、いずれの事業も女性の割合が男性に比べて多くなっており、特に「戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』」「男女共同参画情報紙『つばさ』」「とだファミリー・サポート・センター事業」「戸田公園駅前子育て広場」で差が大きくなっている。また、男性は「全てを知らない」(52.8%)が過半数を占めている。

【性別】

上段：人 下段：%	全体	『とだあんさんぶるプラン』	戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』	とだ共同参画フォーラム	男女共同参画情報紙『つばさ』	DV相談	とだファミリー・サポート・センター事業	戸田公園駅前子育て広場	上記の全てを知らない	無回答
合計	1100 100.0	40 3.6	298 27.1	69 6.3	187 17.0	86 7.8	200 18.2	315 28.6	437 39.7	98 8.9
男性	472 100.0	16 3.4	89 18.9	20 4.2	45 9.5	22 4.7	36 7.6	90 19.1	249 52.8	41 8.7
女性	619 100.0	24 3.9	208 33.6	49 7.9	141 22.8	64 10.3	163 26.3	224 36.2	182 29.4	55 8.9

- 『ビリーブ』で力を入れてほしい取り組みは、「特にない」(31.5%)が最も多く、「情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業」(20.3%)、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(20.2%)、「市民・団体活動の支援」(19.1%)が約2割となっている。
- 特に力を入れてほしい施策については、「高齢者や障がいのある人の介護制度の充実」(50.3%)が最も多く、以下、「保育所・学童保育室の充実」(44.5%)、「家庭における子育て支援の充実」(30.8%)、「暴力を受けた場合のシェルター(避難所)の設置」(28.9%)、「就労条件の改善努力」(22.0%)と続いている。

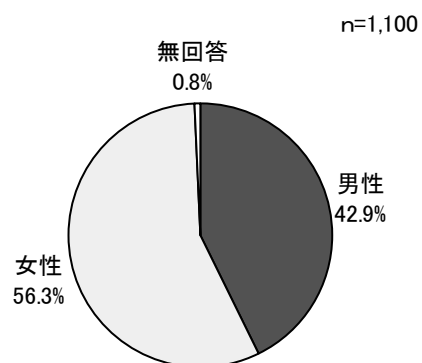
第 3 章 調査結果

1 基本的属性

(1) 性別

F 1 性別は、次のどちらですか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	男性	472	42.9
2	女性	619	56.3
	無回答	9	0.8
	全体	1100	100.0



○ 性別は、男性が42.9%、女性が56.3%となっており、平成19年調査（以下、「前回調査」）（男性36.3%、女性60.3%）に比べてバランスのとれた性別構成比となっている。

【参考】前回調査

No.	選択肢	n	%
1	男性	265	36.3
2	女性	440	60.3
	無回答	25	3.4
	全体	730	100.0

(2) 年齢

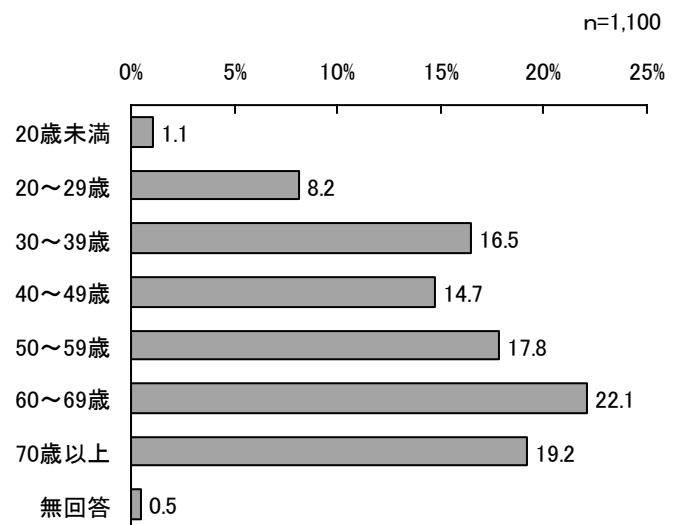
F2 年齢はおいくつですか（平成25年5月1日現在でお答えください）。

（1つだけに○）

No.	選択肢	n	%
1	20歳未満	12	1.1
2	20～29歳	90	8.2
3	30～39歳	181	16.5
4	40～49歳	162	14.7
5	50～59歳	196	17.8
6	60～69歳	243	22.1
7	70歳以上	211	19.2
	無回答	5	0.5
	全体	1100	100.0

○ 年齢は、「60～69歳」（22.1%）が最も多く、以下、「70歳以上」（19.2%）、「50～59歳」（17.8%）と続いており、「60歳以上」が4割強を占めている。

なお、前回調査では「30～39歳」（26.0%）が最も多く、以下、「40～49歳」（21.4%）、「50～59歳」（15.1%）となっており、回答者の年齢構成比に変化がみられる。



【性別】

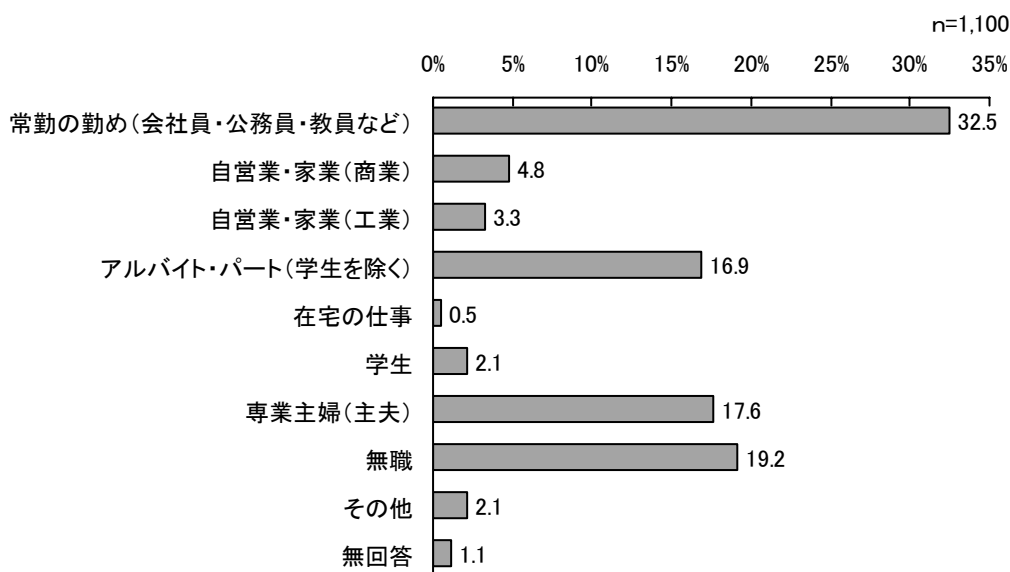
	全体	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
合計	1100 100.0	12 1.1	90 8.2	181 16.5	162 14.7	196 17.8	243 22.1	211 19.2	5 0.5
男性	472 100.0	5 1.1	38 8.1	62 13.1	65 13.8	78 16.5	117 24.8	107 22.7	0 0.0
女性	619 100.0	7 1.1	51 8.2	119 19.2	97 15.7	118 19.1	126 20.4	101 16.3	0 0.0

○ 性別にみると、男性、女性ともに「60～69歳」が最も多くなっており、男性においては約4分の1を占めている。

(3) 職業

F3 職業をお答えください。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)	357	32.5
2	自営業・家業(商業)	53	4.8
3	自営業・家業(工業)	36	3.3
4	アルバイト・パート(学生を除く)	186	16.9
5	在宅の仕事	5	0.5
6	学生	23	2.1
7	専業主婦(主夫)	194	17.6
8	無職	211	19.2
9	その他	23	2.1
	無回答	12	1.1
	全体	1100	100.0



○ 職業は、「常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)」(32.5%)が最も多く、以下、「無職」(19.2%)、「専業主婦(主夫)」(17.6%)と続いている。

【性別】

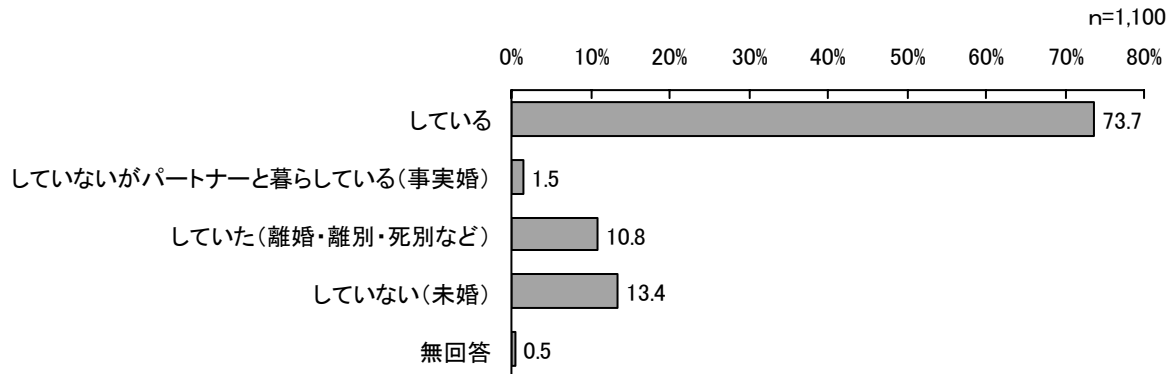
	全体	常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)	自営業・家業(商業)	自営業・家業(工業)	アルバイト・パート(学生を除く)	在宅の仕事	学生	専業主婦(主夫)	無職	その他	無回答
合計	1100 100.0	357 32.5	53 4.8	36 3.3	186 16.9	5 0.5	23 2.1	194 17.6	211 19.2	23 2.1	12 1.1
男性	472 100.0	227 48.1	28 5.9	21 4.4	32 6.8	3 0.6	13 2.8	0 0.0	132 28.0	13 2.8	3 0.6
女性	619 100.0	130 21.0	24 3.9	15 2.4	154 24.9	2 0.3	9 1.5	194 31.3	76 12.3	10 1.6	5 0.8

○ 性別にみると、男性は、「常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)」(48.1%)が約半数を占めており、以下、「無職」(28.0%)と続いている。女性は「専業主婦」(31.3%)が最も多く、次いで、「アルバイト・パート」(24.9%)、「常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)」(21.0%)となっている。

(4) 結婚等の状況

F 4 結婚していますか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	している	811	73.7
2	していないがパートナーと暮らしている(事実婚)	17	1.5
3	していた(離婚・離別・死別など)	119	10.8
4	していない(未婚)	147	13.4
	無回答	6	0.5
	全体	1100	100.0



○ 結婚等の状況は、「している」(73.7%) が約4分の3を占めており、「していない(未婚)」が13.4%、「していた(離婚・離別・死別など)」が10.8%、「していないがパートナーと暮らしている(事実婚)」が1.5%となっている。

【年齢別】

	全体	している	していないがパートナーと暮らしている	していた(離婚・離別・死別など)	していない(未婚)	無回答
合計	1100 100.0	811 73.7	17 1.5	119 10.8	147 13.4	6 0.5
20歳未満	12 100.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	10 83.3	0 0.0
20～29歳	90 100.0	30 33.3	6 6.7	1 1.1	53 58.9	0 0.0
30～39歳	181 100.0	136 75.1	4 2.2	7 3.9	34 18.8	0 0.0
40～49歳	162 100.0	134 82.7	2 1.2	8 4.9	18 11.1	0 0.0
50～59歳	196 100.0	165 84.2	0 0.0	17 8.7	14 7.1	0 0.0
60～69歳	243 100.0	190 78.2	3 1.2	36 14.8	14 5.8	0 0.0
70歳以上	211 100.0	154 73.0	1 0.5	50 23.7	4 1.9	2 0.9

○ 年齢別にみると、「している」は「20～29歳」で33.3%、「30～39歳」で75.1%、「40～49歳」で82.7%、「50～59歳」で84.2%となっている。

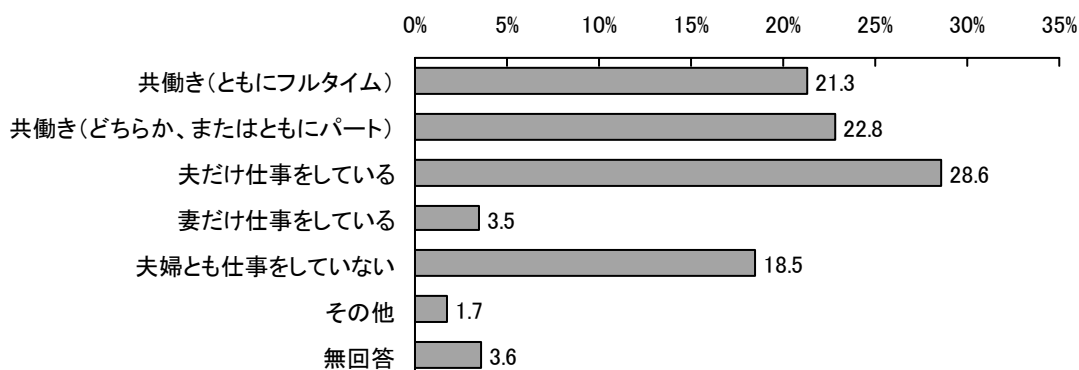
(5) 共働きの状況

F5 【F4で「1」または「2」と答えた方への質問です。】

あなたの世帯は、次のどれに当たりますか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	共働き(ともにフルタイム)	176	21.3
2	共働き(どちらか、またはともにパート)	189	22.8
3	夫だけ仕事をしている	237	28.6
4	妻だけ仕事をしている	29	3.5
5	夫婦とも仕事をしていない	153	18.5
6	その他	14	1.7
	無回答	30	3.6
	非該当	272	
	全体	828	100.0

n=828



- 共働きの状況は、「夫だけ仕事をしている」(28.6%)が最も多く、次いで、「共働き(どちらか、またはともにパート)」(22.8%)、「共働き(ともにフルタイム)」(21.3%)、「夫婦とも仕事をしていない」(18.5%)となっている。

前回調査(「共働き(ともにフルタイム)」19.5%、「共働き(どちらか、またはともにパート)」20.4%、「夫だけ仕事をしている」37.5%)と比較すると、「共働き」は4.2ポイント増加し、「夫だけ仕事をしている」は8.9ポイント減少している。

【年齢別】

	全体	共働き(ともにフルタイム)	共働き(どちらか、またはともにパート)	夫だけ仕事をしている	妻だけ仕事をしている	夫婦とも仕事をしていない	その他	無回答
合計	828 100.0	176 21.3	189 22.8	237 28.6	29 3.5	153 18.5	14 1.7	30 3.6
20歳未満	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
20~29歳	36 100.0	18 50.0	5 13.9	12 33.3	0 0.0	1 2.8	0 0.0	0 0.0
30~39歳	140 100.0	47 33.6	31 22.1	59 42.1	1 0.7	0 0.0	1 0.7	1 0.7
40~49歳	136 100.0	39 28.7	53 39.0	41 30.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 2.2
50~59歳	165 100.0	36 21.8	68 41.2	46 27.9	5 3.0	4 2.4	0 0.0	6 3.6
60~69歳	193 100.0	30 15.5	27 14.0	58 30.1	15 7.8	50 25.9	3 1.6	10 5.2
70歳以上	155 100.0	5 3.2	5 3.2	20 12.9	8 5.2	97 62.6	10 6.5	10 6.5

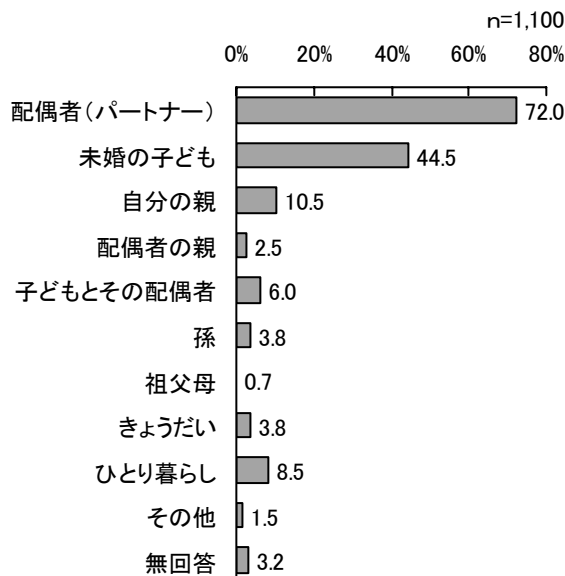
- 年齢別にみると、「20~29歳」は「共働き(ともにフルタイム)」が半数、「30~39歳」は「夫だけ仕事をしている」が4割強、「40~59歳」は「共働き(どちらか、またはともにパート)」が4割前後で最も多くなっている。

(6) 同居の家族等

F 6 あなたと同居している家族等は、次のうちどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	配偶者（パートナー）	792	72.0
2	未婚の子ども	489	44.5
3	自分の親	115	10.5
4	配偶者の親	28	2.5
5	子どもとその配偶者	66	6.0
6	孫	42	3.8
7	祖父母	8	0.7
8	きょうだい	42	3.8
9	ひとり暮らし	93	8.5
10	その他	17	1.5
	無回答	35	3.2
	全体	1100	100.0



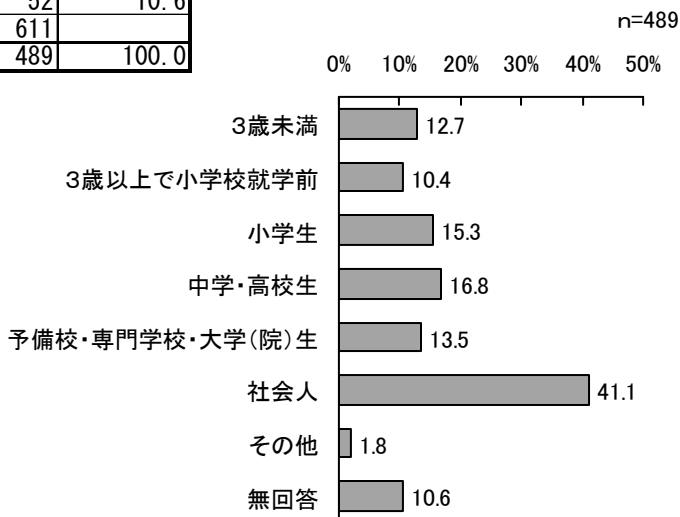
- 同居の家族等は、「配偶者（パートナー）」が72.0%となっており、次いで、「未婚の子ども」が44.5%、「自分の親」が10.5%、「ひとり暮らし」が8.5%となっている。

(7) 子どもの年齢

F 7 【F6で「2 未婚の子ども」と答えた方への質問です。】

あなたのお子さんは、次のどれに当たりますか。（あてはまるものすべてに○）

No.	選択肢	n	%
1	3歳未満	62	12.7
2	3歳以上で小学校就学前	51	10.4
3	小学生	75	15.3
4	中学・高校生	82	16.8
5	予備校・専門学校・大学（院）生	66	13.5
6	社会人	201	41.1
7	その他	9	1.8
	無回答	52	10.6
	非該当	611	
	全体	489	100.0



- 子どもの年齢は、「社会人」が41.1%で最も多く、次いで、「中学・高校生」が16.8%、「小学生」が15.3%となっている。

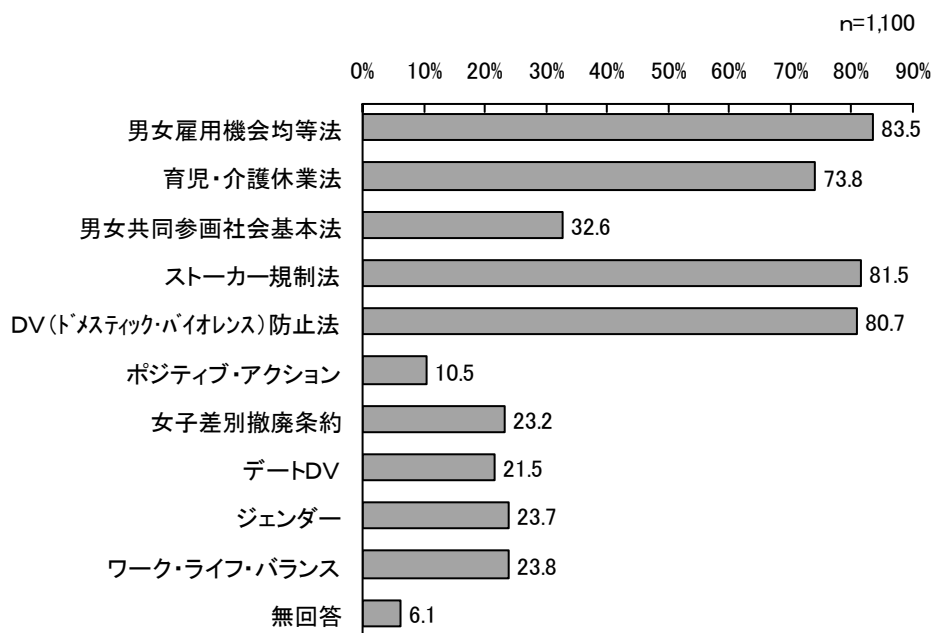
2 男女のあり方をめぐるさまざまな問題について

(1) 用語の認知度

問1 次の用語をあなたは聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○、およびその内容まで知っているものには◎)

◆聞いたことがある

No.	選択肢	n	%
1	男女雇用機会均等法	918	83.5
2	育児・介護休業法	812	73.8
3	男女共同参画社会基本法	359	32.6
4	ストーカー規制法	896	81.5
5	DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法	888	80.7
6	ポジティブ・アクション	115	10.5
7	女子差別撤廃条約	255	23.2
8	デートDV	237	21.5
9	ジェンダー	261	23.7
10	ワーク・ライフ・バランス	262	23.8
	無回答	67	6.1
	全体	1100	100.0



○ 用語の認知度は、「男女雇用機会均等法」(83.5%)が最も多く、以下、「ストーカー規制法」(81.5%)、「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法」(80.7%)、「育児・介護休業法」(73.8%)と続いている。

前回調査と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス」(23.8%)は前回調査(11.9%)に比べて11.9ポイント増加し、「育児・介護休業法」(73.8%)は前回調査(81.5%)に比べて7.7ポイント減少している。

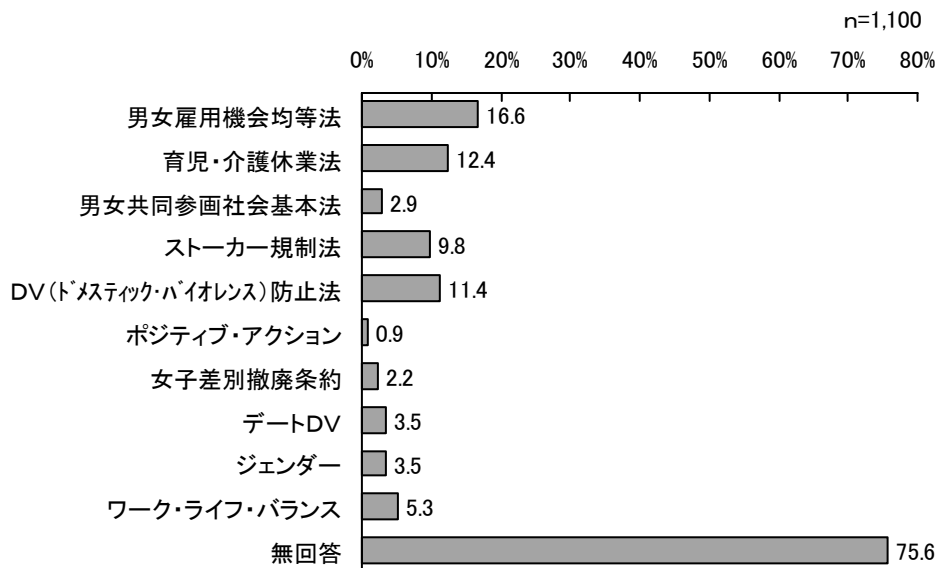
【性別】

	全体	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	男女共同参画社会基本法	ストーカー規制法	DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法	ポジティブ・アクション	女子差別撤廃条約	デートDV	ジェンダー	ワーク・ライフ・バランス	無回答
合計	1100 100.0	918 83.5	812 73.8	359 32.6	896 81.5	888 80.7	115 10.5	255 23.2	237 21.5	261 23.7	262 23.8	67 6.1
男性	472 100.0	407 86.2	341 72.2	173 36.7	385 81.6	366 77.5	46 9.7	105 22.2	74 15.7	93 19.7	118 25.0	26 5.5
女性	619 100.0	509 82.2	469 75.8	185 29.9	509 82.2	519 83.8	67 10.8	148 23.9	162 26.2	167 27.0	143 23.1	35 5.7

- 性別にみると、男性は「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」などの割合が女性に比べて多く、女性は「育児・介護休業法」「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」「デートDV」「ジェンダー」などの割合が男性に比べて多くなっている。

◆おおよその内容まで知っている

No.	選択肢	n	%
1	男女雇用機会均等法	183	16.6
2	育児・介護休業法	136	12.4
3	男女共同参画社会基本法	32	2.9
4	ストーカー規制法	108	9.8
5	DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法	125	11.4
6	ポジティブ・アクション	10	0.9
7	女子差別撤廃条約	24	2.2
8	デートDV	38	3.5
9	ジェンダー	39	3.5
10	ワーク・ライフ・バランス	58	5.3
	無回答	832	75.6
	全体	1100	100.0

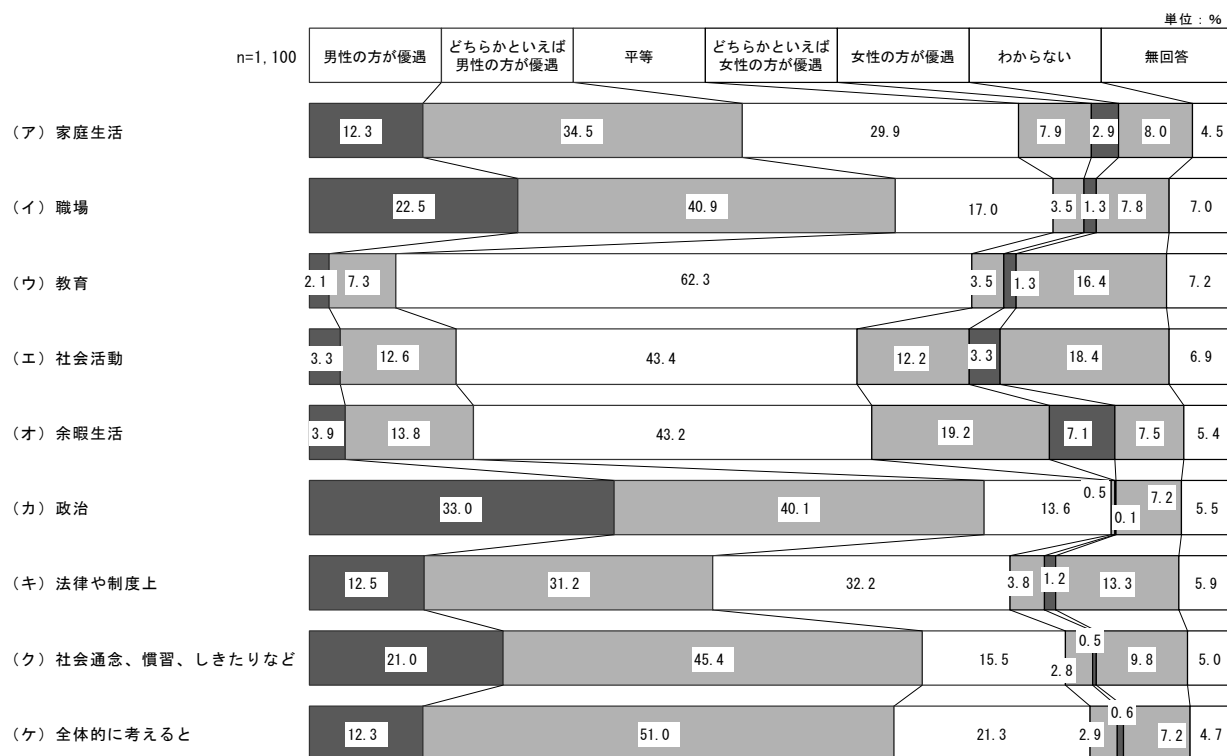


- 用語について、おおよその内容まで知っているものは、「男女雇用機会均等法」（16.6%）が最も多く、以下、「育児・介護休業法」（12.4%）、「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」（11.4%）と続いている。

前回調査と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス」（3.4%）が1.9ポイントの微増、「男女共同参画社会基本法」（2.9%）がほぼ同率であった以外は減少しており、特に、「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」（11.4%）は前回調査（20.5%）に比べて9.1ポイントの減少となっている。

(2) 各分野の男女の地位に関する意識

問2 あなたは、次の(ア)～(ケ)に挙げる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ1つずつに○)



○ 各分野の男女の地位について、「平等」との回答が最も多い分野は「教育」(62.3%)となっている。また、最も少ない分野は「政治」(13.6%)となっており、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計(73.1%)が7割強を占めている。

「女性の方が優遇」と「どちらかといえば女性の方が優遇」の合計が「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計を上回っている分野は「余暇生活」のみとなっており、「全体的に考えると」では、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計(63.3%)が6割強を占めている。

前回と比較すると、「平等」との回答が「法律や制度上」「社会通念、慣習、しきたりなど」「全体的に考えると」で増加しており、それぞれ4.9ポイント、4.3ポイント、3.5ポイントの増加となっている。

【性別】

(ア) 家庭生活

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	135 12.3	380 34.5	329 29.9	87 7.9	32 2.9	88 8.0	49 4.5
男性	472 100.0	34 7.2	135 28.6	180 38.1	44 9.3	21 4.4	38 8.1	20 4.2
女性	619 100.0	101 16.3	243 39.3	149 24.1	42 6.8	11 1.8	49 7.9	24 3.9

- 家庭生活について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計（55.6%）が過半数を占めているのに対し、男性は「平等」（38.1%）が4割弱を占め最も多くなっている。

(イ) 職場

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	248 22.5	450 40.9	187 17.0	38 3.5	14 1.3	86 7.8	77 7.0
男性	472 100.0	83 17.6	192 40.7	95 20.1	24 5.1	9 1.9	35 7.4	34 7.2
女性	619 100.0	164 26.5	256 41.4	91 14.7	14 2.3	5 0.8	51 8.2	38 6.1

- 職場について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」（26.5%）が男性（17.6%）に比べて8.9ポイント多く、男性は「平等」（20.1%）が女性（14.7%）に比べて5.4ポイント多くなっている。

(ウ) 教育（おもに学校教育の場で）

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	23 2.1	80 7.3	685 62.3	39 3.5	14 1.3	180 16.4	79 7.2
男性	472 100.0	9 1.9	29 6.1	308 65.3	19 4.0	7 1.5	64 13.6	36 7.6
女性	619 100.0	14 2.3	51 8.2	373 60.3	20 3.2	7 1.1	116 18.7	38 6.1

- 教育について性別にみると、他の分野と比べると男性と女性の意識の差は小さくなっており、「平等」が男性（65.3%）で6割台半ば、女性（60.3%）も約6割を占めている。

(エ) 社会生活（地域活動・ボランティア・PTAなど）

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	36 3.3	139 12.6	477 43.4	134 12.2	36 3.3	202 18.4	76 6.9
男性	472 100.0	12 2.5	37 7.8	236 50.0	57 12.1	21 4.4	77 16.3	32 6.8
女性	619 100.0	24 3.9	100 16.2	241 38.9	77 12.4	15 2.4	123 19.9	39 6.3

- 社会生活について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計（20.1%）が男性（10.3%）に比べて9.8ポイント多く、男性は「平等」（50.0%）が女性（38.9%）に比べて11.1ポイント多くなっている。

(オ) 余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	43 3.9	152 13.8	475 43.2	211 19.2	78 7.1	82 7.5	59 5.4
男性	472 100.0	11 2.3	60 12.7	218 46.2	87 18.4	34 7.2	37 7.8	25 5.3
女性	619 100.0	32 5.2	91 14.7	256 41.4	123 19.9	43 6.9	45 7.3	29 4.7

- 余暇生活について性別にみると、男性、女性ともに「女性の方が優遇」と「どちらかといえば女性の方が優遇」の合計が「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計よりも多くなっている。

(カ) 政治

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	363 33.0	441 40.1	150 13.6	5 0.5	1 0.1	79 7.2	61 5.5
男性	472 100.0	130 27.5	193 40.9	93 19.7	2 0.4	1 0.2	29 6.1	24 5.1
女性	619 100.0	232 37.5	246 39.7	56 9.0	3 0.5	0 0.0	50 8.1	32 5.2

- 政治について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」（37.5%）が男性（27.5%）に比べて10.0ポイント多く、男性は「平等」（19.7%）が女性（9.0%）に比べて10.7ポイント多くなっている。

(キ) 法律や制度上

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	137 12.5	343 31.2	354 32.2	42 3.8	13 1.2	146 13.3	65 5.9
男性	472 100.0	38 8.1	131 27.8	197 41.7	24 5.1	11 2.3	48 10.2	23 4.9
女性	619 100.0	99 16.0	210 33.9	155 25.0	18 2.9	2 0.3	98 15.8	37 6.0

- 法律や制度上について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計 (49.9%) が男性 (35.9%) に比べて 14.0 ポイント多く、男性は「平等」 (41.7%) が女性 (25.0%) に比べて 16.7 ポイント多くなっている。

(ク) 社会通念、慣習、しきたりなど

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	231 21.0	499 45.4	171 15.5	31 2.8	5 0.5	108 9.8	55 5.0
男性	472 100.0	68 14.4	226 47.9	98 20.8	15 3.2	1 0.2	44 9.3	20 4.2
女性	619 100.0	162 26.2	271 43.8	73 11.8	16 2.6	4 0.6	63 10.2	30 4.8

- 社会通念、慣習、しきたりなどについて性別にみると、男性は「平等」 (20.8%) が女性 (11.8%) に比べて 9.0 ポイント多くなっている。「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計は女性 (70.0%) が男性 (62.3%) に比べて 7.7 ポイント多く、さらに、「男性の方が優遇」は 11.8 ポイントの差がある。

(ケ) 全体的に考えると

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
合計	1100 100.0	135 12.3	561 51.0	234 21.3	32 2.9	7 0.6	79 7.2	52 4.7
男性	472 100.0	37 7.8	232 49.2	129 27.3	20 4.2	6 1.3	26 5.5	22 4.7
女性	619 100.0	98 15.8	326 52.7	105 17.0	12 1.9	1 0.2	52 8.4	25 4.0

- 全体について性別にみると、女性は「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計 (68.5%) が男性 (57.0%) に比べて 11.5 ポイント多く、男性は「平等」 (27.3%) が女性 (17.0%) に比べて 10.3 ポイント多くなっている。

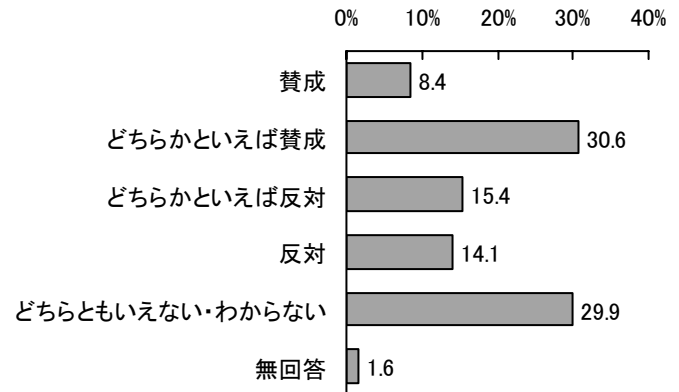
(3) 性別役割分担意識

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見にいちばん近いものはどれですか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	賛成	92	8.4
2	どちらかといえば賛成	337	30.6
3	どちらかといえば反対	169	15.4
4	反対	155	14.1
5	どちらともいえない・わからない	329	29.9
	無回答	18	1.6
	全体	1100	100.0

n=1,100

○ 性別役割分担意識については、“肯定派”(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が39.0%、“否定派”(「反対」+「どちらかといえば反対」)が29.5%となっており、“肯定派”が“否定派”を上回っている。前回調査と比較すると、“否定派”が6.8ポイントの減少となっている。



【性別・年齢別】

	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	どちらとも いえない・ わからない	無回答
合計	1100 100.0	92 8.4	337 30.6	169 15.4	155 14.1	329 29.9	18 1.6
男性	472 100.0	48 10.2	169 35.8	56 11.9	55 11.7	137 29.0	7 1.5
女性	619 100.0	42 6.8	164 26.5	113 18.3	99 16.0	191 30.9	10 1.6
20歳未満	12 100.0	1 8.3	6 50.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	0 0.0
20～29歳	90 100.0	5 5.6	28 31.1	12 13.3	23 25.6	21 23.3	1 1.1
30～39歳	181 100.0	14 7.7	45 24.9	28 15.5	38 21.0	55 30.4	1 0.6
40～49歳	162 100.0	12 7.4	35 21.6	29 17.9	26 16.0	60 37.0	0 0.0
50～59歳	196 100.0	14 7.1	52 26.5	37 18.9	28 14.3	59 30.1	6 3.1
60～69歳	243 100.0	16 6.6	87 35.8	36 14.8	27 11.1	75 30.9	2 0.8
70歳以上	211 100.0	30 14.2	81 38.4	25 11.8	12 5.7	56 26.5	7 3.3

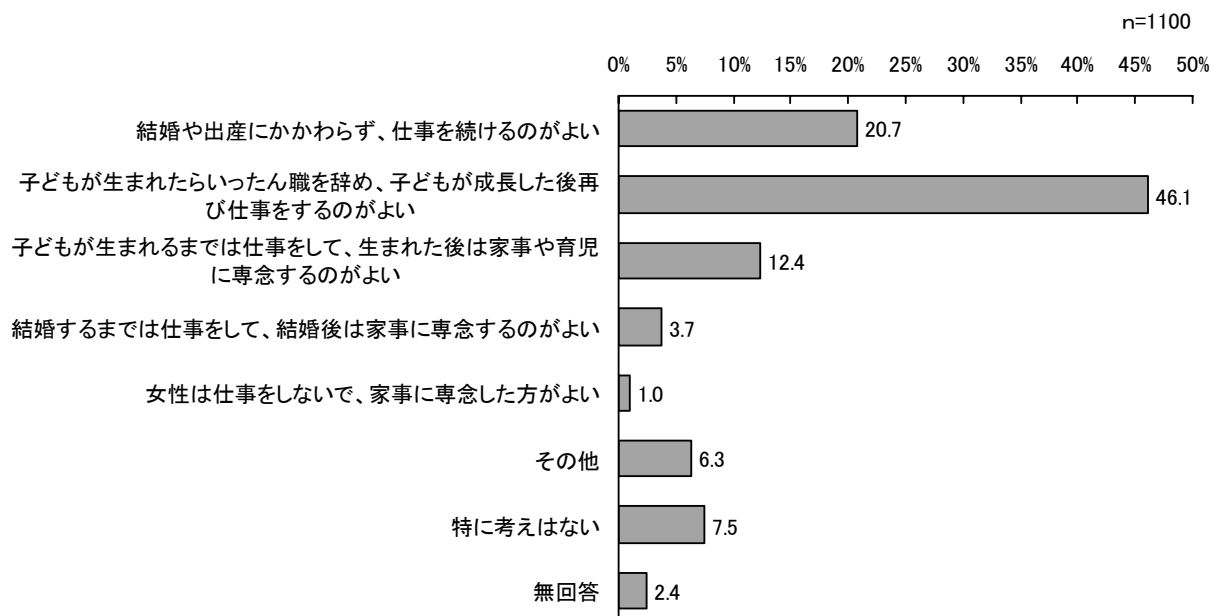
○ 性別にみると、“肯定派”は男性(46.0%)が女性(33.3%)に比べて12.7ポイント多く、“否定派”は女性(34.3%)が男性(23.6%)に比べて10.7ポイント多くなっている。

年齢別にみると、「60～69歳」と「70歳以上」で“肯定派”が“否定派”をそれぞれ16.5ポイント、35.1ポイント上回っており、「30～39歳」と「40～49歳」では“否定派”が“肯定派”をそれぞれ3.9ポイント、4.9ポイント上回っている。また、「20～29歳」では、“否定派”(38.9%)が4割弱と“30～59歳”に比べて多くなっており、“肯定派”(36.7%)をやや上回っている。

(4) 女性の働き方についての考え

問4 女性の働き方について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるのがよい (職業継続型)	228	20.7
2	子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び仕事をするのがよい(中断再就職型)	507	46.1
3	子どもが生まれるまでは仕事をして、生まれた後は家事や育児に専念するのがよい(出産退職型)	136	12.4
4	結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念するのがよい(結婚退職型)	41	3.7
5	女性は仕事をしないで、家事に専念した方がよい (専業主婦型)	11	1.0
6	その他	69	6.3
7	特に考えはない	82	7.5
	無回答	26	2.4
	全体	1100	100.0



○ 女性の働き方についての考えは、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び仕事をするのがよい」(46.1%)が最も多く、以下、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるのがよい」(20.7%)、「子どもが生まれるまでは仕事をして、生まれた後は家事や育児に専念するのがよい」(12.4%)と続いている。

【性別・年齢別】

	全体	職業継続型	中断再就職型	出産退職型	結婚退職型	専業主婦型	その他	特に考えはない	無回答
合計	1100 100.0	228 20.7	507 46.1	136 12.4	41 3.7	11 1.0	69 6.3	82 7.5	26 2.4
男性	472 100.0	95 20.1	193 40.9	76 16.1	25 5.3	7 1.5	21 4.4	43 9.1	12 2.5
女性	619 100.0	132 21.3	311 50.2	59 9.5	14 2.3	4 0.6	48 7.8	38 6.1	13 2.1
20歳未満	12 100.0	2 16.7	7 58.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0
20～29歳	90 100.0	18 20.0	40 44.4	6 6.7	3 3.3	1 1.1	8 8.9	13 14.4	1 1.1
30～39歳	181 100.0	55 30.4	66 36.5	15 8.3	7 3.9	0 0.0	23 12.7	12 6.6	3 1.7
40～49歳	162 100.0	39 24.1	81 50.0	10 6.2	5 3.1	2 1.2	13 8.0	11 6.8	1 0.6
50～59歳	196 100.0	47 24.0	98 50.0	17 8.7	7 3.6	1 0.5	11 5.6	10 5.1	5 2.6
60～69歳	243 100.0	47 19.3	120 49.4	35 14.4	4 1.6	2 0.8	10 4.1	21 8.6	4 1.6
70歳以上	211 100.0	20 9.5	93 44.1	51 24.2	14 6.6	5 2.4	4 1.9	13 6.2	11 5.2

- 性別にみると、女性は「中断再就職型」（50.2%）が男性（40.9%）に比べて 9.3 ポイント多く、男性は「出産退職型」（16.1%）が女性（9.5%）に比べて 6.6 ポイント多くなっている。

年齢別にみると、「30～39歳」は「職業継続型」（30.4%）が約3割と他の年齢層に比べて多くなっており、「40～69歳」では「中断再就職型」が半数を占めているほか、「60歳以上」は「出産退職型」が他の年齢層に比べて多くなっている。

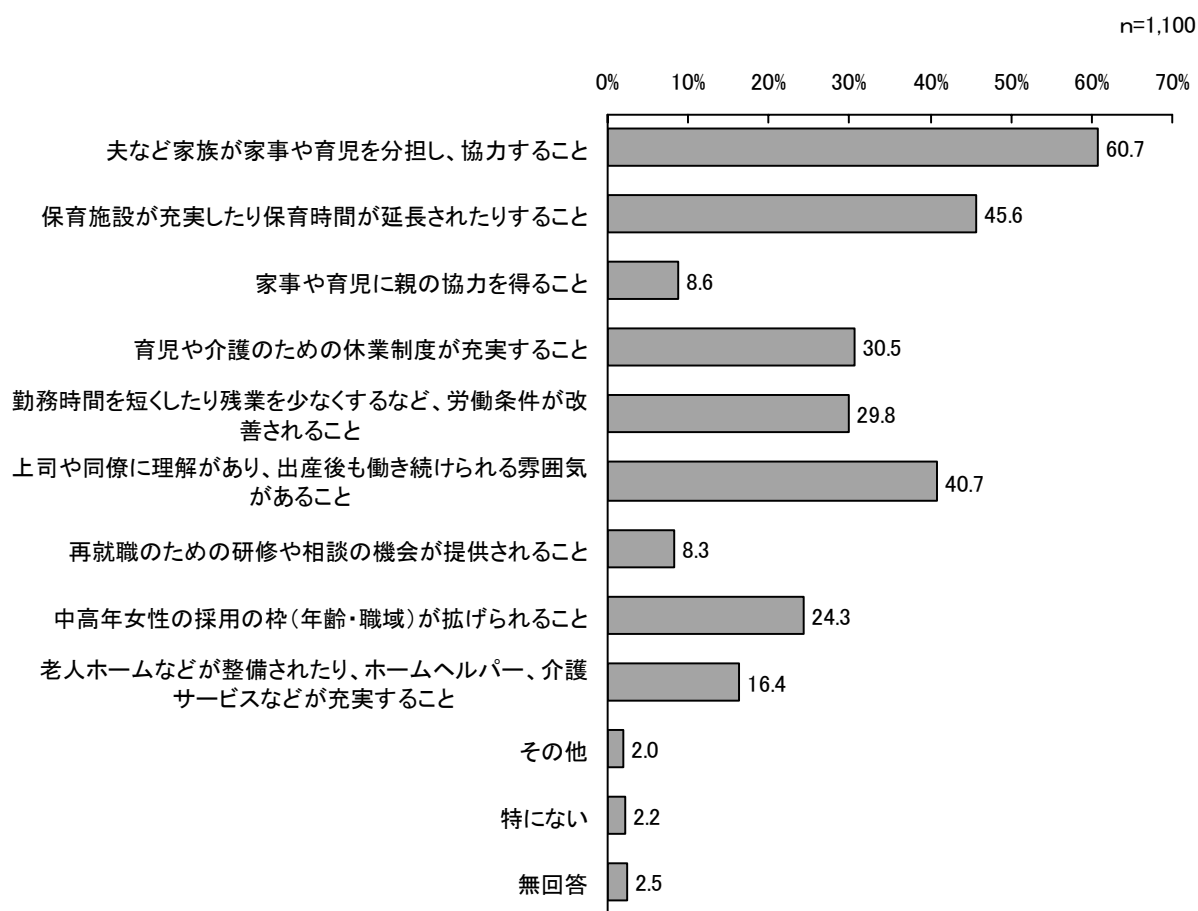
前回調査と比較すると、「20～29歳」で「職業継続型」が 10.4 ポイント減少、「特に考えはない」が 13.1 ポイント増加となっており、考えに変化がみられる。

(5) 女性が働き続けたり、再就職するために必要なこと

問5 女性が働き続けたり、再就職するために特に必要だと思うものは何ですか。

(3つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること	668	60.7
2	保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること	502	45.6
3	家事や育児に親の協力を得ること	95	8.6
4	育児や介護のための休業制度が充実すること	336	30.5
5	勤務時間を短くしたり残業を少なくするなど、労働条件が改善されること	328	29.8
6	上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること	448	40.7
7	再就職のための研修や相談の機会が提供されること	91	8.3
8	中高年女性の採用の枠(年齢・職域)が広がられること	267	24.3
9	老人ホームなどが整備されたり、ホームヘルパー、介護サービスなどが充実すること	180	16.4
10	その他	22	2.0
11	特にない	24	2.2
	無回答	27	2.5
	全体	1100	100.0



○ 女性が働き続けたり、再就職するために必要なことは、「夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること」(60.7%)が最も多く、以下、「保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること」(45.6%)、「上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること」(40.7%)と続いている。

【性別】

	全体	夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること	保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること	家事や育児に親の協力を得ること	育児や介護のための休業制度が充実すること	勤務時間を短くしたり残業を少なくするなど、労働条件が改善されること	上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること	再就職のための研修や相談の機会が提供されること	中高年女性の採用の枠（年齢・職域）が拡げられること	老人ホームなどが整備されたり、ホームヘルパー、介護サービスなどが充実すること	その他	特になし	無回答
合計	1100 100.0	668 60.7	502 45.6	95 8.6	336 30.5	328 29.8	448 40.7	91 8.3	267 24.3	180 16.4	22 2.0	24 2.2	27 2.5
男性	472 100.0	258 54.7	240 50.8	48 10.2	161 34.1	130 27.5	186 39.4	42 8.9	90 19.1	71 15.0	10 2.1	19 4.0	12 2.5
女性	619 100.0	404 65.3	259 41.8	47 7.6	174 28.1	197 31.8	258 41.7	48 7.8	177 28.6	105 17.0	12 1.9	5 0.8	14 2.3

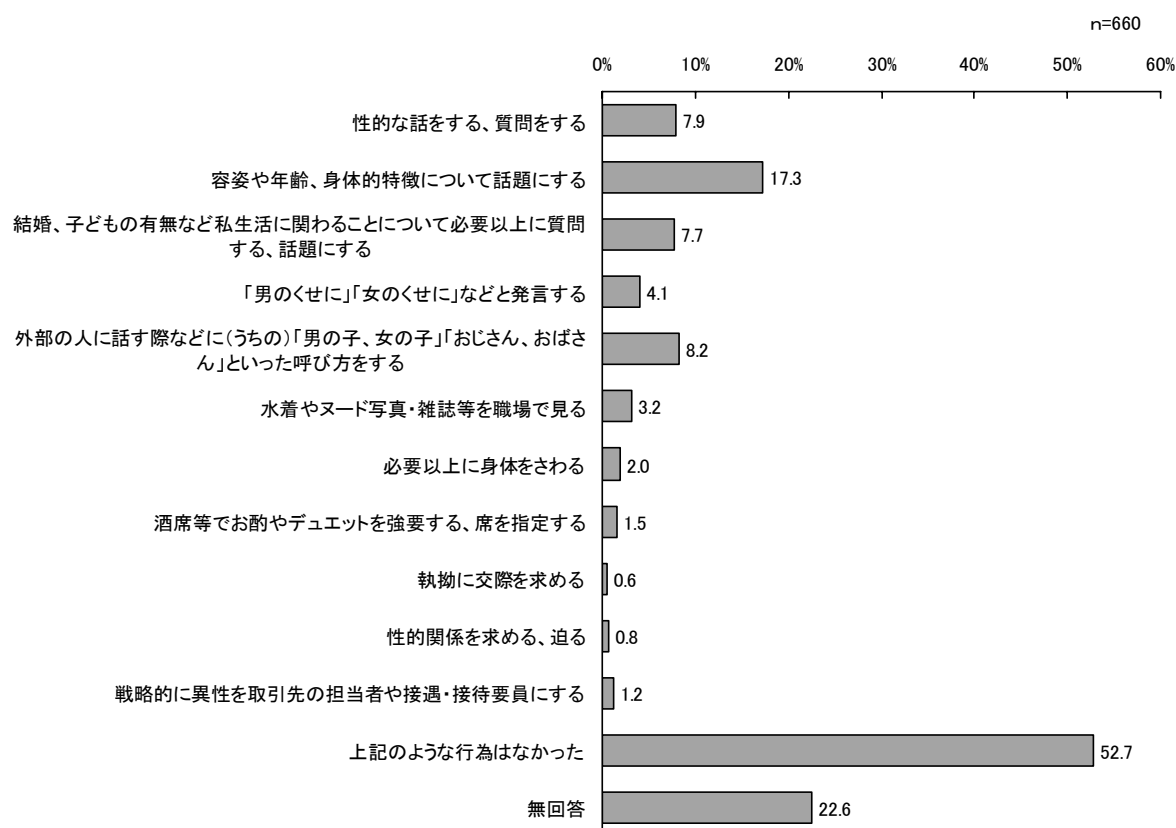
- 性別にみると、男性、女性ともに「夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること」が最も多くなっているが、女性（65.3%）は男性（54.7%）に比べて10.6ポイント多くなっていることに注意が必要である。男性は「保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること」と「育児や介護のための休業制度が充実すること」が女性に比べてそれぞれ9.0ポイント、6.0ポイント多くなっており、公共サービスや制度の充実が必要と考えていることがわかる。また、女性は「中高年女性の採用の枠（年齢・職域）が拡げられること」が男性に比べて9.5ポイント多くなっている。

(6) 職場におけるセクシュル・ハラスメント

問6 「セクシュアル・ハラスメント」についての質問です。あなたの職場では次に掲げるような行為が、過去1年以内にありましたか。(あてはまるものすべてに○)

*現在何らかの形で仕事に就いている方(パートやアルバイト、契約社員などを含む)への質問

No.	選択肢	n	%
1	性的な話をする、質問をする	52	7.9
2	容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	114	17.3
3	結婚、子どもの有無など私生活に関わることに必要以上に質問する、話題にする	51	7.7
4	「男のくせに」「女のくせに」などと発言する	27	4.1
5	外部の人に話す際に(うちの)「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする	54	8.2
6	水着やヌード写真・雑誌等を職場で見る	21	3.2
7	必要以上に身体をさわる	13	2.0
8	酒席等でお酌やデュエットを強要する、席を指定する	10	1.5
9	執拗に交際を求める	4	0.6
10	性的関係を求める、迫る	5	0.8
11	戦略的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	8	1.2
12	上記のような行為はなかった	348	52.7
	無回答	149	22.6
	非該当	440	
	全体	660	100.0



○ 現在何らかの形で仕事に就いている人に、セクシュアル・ハラスメントについてきいたところ、「なかった」(52.7%)との回答が最も多くなっているが、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」(17.3%)、「外部の人に話す際に(うちの)『男の子、女の子』『おじさん、おばさん』といった呼び方をする」(8.2%)、「性的な話をする、質問をする」(7.9%)などの回答もみられる。

【年齢別】＊選択肢抜粋

	全体	性的な話をす る、質問をする	容姿や年齢、身 体的特徴につい て話題にする	結婚、子どもの 有無など私生活 に関わることに ついて必要以上 に質問する、話 題にする
合計	660 100.0	52 7.9	114 17.3	51 7.7
20～29歳	65 100.0	15 23.1	18 27.7	5 7.7
30～39歳	136 100.0	18 13.2	37 27.2	18 13.2
40～49歳	136 100.0	11 8.1	28 20.6	17 12.5
50～59歳	157 100.0	6 3.8	22 14.0	8 5.1
60～69歳	120 100.0	2 1.7	9 7.5	3 2.5
70歳以上	43 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

○ 年齢別にみると、「20～29歳」は「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」が27.7%、「性的な話をする、質問をする」が23.1%と多くなっている。

「30～39歳」は「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」が27.2%、「性的な話をする、質問をする」と「結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問する、話題にする」がともに13.2%と多くなっている。

「40～49歳」は「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」が20.6%、「結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問する、話題にする」が12.5%と多くなっている。

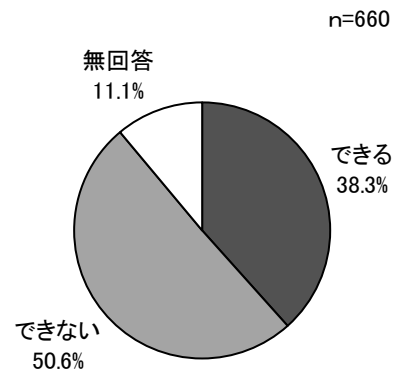
「50～59歳」は「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」が14.0%と多くなっている。

(7) 育児・介護休業制度利用の可否

問7 あなたに育児や介護が必要な家族がいた場合、法律で定められた休業制度を利用することができますか。(1つだけに○)

*現在何らかの形で仕事に就いている方(パートやアルバイト、契約社員などを含む。)への質問

No.	選択肢	n	%
1	できる	253	38.3
2	できない	334	50.6
	無回答	73	11.1
	非該当	440	
	全体	660	100.0



○ 現在何らかの形で仕事に就いている人に、育児・介護休業制度利用の可否についてきいたところ、「できない」(50.6%)が過半数を占めており、「できる」(38.3%)を12.3ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、「できない」が3.1ポイント増加している。

【参考】前回調査

No.	選択肢	n	%
1	できる	169	37.7
2	できない	213	47.5
	無回答	66	14.7
	非該当	282	
	全体	730	100.0

○ 性別にみると、男性、女性ともに「できない」が「できる」を上回っており、「できる」は女性(40.6%)が男性(36.1%)に比べて4.5ポイント多くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど「できる」との回答が多くなっている。

【性別・年齢別】

	全体	できる	できない	無回答
合計	660 100.0	253 38.3	334 50.6	73 11.1
男性	324 100.0	117 36.1	161 49.7	46 14.2
女性	335 100.0	136 40.6	173 51.6	26 7.8
20歳未満	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
20~29歳	65 100.0	39 60.0	22 33.8	4 6.2
30~39歳	136 100.0	68 50.0	64 47.1	4 2.9
40~49歳	136 100.0	50 36.8	84 61.8	2 1.5
50~59歳	157 100.0	50 31.8	93 59.2	14 8.9
60~69歳	120 100.0	33 27.5	60 50.0	27 22.5
70歳以上	43 100.0	11 25.6	11 25.6	21 48.8

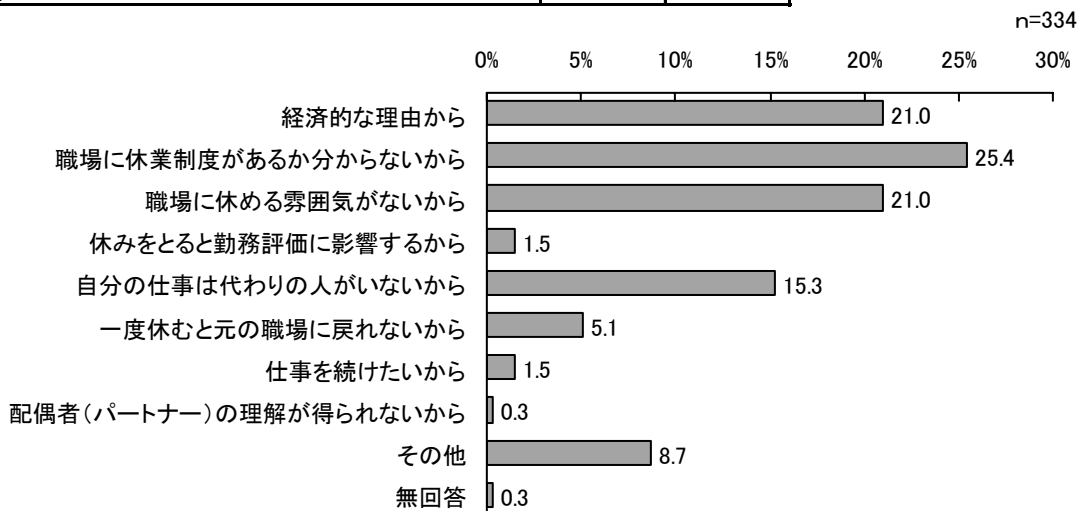
(8) 育児・介護休業制度を利用できない理由

問7-1 【問7で「2 できない」と答えた方への質問です。】

休業制度を利用することができないのは、どのような理由からですか。

(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	経済的な理由から	70	21.0
2	職場に休業制度があるか分からないから	85	25.4
3	職場に休める雰囲気がないから	70	21.0
4	休みをとると勤務評価に影響するから	5	1.5
5	自分の仕事は代わりの人がいないから	51	15.3
6	一度休むと元の職場に戻れないから	17	5.1
7	仕事を続けたいから	5	1.5
8	配偶者(パートナー)の理解が得られないから	1	0.3
9	その他	29	8.7
	無回答	1	0.3
	非該当	766	
	全体	334	100.0



- 育児・介護休業制度を利用できない人にその理由をきいたところ、「職場に休業制度があるか分からないから」(25.4%)が最も多く、以下、「経済的な理由から」(21.0%)、「職場に休める雰囲気がないから」(21.0%)、「自分の仕事は代わりの人がいないから」(15.3%)と続いている。

【性別】

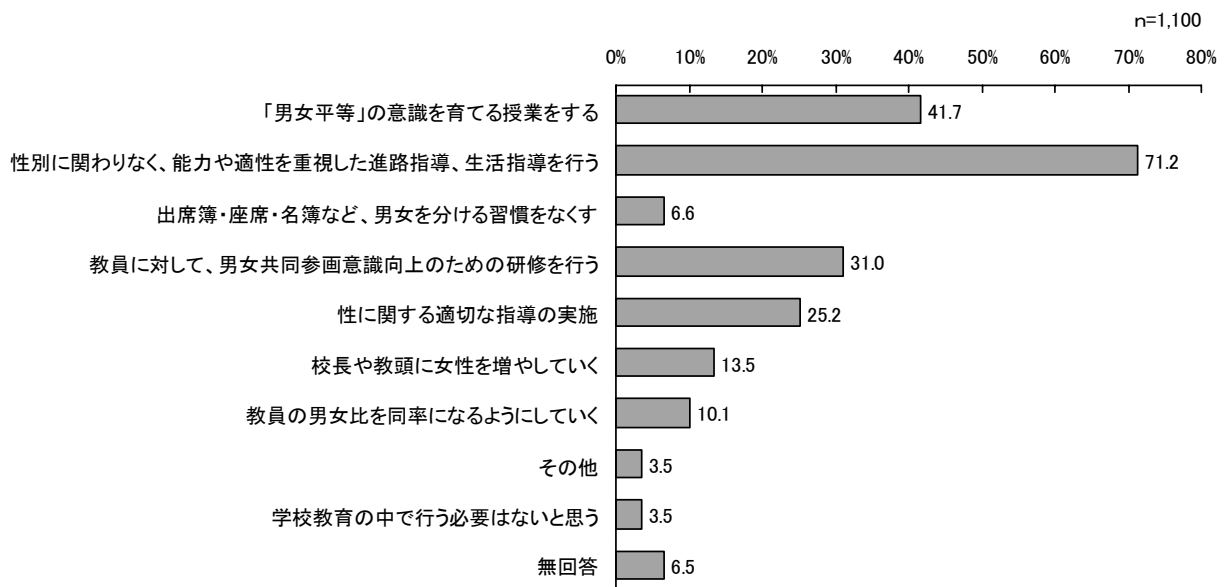
	全体	経済的な理由から	職場に休業制度があるか分からないから	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると勤務評価に影響するから	自分の仕事は代わりの人がいないから	一度休むと元の職場に戻れないから	仕事を続けたいから	配偶者(パートナー)の理解が得られないから	その他	無回答
合計	334 100.0	70 21.0	85 25.4	70 21.0	5 1.5	51 15.3	17 5.1	5 1.5	1 0.3	29 8.7	1 0.3
男性	161 100.0	33 20.5	33 20.5	40 24.8	4 2.5	32 19.9	3 1.9	3 1.9	0 0.0	12 7.5	1 0.6
女性	173 100.0	37 21.4	52 30.1	30 17.3	1 0.6	19 11.0	14 8.1	2 1.2	1 0.6	17 9.8	0 0.0

- 性別にみると、男性は「職場に休める雰囲気がないから」と「自分の仕事は代わりの人がいないから」が女性に比べて、それぞれ7.5ポイント、8.9ポイント多く、女性は「職場に休業制度があるか分からないから」と「一度休むと元の職場に戻れないから」が男性に比べて、それぞれ9.6ポイント、6.2ポイント多くなっている。

(9) 小中学校で特に力を入れてほしいこと

問8 あなたが、市内の小中学校における「男女共同参画の視点に立った教育」を推進する上で特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(3つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	「男女平等」の意識を育てる授業をする	459	41.7
2	性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う	783	71.2
3	出席簿・座席・名簿など、男女を分ける習慣をなくす	73	6.6
4	教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う	341	31.0
5	性に関する適切な指導の実施	277	25.2
6	校長や教頭に女性を増やしていく	148	13.5
7	教員の男女比を同率になるようにしていく	111	10.1
8	その他	39	3.5
9	学校教育の中で行う必要はないと思う	39	3.5
	無回答	72	6.5
	全体	1100	100.0



○ 学校において力をいれてほしいことについては、「性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う」(71.2%)が7割強を占め圧倒的に多くなっており、次いで、「『男女平等』の意識を育てる授業をする」(41.7%)、「教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う」(31.0%)となっている。

【性別】

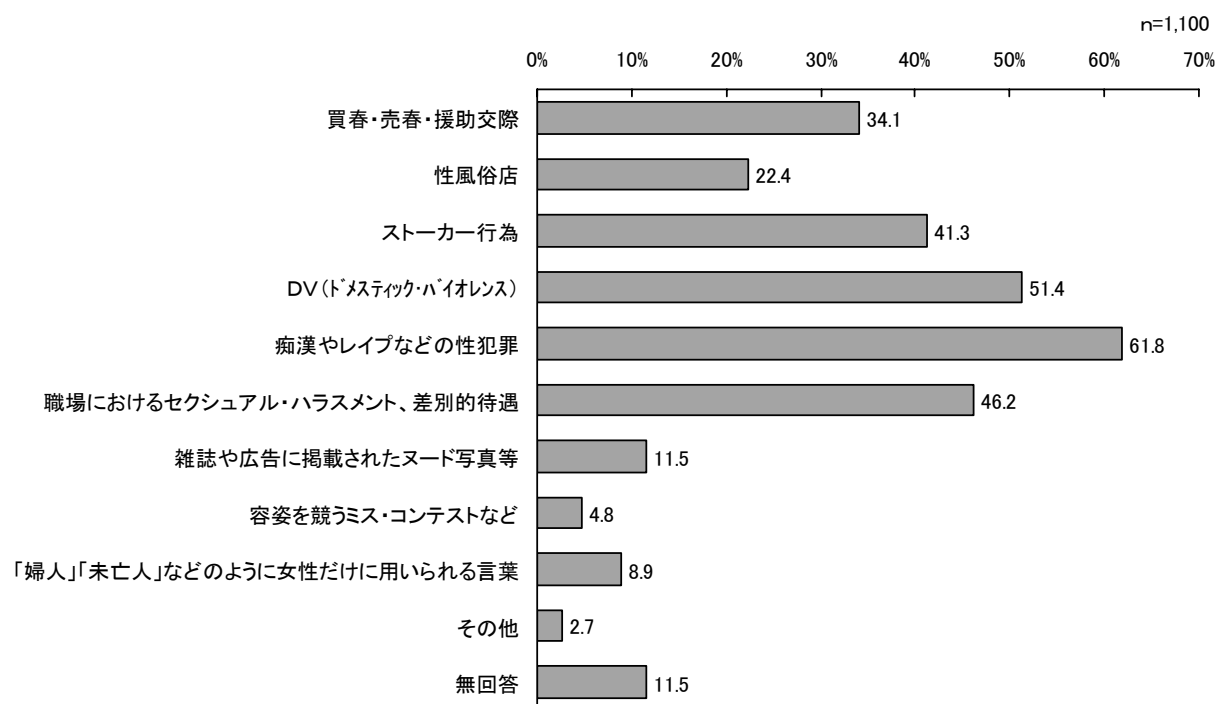
	全体	「男女平等」の意識を育てる授業をする	性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う	出席簿・座席など、男女を分ける習慣をなくす	教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う	性に関する適切な指導の実施	校長や教頭に女性を増やしていく	教員の男女比を同率になるようにしていく	その他	学校教育の中で行う必要はないと思う	無回答
合計	1100 100.0	459 41.7	783 71.2	73 6.6	341 31.0	277 25.2	148 13.5	111 10.1	39 3.5	39 3.5	72 6.5
男性	472 100.0	205 43.4	312 66.1	40 8.5	156 33.1	100 21.2	68 14.4	43 9.1	22 4.7	22 4.7	34 7.2
女性	619 100.0	250 40.4	466 75.3	33 5.3	181 29.2	175 28.3	80 12.9	67 10.8	17 2.7	17 2.7	36 5.8

○ 性別にみると、女性は「性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う」(75.3%)が男性(66.1%)に比べて9.2ポイント多くなっている。

(10) 「女性の人権が侵害されている」と感じることから

問9 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	買春・売春・援助交際	375	34.1
2	性風俗店	246	22.4
3	ストーカー行為	454	41.3
4	DV(ドメスティック・バイオレンス)	565	51.4
5	痴漢やレイプなどの性犯罪	680	61.8
6	職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	508	46.2
7	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	126	11.5
8	容姿を競うミス・コンテストなど	53	4.8
9	「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	98	8.9
10	その他	30	2.7
	無回答	127	11.5
	全体	1100	100.0



○ 「女性の人権が侵害されている」と感じることは、「痴漢やレイプなどの性犯罪」(61.8%)が最も多く、以下、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(51.4%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」(46.2%)、「ストーカー行為」(41.3%)と続いている。

【参考】前回調査

No.	選択肢	n	%
1	買春・売春・援助交際	270	37.0
2	風俗店	183	25.1
3	ストーカー行為	260	35.6
4	夫や恋人からの暴力	329	45.1
5	痴漢やレイプなどの性的犯罪	523	71.6
6	職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	379	51.9
7	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	116	15.9
8	容姿を競うミス・コンテストなど	47	6.4
9	「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	88	12.1
10	その他	18	2.5
	無回答	63	8.6
	全体	730	100.0

- 前回調査と比較すると、「DV（ドメスティック・バイレンス）」（*前回調査では「夫や恋人からの暴力」）が6.3ポイント増加、「痴漢やレイプなどの性的犯罪」と「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」がそれぞれ9.8ポイント、5.7ポイント減少となっている。

【性別】

	全体	買春・売春・援助交際	性風俗店	ストーカー行為	DV（ドメスティック・バイレンス）	痴漢やレイプなどの性的犯罪	職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	容姿を競うミス・コンテストなど	「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	その他	無回答
合計	1100 100.0	375 34.1	246 22.4	454 41.3	565 51.4	680 61.8	508 46.2	126 11.5	53 4.8	98 8.9	30 2.7	127 11.5
男性	472 100.0	143 30.3	90 19.1	203 43.0	219 46.4	267 56.6	198 41.9	43 9.1	26 5.5	30 6.4	15 3.2	66 14.0
女性	619 100.0	229 37.0	154 24.9	249 40.2	341 55.1	409 66.1	306 49.4	80 12.9	26 4.2	68 11.0	15 2.4	58 9.4

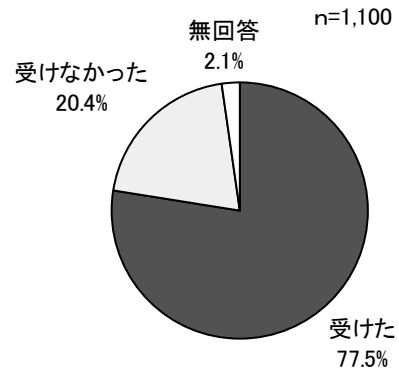
- 性別にみると、男性、女性ともに「痴漢やレイプなどの性犯罪」が最も多く、次いで、「DV（ドメスティック・バイレンス）」が多くなっているが、多くの選択肢で女性の割合が男性に比べて多くなっている。

3 結婚や家族、生活などのことについて

(1) 健診、検診の受診状況

問 10 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	受けた	853	77.5
2	受けなかった	224	20.4
	無回答	23	2.1
	全体	1100	100.0



- 健診、検診の受診状況について、「受けた」(77.5%)が8割弱、「受けなかった」(20.4%)が約2割となっており、「受けた」は前回調査(73.2%)に比べて4.3ポイント多くなっている。

【性別】

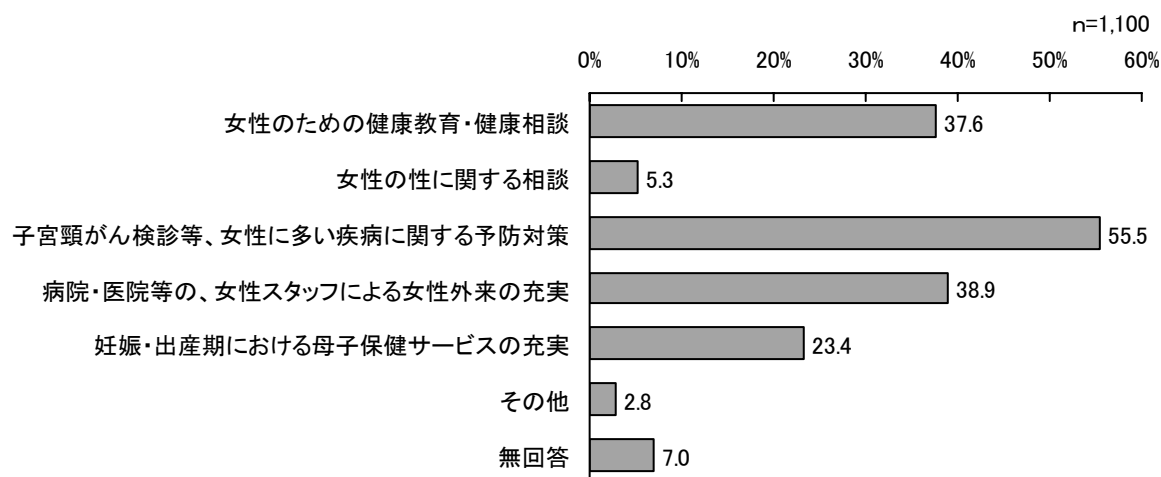
	全体	受けた	受けな かった	無回答
合計	1100 100.0	853 77.5	224 20.4	23 2.1
男性	472 100.0	391 82.8	70 14.8	11 2.3
女性	619 100.0	456 73.7	153 24.7	10 1.6

- 性別にみると、「受けた」との回答は男性が82.8%、女性が73.7%となっており、女性の割合が男性に比べて9.1ポイント少なくなっている。

(2) 女性の健康を支援するために必要なこと

問 11 あなたは、女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。
(2つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	女性のための健康教育・健康相談	414	37.6
2	女性の性に関する相談	58	5.3
3	子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	610	55.5
4	病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実	428	38.9
5	妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	257	23.4
6	その他	31	2.8
	無回答	77	7.0
	全体	1100	100.0



○ 女性の健康を支援するために必要なことは、「子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」(55.5%)が最も多く、以下、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」(38.9%)、「女性のための健康教育・健康相談」(37.6%)と続いている。

【性別】

	全体	女性のための健康教育・健康相談	女性の性に関する相談	子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実	妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	その他	無回答
合計	1100 100.0	414 37.6	58 5.3	610 55.5	428 38.9	257 23.4	31 2.8	77 7.0
男性	472 100.0	196 41.5	24 5.1	263 55.7	148 31.4	121 25.6	10 2.1	41 8.7
女性	619 100.0	215 34.7	34 5.5	343 55.4	276 44.6	135 21.8	21 3.4	33 5.3

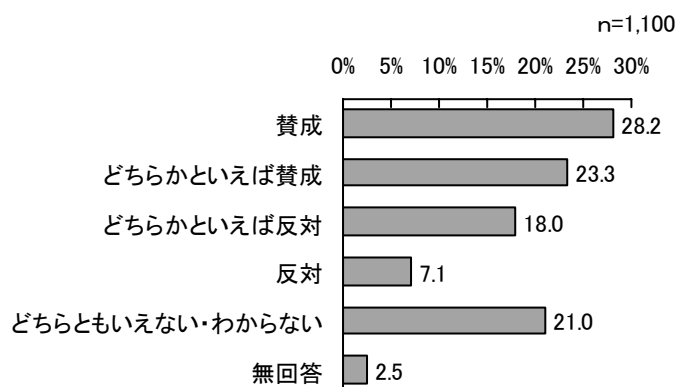
○ 女性自身の回答は、全体と同様に「子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」(55.4%)が過半数を占め最も多く、次いで、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」(44.6%)も4割台半ばを占め多くなっている。

(3) 結婚観

問 12 「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	賛成	310	28.2
2	どちらかといえば賛成	256	23.3
3	どちらかといえば反対	198	18.0
4	反対	78	7.1
5	どちらともいえない・わからない	231	21.0
	無回答	27	2.5
	全体	1100	100.0

○ 「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方については、“肯定派”(「賛成」28.2%+「どちらかといえば賛成」23.3%)が51.5%で過半数を占めており、“否定派”(「どちらかといえば反対」18.0%+「反対」7.1%)を26.4ポイント上回っている。



【性別・年齢別】

	全体	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	どちらと もいえない・わか らない	無回答
合計	1100 100.0	310 28.2	256 23.3	198 18.0	78 7.1	231 21.0	27 2.5
男性	472 100.0	111 23.5	92 19.5	103 21.8	52 11.0	102 21.6	12 2.5
女性	619 100.0	197 31.8	163 26.3	93 15.0	26 4.2	128 20.7	12 1.9
20歳未満	12 100.0	7 58.3	4 33.3	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0
20～29歳	90 100.0	42 46.7	21 23.3	11 12.2	5 5.6	11 12.2	0 0.0
30～39歳	181 100.0	79 43.6	39 21.5	20 11.0	6 3.3	36 19.9	1 0.6
40～49歳	162 100.0	42 25.9	44 27.2	25 15.4	6 3.7	44 27.2	1 0.6
50～59歳	196 100.0	61 31.1	42 21.4	43 21.9	9 4.6	39 19.9	2 1.0
60～69歳	243 100.0	44 18.1	66 27.2	52 21.4	21 8.6	54 22.2	6 2.5
70歳以上	211 100.0	34 16.1	39 18.5	47 22.3	31 14.7	45 21.3	15 7.1

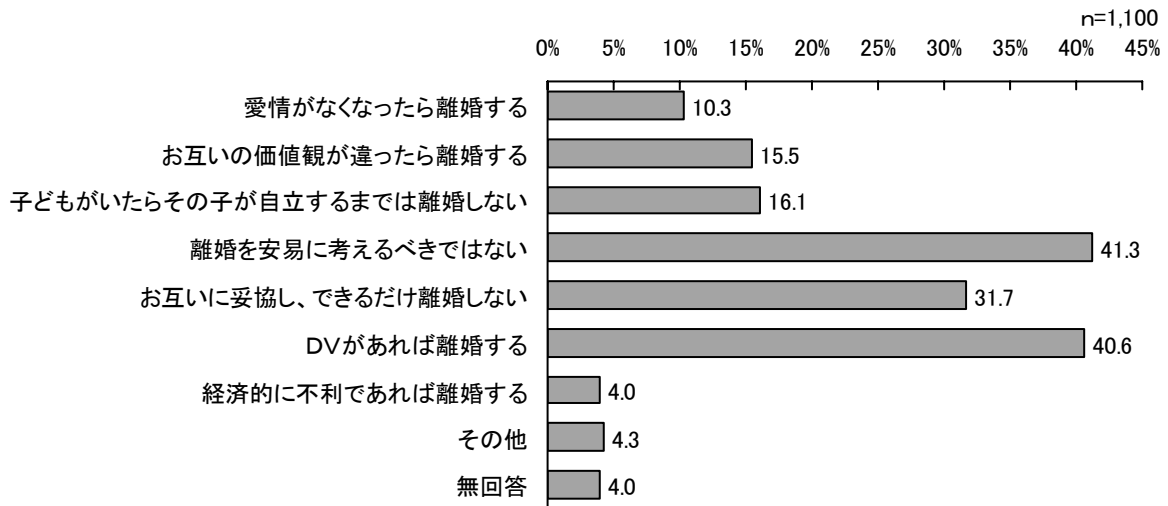
○ 性別にみると、男性は“否定派”(32.8%)の割合が女性(19.2%)に比べて13.6ポイント多く、女性は“肯定派”(58.1%)の割合が男性(43.0%)に比べて15.1ポイント多くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど“肯定派”が多く、年齢層が高いほど“否定派”が多くなる傾向がみられる。

(4) 離婚についての考え

問 13 あなたは、離婚することについてどう思いますか。(2つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	愛情がなくなったら離婚する	113	10.3
2	お互いの価値観が違ったら離婚する	170	15.5
3	子どもがいたらその子が自立するまでは離婚しない	177	16.1
4	離婚を安易に考えるべきではない	454	41.3
5	お互いに妥協し、できるだけ離婚しない	349	31.7
6	DVがあれば離婚する	447	40.6
7	経済的に不利であれば離婚する	44	4.0
8	その他	47	4.3
	無回答	44	4.0
	全体	1100	100.0



○ 離婚についての考えは、「離婚を安易に考えるべきではない」(41.3%)と「DVがあれば離婚する」(40.6%)が多くなっており、以下、「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」(31.7%)が続いている。

前回調査と比較すると、「DVがあれば離婚する」(*前回調査では「パートナーの性の強要や暴力があれば離婚する」)が7.4ポイント増加している。

【性別】

	全体	愛情がなくなったら離婚する	お互いの価値観が違ったら離婚する	子どもがいたらその子が自立するまでは離婚しない	離婚を安易に考えるべきではない	お互いに妥協し、できるだけ離婚しない	DVがあれば離婚する	経済的に不利であれば離婚する	その他	無回答
合計	1100 100.0	113 10.3	170 15.5	177 16.1	454 41.3	349 31.7	447 40.6	44 4.0	47 4.3	44 4.0
男性	472 100.0	53 11.2	74 15.7	71 15.0	225 47.7	179 37.9	120 25.4	11 2.3	22 4.7	22 4.7
女性	619 100.0	59 9.5	95 15.3	106 17.1	227 36.7	168 27.1	322 52.0	33 5.3	25 4.0	19 3.1

○ 性別にみると、男性は「離婚を安易に考えるべきではない」と「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」の割合が女性に比べてそれぞれ11.0ポイント、10.8ポイント多く、女性は「DVがあれば離婚する」の割合が男性に比べて26.6ポイント多くなっている。

(5) 家事分担の状況

問 14 【現在配偶者またはパートナーと同居している方への質問です。該当しない方は、問 15 へお進みください。】

あなたの家庭では、(ア)～(ク)に掲げる家事を、だれが担当していますか。

(それぞれ1つずつに○)

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
(ア) 食事の準備	792 100.0	599 75.6	104 13.1	38 4.8	11 1.4	13 1.6	9 1.1	18 2.3
(イ) 食事の後片づけ	792 100.0	461 58.2	183 23.1	64 8.1	20 2.5	30 3.8	12 1.5	22 2.8
(ウ) 部屋の掃除	792 100.0	471 59.5	157 19.8	79 10.0	28 3.5	29 3.7	6 0.8	22 2.8
(エ) ふろの掃除	792 100.0	345 43.6	150 18.9	68 8.6	63 8.0	106 13.4	34 4.3	26 3.3
(オ) 洗濯	792 100.0	580 73.2	102 12.9	55 6.9	8 1.0	15 1.9	8 1.0	24 3.0
(カ) 日常の買い物	792 100.0	388 49.0	257 32.4	76 9.6	19 2.4	23 2.9	8 1.0	21 2.7

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	該当者なし	無回答
(キ) 子どもの世話や教育	792 100.0	211 26.6	206 26.0	58 7.3	6 0.8	2 0.3	5 0.6	229 28.9	75 9.5
(ク) 高齢者・病人の介護	792 100.0	96 12.1	71 9.0	34 4.3	8 1.0	8 1.0	6 0.8	489 61.7	80 10.1

○ 家事の担当者については、いずれの分野においても妻が担当しているとの回答が多くなっており、特に、「食事の準備」や「洗濯」では「おもに妻」が約4分の3を占めている。

【性別】

(ア) 食事の準備

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	599 75.6	104 13.1	38 4.8	11 1.4	13 1.6	9 1.1	18 2.3
男性	345 100.0	248 71.9	51 14.8	18 5.2	6 1.7	7 2.0	5 1.4	10 2.9
女性	444 100.0	349 78.6	53 11.9	20 4.5	5 1.1	5 1.1	4 0.9	8 1.8

○ 食事の準備について性別にみると、女性は「おもに妻」(78.6%)が男性(71.9%)に比べて6.7ポイント多くなっている。

(イ) 食事の後片づけ

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	461 58.2	183 23.1	64 8.1	20 2.5	30 3.8	12 1.5	22 2.8
男性	345 100.0	175 50.7	90 26.1	37 10.7	8 2.3	15 4.3	7 2.0	13 3.8
女性	444 100.0	284 64.0	93 20.9	27 6.1	12 2.7	14 3.2	5 1.1	9 2.0

- 食事の後片づけについて性別にみると、男性は「妻が主で夫が協力」(26.1%)が女性(20.9%)に比べて5.2ポイント多く、女性は「おもに妻」(64.0%)が男性(50.7%)に比べて13.3ポイント多くなっている。

(ウ) 部屋の掃除

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	471 59.5	157 19.8	79 10.0	28 3.5	29 3.7	6 0.8	22 2.8
男性	345 100.0	178 51.6	83 24.1	41 11.9	13 3.8	15 4.3	3 0.9	12 3.5
女性	444 100.0	291 65.5	74 16.7	38 8.6	15 3.4	13 2.9	3 0.7	10 2.3

- 部屋の掃除について性別にみると、男性は「妻が主で夫が協力」(24.1%)が女性(16.7%)に比べて7.4ポイント多く、女性は「おもに妻」(65.5%)が男性(51.6%)に比べて13.9ポイント多くなっている。

(エ) ふろの掃除

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	345 43.6	150 18.9	68 8.6	63 8.0	106 13.4	34 4.3	26 3.3
男性	345 100.0	132 38.3	68 19.7	36 10.4	30 8.7	52 15.1	13 3.8	14 4.1
女性	444 100.0	212 47.7	82 18.5	32 7.2	33 7.4	53 11.9	21 4.7	11 2.5

- ふろの掃除について性別にみると、女性は「おもに妻」(47.7%)が男性(38.3%)に比べて9.4ポイント多くなっている。

(オ) 洗濯

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	580 73.2	102 12.9	55 6.9	8 1.0	15 1.9	8 1.0	24 3.0
男性	345 100.0	230 66.7	54 15.7	32 9.3	2 0.6	9 2.6	5 1.4	13 3.8
女性	444 100.0	349 78.6	48 10.8	23 5.2	6 1.4	5 1.1	3 0.7	10 2.3

- 洗濯について性別にみると、男性は「妻が主で夫が協力」(15.7%)が女性(10.8%)に比べて4.9ポイント多く、女性は「おもに妻」(78.6%)が男性(66.7%)に比べて11.9ポイント多くなっている。

(カ) 日常の買い物

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	無回答
合計	792 100.0	388 49.0	257 32.4	76 9.6	19 2.4	23 2.9	8 1.0	21 2.7
男性	345 100.0	152 44.1	118 34.2	39 11.3	8 2.3	13 3.8	3 0.9	12 3.5
女性	444 100.0	236 53.2	138 31.1	37 8.3	11 2.5	9 2.0	5 1.1	8 1.8

- 日常の買い物について性別にみると、女性は「おもに妻」(53.2%)が男性(44.1%)に比べて9.1ポイント多くなっている。

(キ) 子どもの世話や教育

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	該当者なし	無回答
合計	792 100.0	211 26.6	206 26.0	58 7.3	6 0.8	2 0.3	5 0.6	229 28.9	75 9.5
男性	345 100.0	72 20.9	90 26.1	20 5.8	4 1.2	2 0.6	2 0.6	111 32.2	44 12.8
女性	444 100.0	138 31.1	116 26.1	37 8.3	2 0.5	0 0.0	3 0.7	118 26.6	30 6.8

- 子どもの世話や教育について性別にみると、女性は「おもに妻」(31.1%)が男性(20.9%)に比べて10.2ポイント多くなっている。

(ク) 高齢者・病人の介護

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族等	該当者なし	無回答
合計	792 100.0	96 12.1	71 9.0	34 4.3	8 1.0	8 1.0	6 0.8	489 61.7	80 10.1
男性	345 100.0	28 8.1	36 10.4	15 4.3	3 0.9	5 1.4	2 0.6	209 60.6	47 13.6
女性	444 100.0	68 15.3	34 7.7	19 4.3	5 1.1	3 0.7	4 0.9	280 63.1	31 7.0

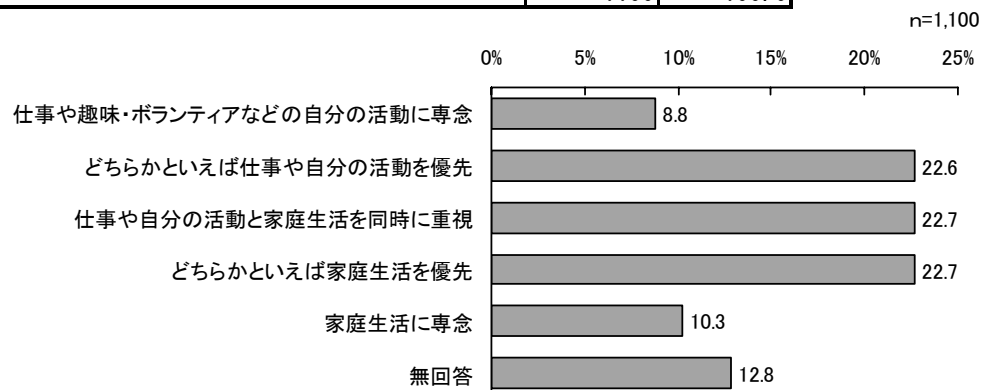
- 高齢者・病人の介護について性別にみると、女性は「おもに妻」(15.3%)が男性(8.1%)に比べて7.2ポイント多くなっている。

(6) 家庭生活についての考え

問 15 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方についてうかがいます。「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。《選択肢》の中からそれぞれについて1つだけ選び、() 内に数字をお書きください。

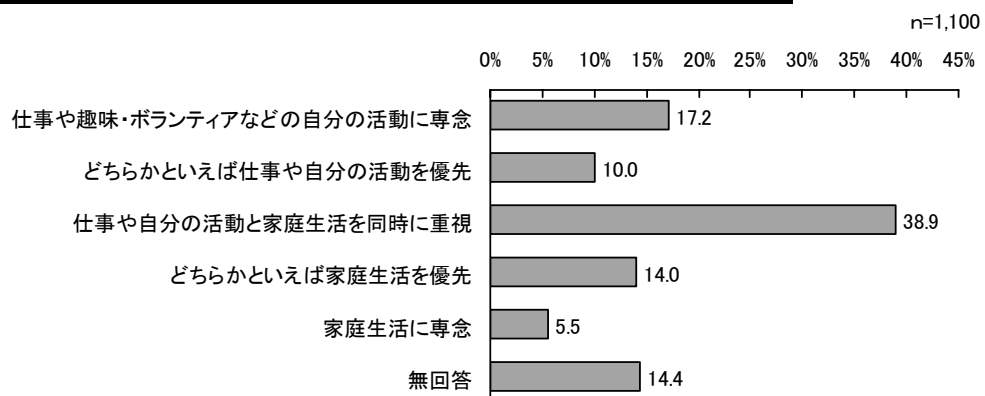
〔現実〕

No.	選択肢	n	%
1	仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念	97	8.8
2	どちらかといえば仕事や自分の活動を優先	249	22.6
3	仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視	250	22.7
4	どちらかといえば家庭生活を優先	250	22.7
5	家庭生活に専念	113	10.3
	無回答	141	12.8
	全体	1100	100.0



〔希望〕

No.	選択肢	n	%
1	仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念	189	17.2
2	どちらかといえば仕事や自分の活動を優先	110	10.0
3	仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視	428	38.9
4	どちらかといえば家庭生活を優先	154	14.0
5	家庭生活に専念	61	5.5
	無回答	158	14.4
	全体	1100	100.0



- 家庭生活についての考えは、希望では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」（38.9%）が4割弱となっているが、現実では22.7%にとどまっており、「どちらかといえば仕事や自分の活動」（現実：22.6%）あるいは「どちらかといえば家庭生活を優先」（現実：22.7%）を優先していることがわかる。また、「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」も希望（17.2%）が現実（8.8%）を上回っている。

【性別】

〔現実〕

	全体	仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念	どちらかといえば仕事や自分の活動を優先	仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視	どちらかといえば家庭生活を優先	家庭生活に専念	無回答
合計	1100 100.0	97 8.8	249 22.6	250 22.7	250 22.7	113 10.3	141 12.8
男性	472 100.0	51 10.8	165 35.0	104 22.0	63 13.3	16 3.4	73 15.5
女性	619 100.0	46 7.4	83 13.4	143 23.1	186 30.0	97 15.7	64 10.3

〔希望〕

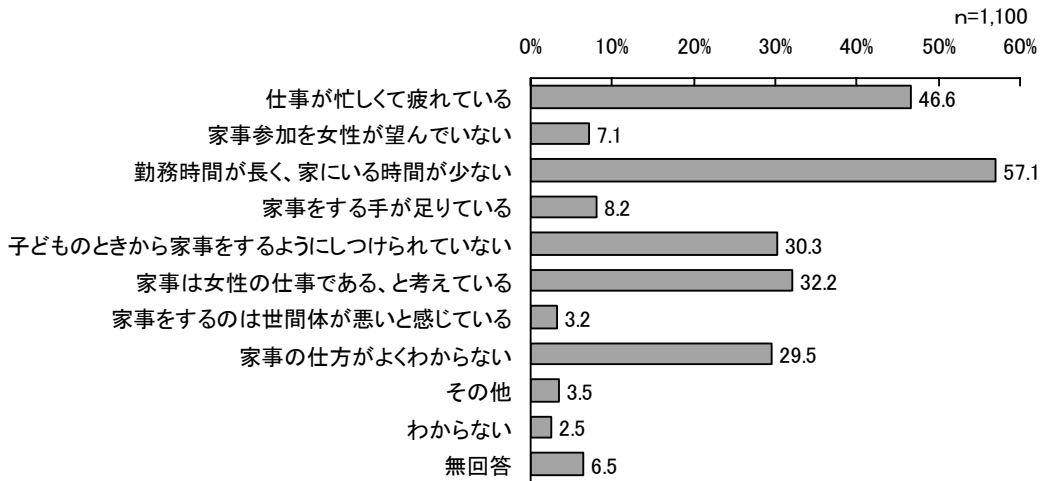
	全体	仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念	どちらかといえば仕事や自分の活動を優先	仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視	どちらかといえば家庭生活を優先	家庭生活に専念	無回答
合計	1100 100.0	189 17.2	110 10.0	428 38.9	154 14.0	61 5.5	158 14.4
男性	472 100.0	77 16.3	37 7.8	175 37.1	80 16.9	18 3.8	85 18.0
女性	619 100.0	109 17.6	73 11.8	251 40.5	73 11.8	43 6.9	70 11.3

- 性別にみると、男性、女性ともに希望は「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が約4割で最も多くなっているが、現実では、男性は「どちらかといえば仕事や自分の活動を優先」(35.0%)が3割台半ば、女性は「どちらかといえば家庭生活を優先」(30.0%)が3割で最も多くなっている。

(7) 男性があまり家事に参加しない理由

問 16 「平成 23 年社会生活基本調査（総務省統計局）」によると、「1日平均の家事関連時間は、女性が3時間35分に対し、男性は42分」となっています。男性があまり家事に参加していないのはなぜだと思いますか。（3つまでに○）

No.	選択肢	n	%
1	仕事が忙しくて疲れている	513	46.6
2	家事参加を女性が望んでいない	78	7.1
3	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	628	57.1
4	家事をする手が足りている	90	8.2
5	子どものときから家事をするようにしつけられていない	333	30.3
6	家事は女性の仕事である、と考えている	354	32.2
7	家事をするのは世間体が悪いと感じている	35	3.2
8	家事の仕方がよくわからない	325	29.5
9	その他	38	3.5
10	わからない	28	2.5
	無回答	72	6.5
	全体	1100	100.0



○ 男性があまり家事に参加しない理由については、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」(57.1%) が最も多く、以下、「仕事が忙しくて疲れている」(46.6%)、「家事は女性の仕事である、と考えている」(32.2%)、「子どものときから家事をするようにしつけられていない」(30.3%)、「家事の仕方がよくわからない」(29.5%) と続いている。

【性別】

	全体	仕事が忙しくて疲れている	家事参加を女性が望んでいない	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	家事をする手が足りている	子どものときから家事をするようにしつけられていない	家事は女性の仕事である、と考えている	家事をするのは世間体が悪いと感じている	家事の仕方がよくわからない	その他	わからない	無回答
合計	1100 100.0	513 46.6	78 7.1	628 57.1	90 8.2	333 30.3	354 32.2	35 3.2	325 29.5	38 3.5	28 2.5	72 6.5
男性	472 100.0	214 45.3	58 12.3	275 58.3	47 10.0	95 20.1	94 19.9	16 3.4	124 26.3	17 3.6	16 3.4	40 8.5
女性	619 100.0	294 47.5	20 3.2	349 56.4	42 6.8	237 38.3	258 41.7	18 2.9	200 32.3	21 3.4	11 1.8	30 4.8

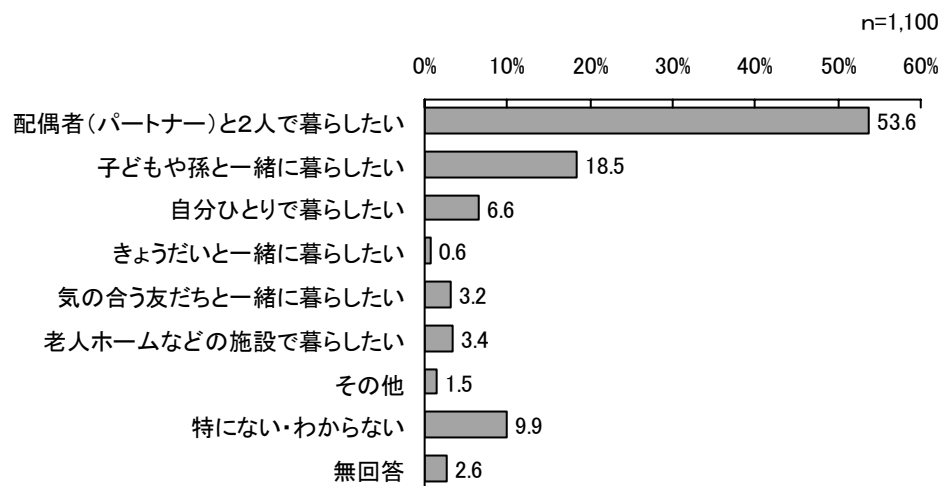
○ 性別にみると、男性は「家事参加を女性が望んでいない」との回答が女性に比べて9.1ポイント多く、女性は「子どものときから家事をするようにしつけられていない」と「家事は女性の仕事である、と考えている」との回答が男性に比べ、それぞれ18.2ポイント、21.8ポイント多くなっている。

4 老後の生活について

(1) 老後を誰と暮らしたいか

問17 あなたは、老後を誰と暮らしたいと思いますか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	配偶者（パートナー）と2人で暮らしたい	590	53.6
2	子どもや孫と一緒に暮らしたい	203	18.5
3	自分ひとりで暮らしたい	73	6.6
4	きょうだいと一緒に暮らしたい	7	0.6
5	気の合う友だちと一緒に暮らしたい	35	3.2
6	老人ホームなどの施設で暮らしたい	37	3.4
7	その他	17	1.5
8	特にない・わからない	109	9.9
	無回答	29	2.6
	全体	1100	100.0



- 老後を誰と暮らしたいかについては、「配偶者（パートナー）と2人で暮らしたい」（53.6%）が過半数を占め最も多く、以下、「子どもや孫と一緒に暮らしたい」（18.5%）が続いている。

【性別】

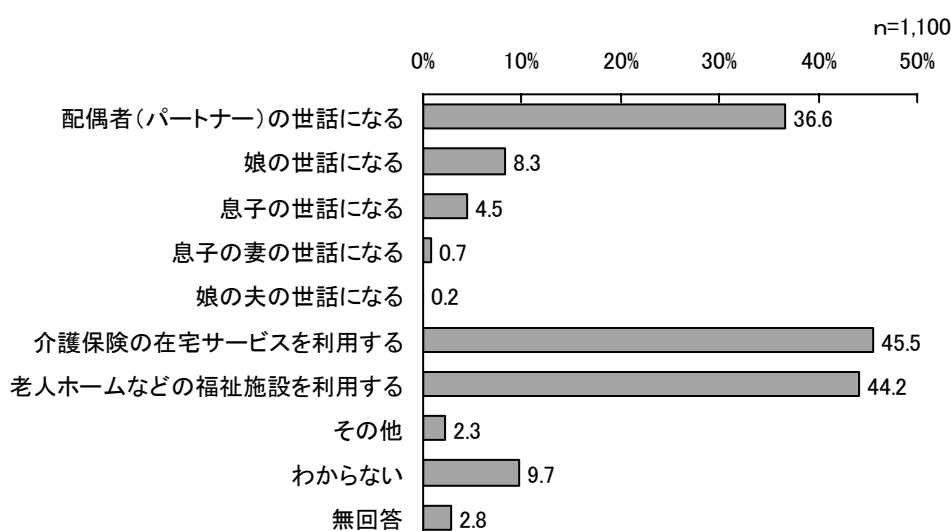
	全体	配偶者（パートナー）と2人で暮らしたい	子どもや孫と一緒に暮らしたい	自分ひとりで暮らしたい	きょうだいと一緒に暮らしたい	気の合う友だちと一緒に暮らしたい	老人ホームなどの施設で暮らしたい	その他	特にない・わからない	無回答
合計	1100 100.0	590 53.6	203 18.5	73 6.6	7 0.6	35 3.2	37 3.4	17 1.5	109 9.9	29 2.6
男性	472 100.0	280 59.3	88 18.6	25 5.3	0 0.0	4 0.8	6 1.3	10 2.1	48 10.2	11 2.3
女性	619 100.0	308 49.8	114 18.4	47 7.6	7 1.1	30 4.8	29 4.7	7 1.1	61 9.9	16 2.6

- 性別にみると、男性は「配偶者（パートナー）と2人で暮らしたい」（59.3%）が女性（49.8%）に比べて9.5ポイント多くなっている。

(2) 介護や介助を受けることになったときの希望

問 18 あなた自身が、介護や介助を受けることになったとしたら、どうしたいと思いますか。(2つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	配偶者（パートナー）の世話になる	403	36.6
2	娘の世話になる	91	8.3
3	息子の世話になる	49	4.5
4	息子の妻の世話になる	8	0.7
5	娘の夫の世話になる	2	0.2
6	介護保険の在宅サービスを利用する	501	45.5
7	老人ホームなどの福祉施設を利用する	486	44.2
8	その他	25	2.3
9	わからない	107	9.7
	無回答	31	2.8
	全体	1100	100.0



- 介護や介助を受けることになったときの希望については、「介護保険の在宅サービスを利用する」(45.5%)が最も多く、以下、「老人ホームなどの福祉施設を利用する」(44.2%)、「配偶者（パートナー）の世話になる」(36.6%)と続いている。

【性別】

	全体	配偶者（パートナー）の世話になる	娘の世話になる	息子の世話になる	息子の妻の世話になる	娘の夫の世話になる	介護保険の在宅サービスを利用する	老人ホームなどの福祉施設を利用する	その他	わからない	無回答
合計	1100 100.0	403 36.6	91 8.3	49 4.5	8 0.7	2 0.2	501 45.5	486 44.2	25 2.3	107 9.7	31 2.8
男性	472 100.0	241 51.1	27 5.7	27 5.7	4 0.8	1 0.2	180 38.1	159 33.7	15 3.2	55 11.7	11 2.3
女性	619 100.0	160 25.8	64 10.3	22 3.6	3 0.5	1 0.2	317 51.2	322 52.0	10 1.6	52 8.4	18 2.9

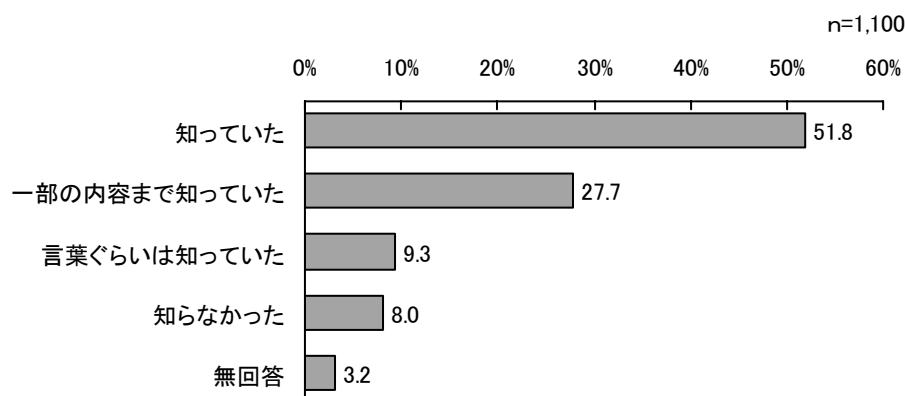
- 性別にみると、男性は「配偶者（パートナー）の世話になる」(51.1%)が過半数を占め最も多く、女性は「老人ホームなどの福祉施設を利用する」(52.0%)と「介護保険の在宅サービスを利用する」(51.2%)が過半数を占めている。

5 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

（1）DVの認知度

問 19 DV（ドメスティック・バイオレンス）とは配偶者間（パートナー）や恋人など親しい間柄での暴力をいいます。身体的暴力のみならず、性的暴力や言葉による精神的暴力、生活費をわたさないなどの経済的暴力などもDVであることを知っていましたか。（1つだけに○）

No.	選択肢	n	%
1	知っていた	570	51.8
2	一部の内容まで知っていた	305	27.7
3	言葉ぐらひは知っていた	102	9.3
4	知らなかった	88	8.0
	無回答	35	3.2
	全体	1100	100.0



○ DVの認知度については、身体的暴力のみならず、性的暴力や言葉による精神的暴力、生活費をわたさないなどの経済的暴力などもDVであることを「知っていた」人は51.8%と過半数を占めており、「一部の内容まで知っていた」は27.7%、「言葉ぐらひは知っていた」は9.3%、「知らなかった」は8.0%となっている。

【性別】

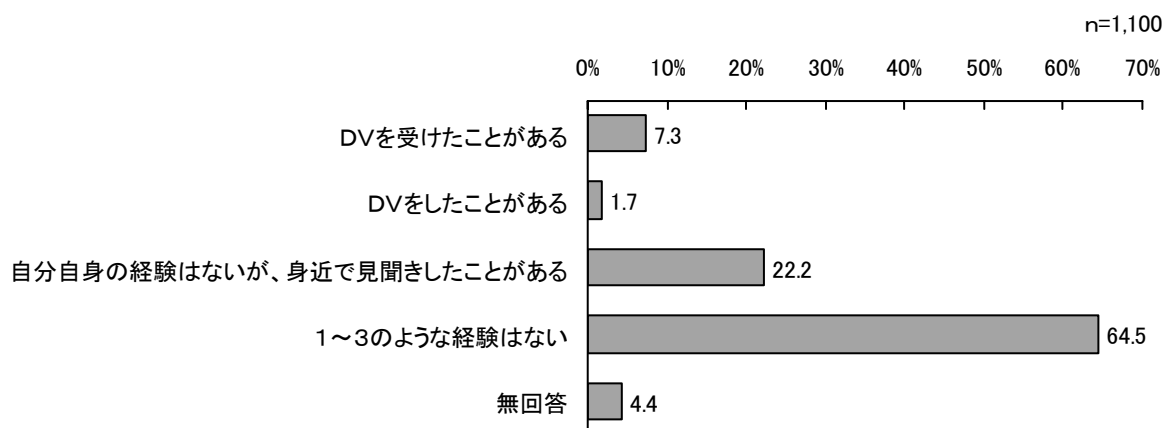
	全体	知っていた	一部の内容まで知っていた	言葉ぐらひは知っていた	知らなかった	無回答
合計	1100 100.0	570 51.8	305 27.7	102 9.3	88 8.0	35 3.2
男性	472 100.0	231 48.9	130 27.5	62 13.1	35 7.4	14 3.0
女性	619 100.0	335 54.1	173 27.9	40 6.5	52 8.4	19 3.1

○ 性別にみると、男性は「知っていた」（48.9%）の割合が女性（54.1%）に比べ5.2ポイント少なくなっており、男性の認知度は女性に比べやや低くなっている。

(2) DVの経験

問 20 あなたは、DVを受けたり、あるいはDVをしたことがあったり、身近で見聞きした経験がありますか。(1つだけに○)

No.	選択肢	n	%
1	DVを受けたことがある	80	7.3
2	DVをしたことがある	19	1.7
3	自分自身の経験はないが、身近で見聞きしたことがある	244	22.2
4	1～3のような経験はない	709	64.5
	無回答	48	4.4
	全体	1100	100.0



○ DVの経験については、「DVを受けたことがある」が7.3%、「DVをしたことがある」が1.7%、「自分自身の経験はないが、身近で見聞きしたことがある」が22.2%、「1～3のような経験はない」が64.5%となっている。

【性別】

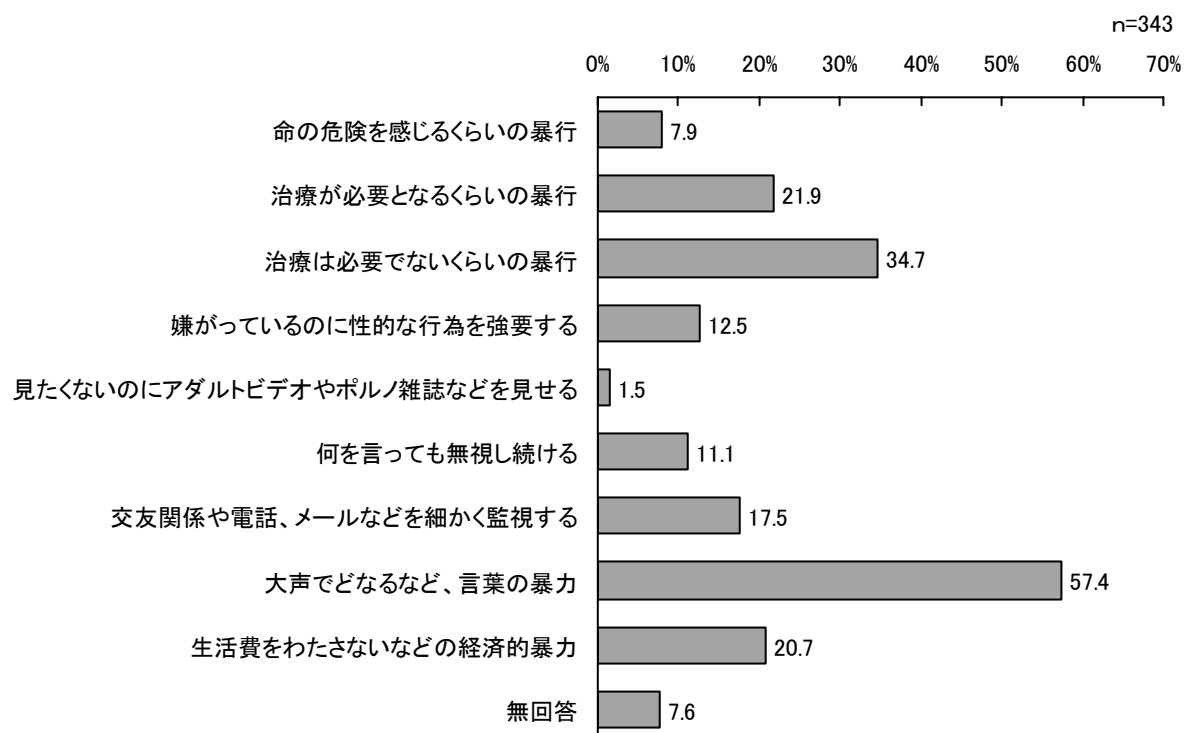
	全体	DVを受けたことがある	DVをしたことがある	自分自身の経験はないが、身近で見聞きしたことがある	1～3のような経験はない	無回答
合計	1100 100.0	80 7.3	19 1.7	244 22.2	709 64.5	48 4.4
男性	472 100.0	8 1.7	14 3.0	100 21.2	325 68.9	25 5.3
女性	619 100.0	72 11.6	5 0.8	142 22.9	379 61.2	21 3.4

○ 性別にみると、女性の1割強が「DVを受けたことがある」(11.6%)と回答している。

(3) DVの内容

問 20-1 【問 20 で「1～3」のいずれかに○をつけた方への質問です。該当しない方は問 21 へお進みください。】
それはどのような内容のものでしたか。(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	命の危険を感じるくらいの暴行	27	7.9
2	治療が必要となるくらいの暴行	75	21.9
3	治療は必要でないくらいの暴行	119	34.7
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する	43	12.5
5	見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌などを見せる	5	1.5
6	何を言っても無視し続ける	38	11.1
7	交友関係や電話、メールなどを細かく監視する	60	17.5
8	大声でどなるなど、言葉の暴力	197	57.4
9	生活費をわたさないなどの経済的暴力	71	20.7
	無回答	26	7.6
	非該当	757	
	全体	343	100.0



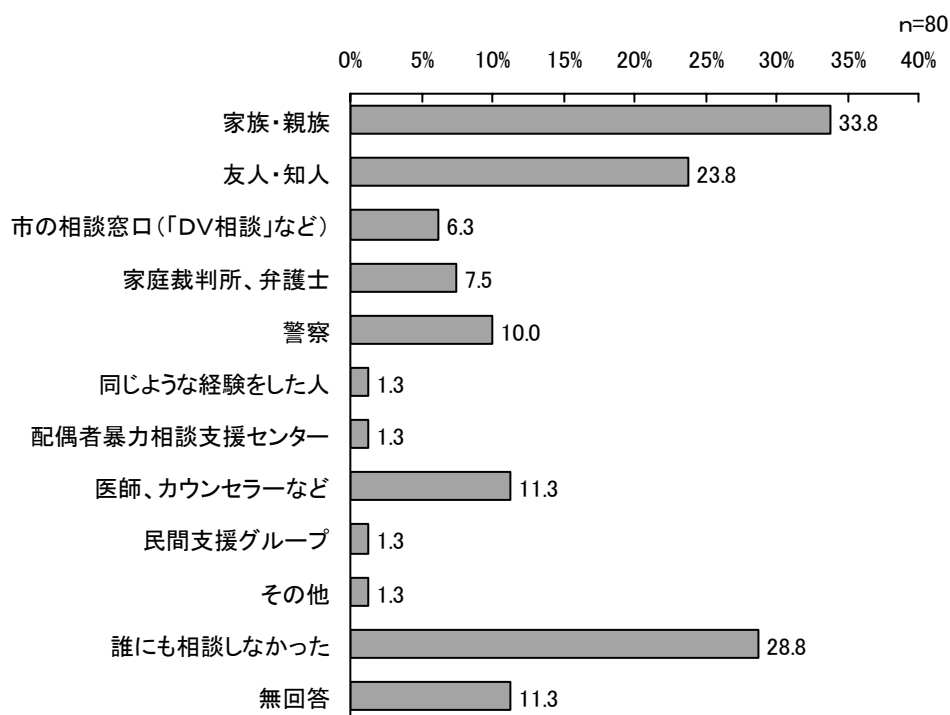
○ DVの内容については、「大声でどなるなど、言葉の暴力」(57.4%)が6割弱を占め最も多く、以下、「治療は必要でないくらいの暴行」(34.7%)、「治療が必要となるくらいの暴行」(21.9%)と続いている。

(4) DVを受けたときに相談先

問 20-2 【問 20 で「1 DVを受けたことがある」と答えた方への質問です。該当しない方は問 21 へお進みください。】

DVを受けたとき、あなたは誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	家族・親族	27	33.8
2	友人・知人	19	23.8
3	市の相談窓口(「DV相談」など)	5	6.3
4	家庭裁判所、弁護士	6	7.5
5	警察	8	10.0
6	同じような経験をした人	1	1.3
7	配偶者暴力相談支援センター	1	1.3
8	医師、カウンセラーなど	9	11.3
9	民間支援グループ	1	1.3
10	その他	1	1.3
11	誰にも相談しなかった	23	28.8
	無回答	9	11.3
	非該当	1020	
	全体	80	100.0



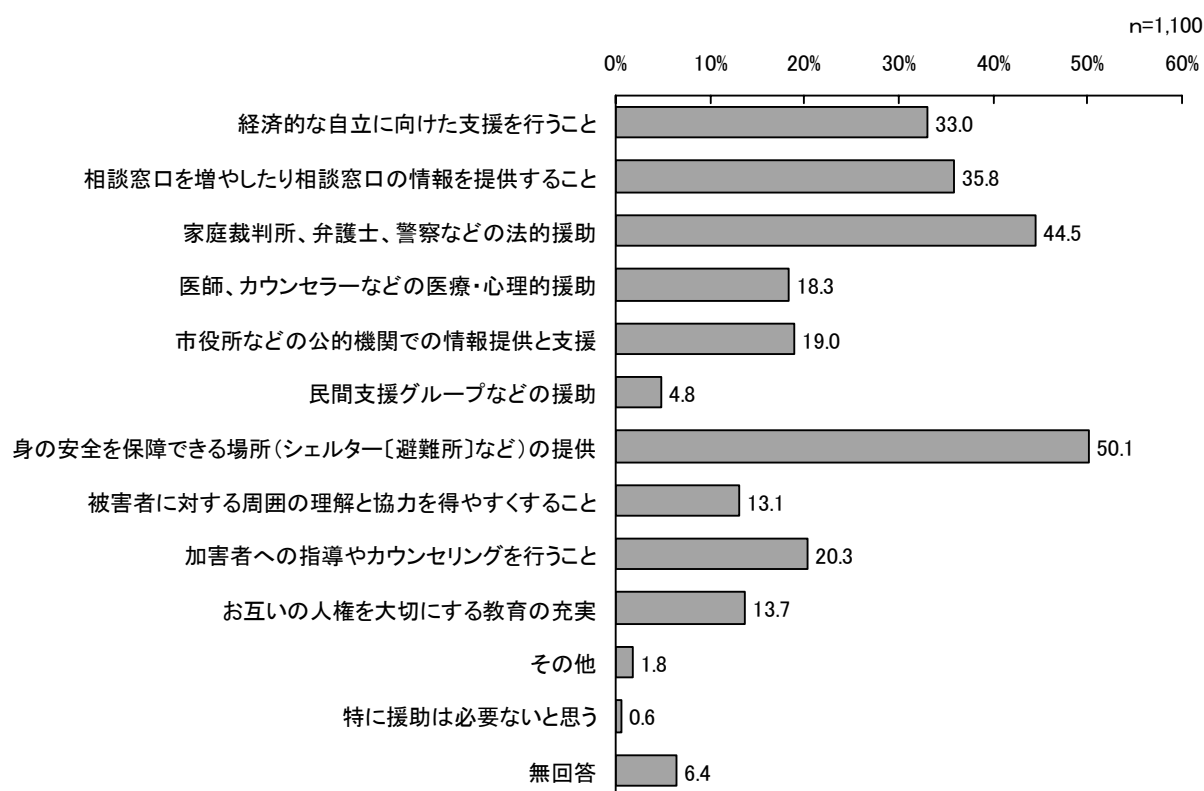
○ DVを受けたことがある人に、誰に相談したかをきいたところ、「家族・親族」(33.8%)が最も多く、次いで、「誰にも相談しなかった」(28.8%)が3割弱となっており、以下、「友人・知人」(23.8%)、「医師、カウンセラーなど」(11.3%)と続いている。

(5) DV被害に対する有効な援助

問 21 あなたは、DV被害に対し、どのような援助が有効だと思いますか。

(3つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	経済的な自立に向けた支援を行うこと	363	33.0
2	相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること	394	35.8
3	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	489	44.5
4	医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	201	18.3
5	市役所などの公的機関での情報提供と支援	209	19.0
6	民間支援グループなどの援助	53	4.8
7	身の安全を保障できる場所(シェルター〔避難所〕など)の提供	551	50.1
8	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	144	13.1
9	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	223	20.3
10	お互いの人権を大切にす教育の充実	151	13.7
11	その他	20	1.8
12	特に援助は必要ないと思う	7	0.6
	無回答	70	6.4
	全体	1100	100.0



○ DV被害に対する有効な援助については、「身の安全を保障できる場所(シェルター〔避難所〕など)の提供」(50.1%)が最も多く、以下、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」(44.5%)、「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」(35.8%)、「経済的な自立に向けた支援を行うこと」(33.0%)と続いている。

【性別】

	全体	経済的な自立に向けた支援を行うこと	相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	市役所などの公的機関での情報提供と支援	民間支援グループなどの援助	身の安全を保障できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	お互いの人権を大切にすることを大切にする教育の充実	その他	特に援助は必要ないと思う	無回答
合計	1100 100.0	363 33.0	394 35.8	489 44.5	201 18.3	209 19.0	53 4.8	551 50.1	144 13.1	223 20.3	151 13.7	20 1.8	7 0.6	70 6.4
男性	472 100.0	132 28.0	172 36.4	253 53.6	81 17.2	104 22.0	30 6.4	195 41.3	53 11.2	97 20.6	66 14.0	11 2.3	2 0.4	29 6.1
女性	619 100.0	228 36.8	217 35.1	232 37.5	119 19.2	102 16.5	23 3.7	353 57.0	91 14.7	124 20.0	85 13.7	9 1.5	5 0.8	39 6.3

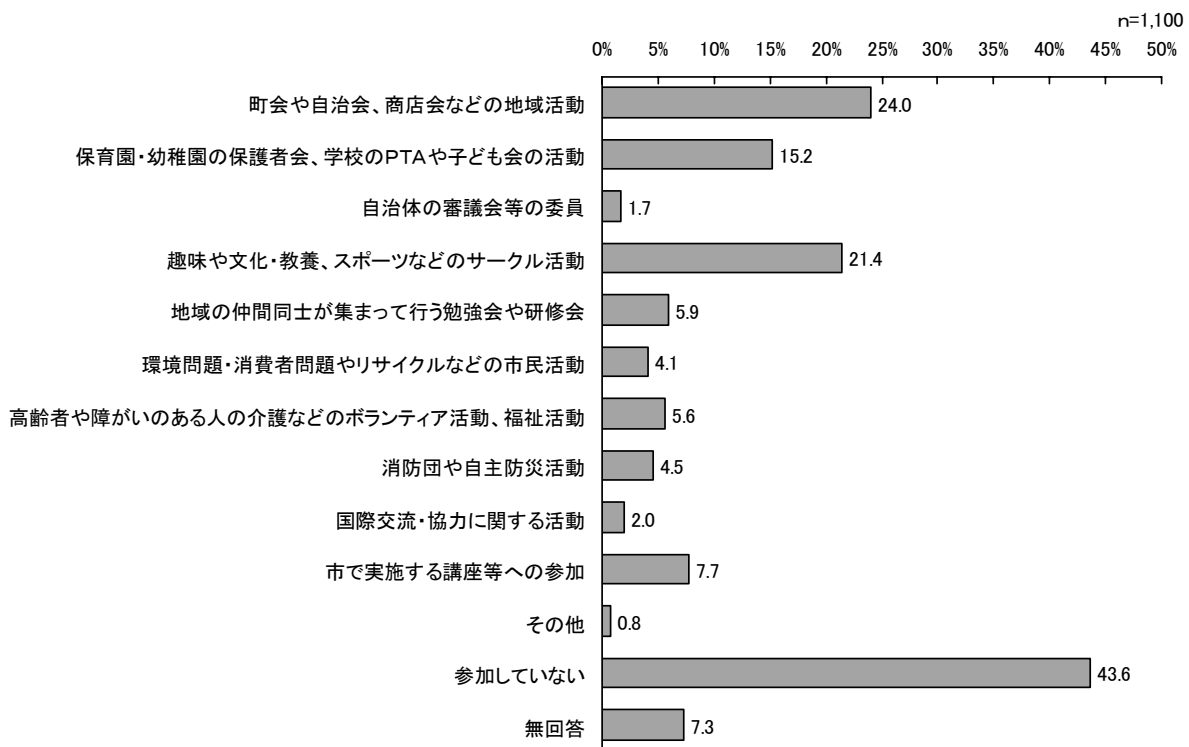
- 性別にみると、男性は「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」（53.6%）が過半数を占め最も多く、女性は「身の安全を保障できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」（57.0%）が6割弱を占め最も多くなっている。

6 地域活動などについて

(1) 地域活動等への参加状況

問 22 あなたはこの1年間に、次に掲げるような地域活動等に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	町会や自治会、商店会などの地域活動	264	24.0
2	保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動	167	15.2
3	自治体の審議会等の委員	19	1.7
4	趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動	235	21.4
5	地域の仲間同士が集まって行う勉強会や研修会	65	5.9
6	環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動	45	4.1
7	高齢者や障がいのある人の介護などのボランティア活動、福祉活動	62	5.6
8	消防団や自主防災活動	50	4.5
9	国際交流・協力に関する活動	22	2.0
10	市で実施する講座等への参加	85	7.7
11	その他	9	0.8
12	参加していない	480	43.6
	無回答	80	7.3
	全体	1100	100.0



○ 地域活動等への参加状況は、「参加していない」(43.6%)が4割強を占め最も多く、以下、「町会や自治会、商店会などの地域活動」(24.0%)、「趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動」(21.4%)、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」(15.2%)と続いている。

【性別】 * 選択肢抜粋

	全体	保育園・幼稚園 の保護者会、学 校のPTAや子 ども会の活動	趣味や文化・教 養、スポーツな どのサークル活 動	参加していない
合計	1100 100.0	167 15.2	235 21.4	480 43.6
男性	472 100.0	40 8.5	84 17.8	232 49.2
女性	619 100.0	126 20.4	151 24.4	244 39.4

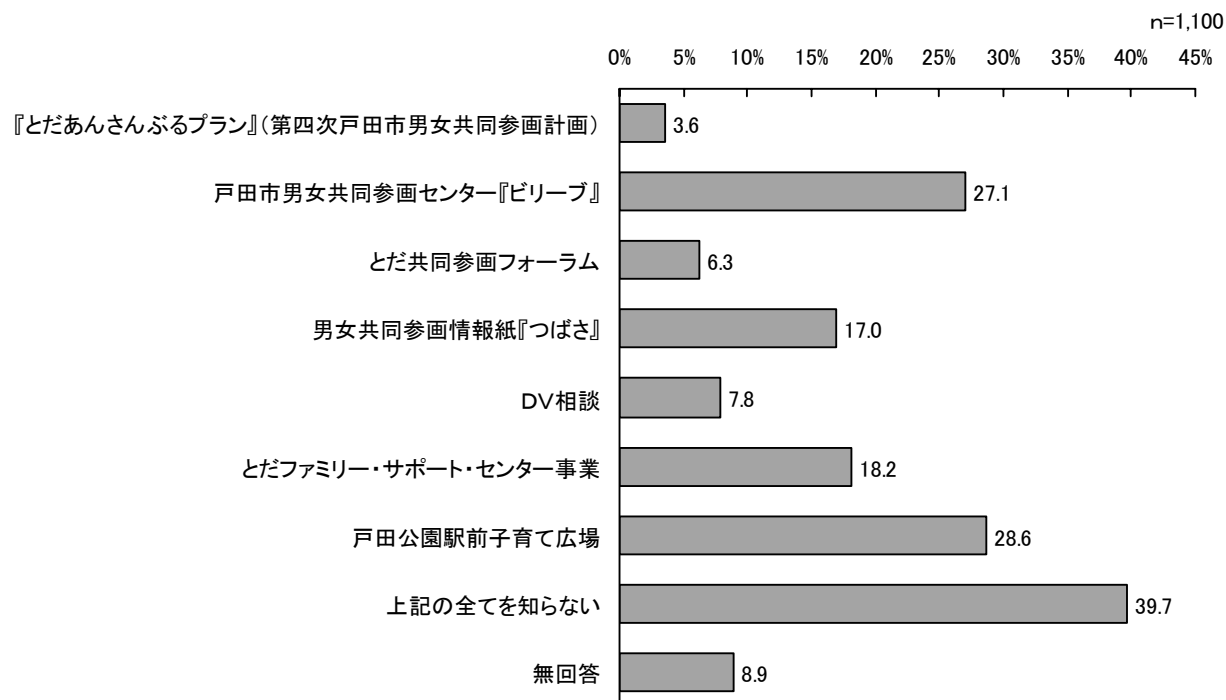
- 性別にみると、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」と「趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動」は女性の割合が男性に比べ、それぞれ11.9ポイント、6.6ポイント上回っている。また、男性は「参加してない」(49.2%)が約半数を占めている。

7 「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について

(1) 市の事業の認知度

問 23 現在、戸田市が行っている次の事業を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

No.	選択肢	n	%
1	『とだあんさんぶるプラン』(第四次戸田市男女共同参画計画)	40	3.6
2	戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』	298	27.1
3	とだ共同参画フォーラム	69	6.3
4	男女共同参画情報紙『つばさ』	187	17.0
5	DV相談	86	7.8
6	とだファミリー・サポート・センター事業	200	18.2
7	戸田公園駅前子育て広場	315	28.6
8	上記の全てを知らない	437	39.7
	無回答	98	8.9
	全体	1100	100.0



○ 市の事業の認知度については、「全てを知らない」(39.7%)が4割を占めており、知っている事業では「戸田公園駅前子育て広場」(28.6%)が最も多く、以下、「戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』」(27.1%)、「とだファミリー・サポート・センター事業」(18.2%)となっている。

【性別・年齢別】

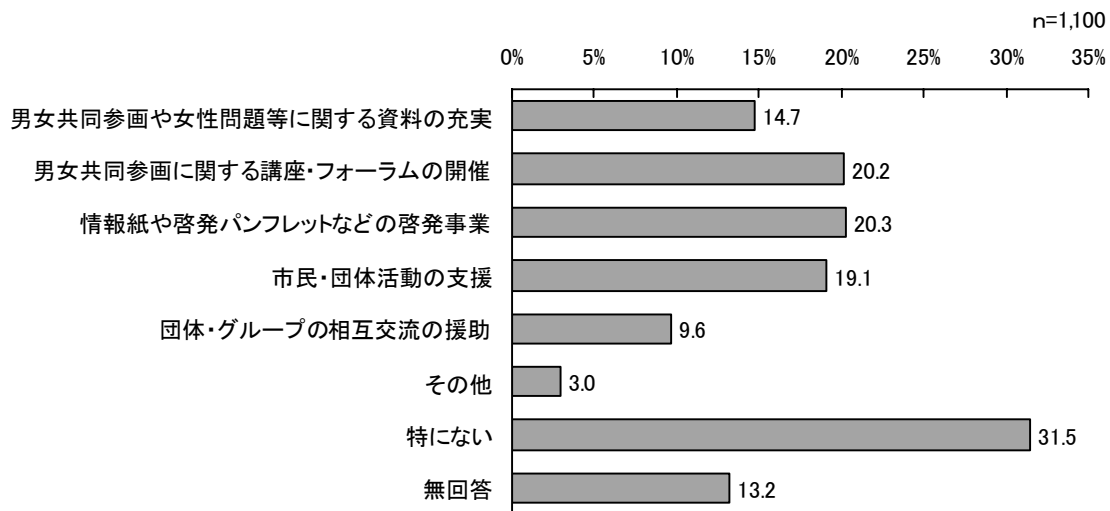
	全体	『とだあんさんぶるプラン』(第四次戸田市男女共同参画計画)	戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』	とだ共同参画フォーラム	男女共同参画情報紙『つばさ』	DV相談	とだファミリー・サポート・センター事業	戸田公園駅前子育て広場	上記の全てを知らない	無回答
合計	1100 100.0	40 3.6	298 27.1	69 6.3	187 17.0	86 7.8	200 18.2	315 28.6	437 39.7	98 8.9
男性	472 100.0	16 3.4	89 18.9	20 4.2	45 9.5	22 4.7	36 7.6	90 19.1	249 52.8	41 8.7
女性	619 100.0	24 3.9	208 33.6	49 7.9	141 22.8	64 10.3	163 26.3	224 36.2	182 29.4	55 8.9
20歳未満	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	11 91.7	0 0.0
20～29歳	90 100.0	0 0.0	4 4.4	2 2.2	3 3.3	1 1.1	8 8.9	21 23.3	57 63.3	7 7.8
30～39歳	181 100.0	3 1.7	44 24.3	6 3.3	20 11.0	15 8.3	51 28.2	83 45.9	66 36.5	7 3.9
40～49歳	162 100.0	4 2.5	55 34.0	9 5.6	26 16.0	20 12.3	59 36.4	56 34.6	52 32.1	8 4.9
50～59歳	196 100.0	10 5.1	70 35.7	17 8.7	47 24.0	17 8.7	39 19.9	50 25.5	79 40.3	7 3.6
60～69歳	243 100.0	13 5.3	60 24.7	16 6.6	47 19.3	20 8.2	24 9.9	62 25.5	96 39.5	28 11.5
70歳以上	211 100.0	10 4.7	64 30.3	19 9.0	43 20.4	13 6.2	18 8.5	41 19.4	73 34.6	40 19.0

- 性別にみると、いずれの事業も女性の割合が男性に比べ多くなっており、特に「戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』」「男女共同参画情報紙『つばさ』」「とだファミリー・サポート・センター事業」「戸田公園駅前子育て広場」で差が大きくなっている。また、男性は「全てを知らない」(52.8%)が過半数を占めている。
- 年齢別にみると、“29歳以下”の認知度が非常に低いことがわかる。

(2) 『ビリーブ』で力を入れてほしい取り組み

問 24 現在、戸田市では「男女共同参画センター『ビリーブ』」において次のような取り組みを行っています。今後どのような取り組みに特に力を入れてほしいと思いますか。(2つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	男女共同参画や女性問題等に関する資料の充実	162	14.7
2	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	222	20.2
3	情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業	223	20.3
4	市民・団体活動の支援	210	19.1
5	団体・グループの相互交流の援助	106	9.6
6	その他	33	3.0
7	特にない	346	31.5
	無回答	145	13.2
	全体	1100	100.0



○ 『ビリーブ』で力を入れてほしい取り組みは、「特にない」(31.5%)が最も多く、「情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業」(20.3%)、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(20.2%)、「市民・団体活動の支援」(19.1%)が約2割となっている。

【性別】

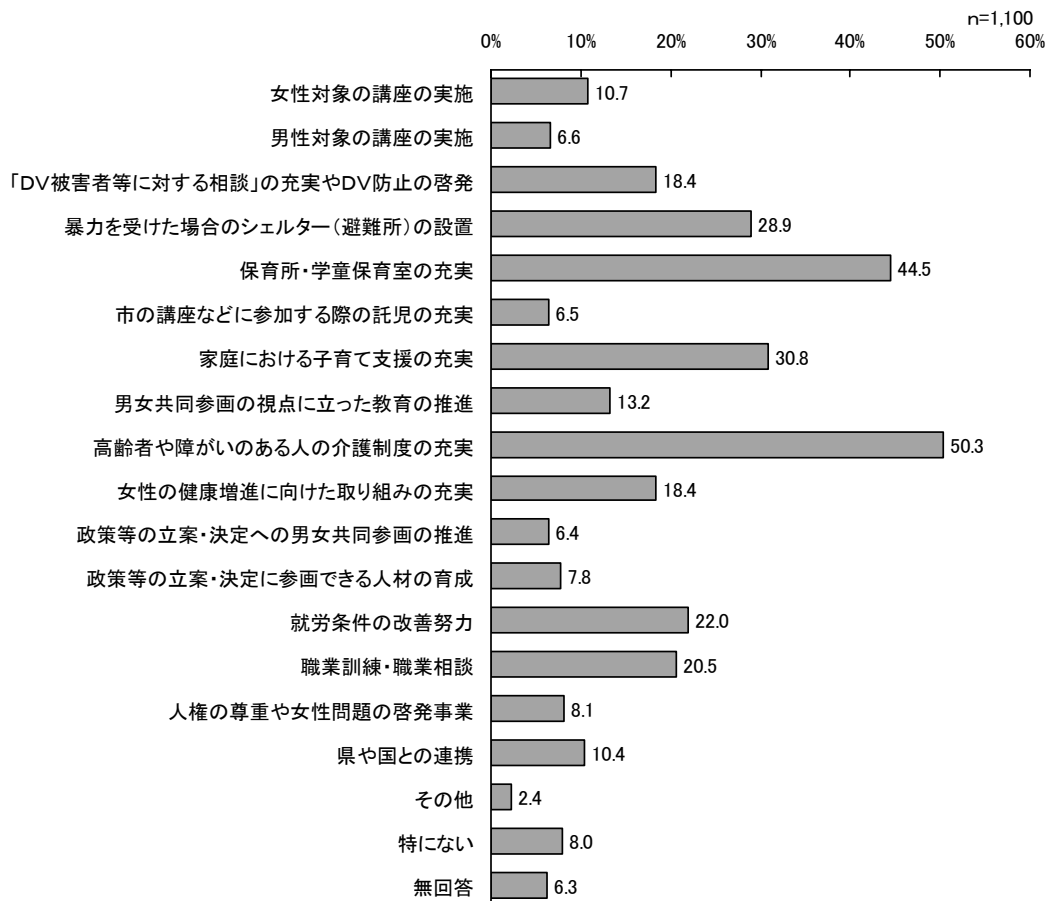
	全体	男女共同参画や女性問題等に関する資料の充実	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業	市民・団体活動の支援	団体・グループの相互交流の援助	その他	特にない	無回答
合計	1100 100.0	162 14.7	222 20.2	223 20.3	210 19.1	106 9.6	33 3.0	346 31.5	145 13.2
男性	472 100.0	59 12.5	97 20.6	110 23.3	76 16.1	52 11.0	14 3.0	166 35.2	56 11.9
女性	619 100.0	102 16.5	122 19.7	109 17.6	134 21.6	54 8.7	19 3.1	179 28.9	86 13.9

○ 性別にみると、男性、女性ともに「特にない」が最も多くなっているが、次いで、男性は「情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業」(23.3%)が、女性は「市民・団体活動の支援」(21.6%)が多くなっている。

(3) 特に力を入れてほしい施策

問 25 「男女共同参画社会の実現」に向けて、戸田市に特に力を入れてほしい施策は何ですか。(5つまでに○)

No.	選択肢	n	%
1	女性対象の講座の実施	118	10.7
2	男性対象の講座の実施	73	6.6
3	「DV被害者等に対する相談」の充実やDV防止の啓発	202	18.4
4	暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の設置	318	28.9
5	保育所・学童保育室の充実	490	44.5
6	市の講座などに参加する際の託児の充実	71	6.5
7	家庭における子育て支援の充実	339	30.8
8	男女共同参画の視点に立った教育の推進	145	13.2
9	高齢者や障がいのある人の介護制度の充実	553	50.3
10	女性の健康増進に向けた取り組みの充実	202	18.4
11	政策等の立案・決定への男女共同参画の推進	70	6.4
12	政策等の立案・決定に参画できる人材の育成	86	7.8
13	就労条件の改善努力	242	22.0
14	職業訓練・職業相談	226	20.5
15	人権の尊重や女性問題の啓発事業	89	8.1
16	県や国との連携	114	10.4
17	その他	26	2.4
18	特にない	88	8.0
	無回答	69	6.3
	全体	1100	100.0



○ 特に力を入れてほしい施策については、「高齢者や障がいのある人の介護制度の充実」(50.3%)が最も多く、以下、「保育所・学童保育室の充実」(44.5%)、「家庭における子育て支援の充実」(30.8%)、「暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の設置」(28.9%)、「就労条件の改善努力」(22.0%)と続いている。

【性別・年齢別】＊「その他」「特にない」「無回答」を除く

	全体	女性対象の講座の実施	男性対象の講座の実施	「DV被害者等に対する相談」の充実やDV防止の啓発	暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の設置	保育所・学童保育室の充実	市の講座などに参加する際の託児の充実	家庭における子育て支援の充実	男女共同参画の視点に立った教育の推進
合計	1100 100.0	118 10.7	73 6.6	202 18.4	318 28.9	490 44.5	71 6.5	339 30.8	145 13.2
男性	472 100.0	28 5.9	40 8.5	101 21.4	129 27.3	206 43.6	23 4.9	138 29.2	66 14.0
女性	619 100.0	89 14.4	33 5.3	98 15.8	183 29.6	280 45.2	48 7.8	198 32.0	79 12.8
20歳未満	12 100.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	6 50.0	5 41.7	1 8.3	4 33.3	1 8.3
20～29歳	90 100.0	7 7.8	6 6.7	11 12.2	21 23.3	52 57.8	5 5.6	50 55.6	9 10.0
30～39歳	181 100.0	13 7.2	6 3.3	31 17.1	49 27.1	122 67.4	23 12.7	106 58.6	19 10.5
40～49歳	162 100.0	23 14.2	11 6.8	20 12.3	55 34.0	72 44.4	12 7.4	54 33.3	20 12.3
50～59歳	196 100.0	26 13.3	16 8.2	41 20.9	66 33.7	85 43.4	10 5.1	46 23.5	37 18.9
60～69歳	243 100.0	31 12.8	15 6.2	55 22.6	68 28.0	88 36.2	9 3.7	47 19.3	34 14.0
70歳以上	211 100.0	17 8.1	18 8.5	36 17.1	49 23.2	63 29.9	11 5.2	29 13.7	25 11.8
	全体	高齢者や障がいのある人の介護制度の充実	女性の健康増進に向けた取り組みの充実	政策等の立案・決定への男女共同参画の推進	政策等の立案・決定に参画できる人材の育成	就労条件の改善努力	職業訓練・職業相談	人権の尊重や女性問題の啓発事業	県や国との連携
合計	1100 100.0	553 50.3	202 18.4	70 6.4	86 7.8	242 22.0	226 20.5	89 8.1	114 10.4
男性	472 100.0	213 45.1	50 10.6	42 8.9	42 8.9	109 23.1	83 17.6	44 9.3	59 12.5
女性	619 100.0	335 54.1	152 24.6	27 4.4	43 6.9	133 21.5	143 23.1	45 7.3	55 8.9
20歳未満	12 100.0	5 41.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0	4 33.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3
20～29歳	90 100.0	24 26.7	31 34.4	6 6.7	4 4.4	31 34.4	22 24.4	6 6.7	13 14.4
30～39歳	181 100.0	64 35.4	43 23.8	6 3.3	10 5.5	57 31.5	51 28.2	8 4.4	19 10.5
40～49歳	162 100.0	66 40.7	30 18.5	8 4.9	10 6.2	42 25.9	34 21.0	14 8.6	21 13.0
50～59歳	196 100.0	119 60.7	38 19.4	10 5.1	17 8.7	50 25.5	43 21.9	19 9.7	22 11.2
60～69歳	243 100.0	138 56.8	33 13.6	22 9.1	23 9.5	42 17.3	46 18.9	26 10.7	21 8.6
70歳以上	211 100.0	134 63.5	25 11.8	17 8.1	21 10.0	16 7.6	26 12.3	15 7.1	17 8.1

○ 性別にみると、男性は『DV被害者等に対する相談』の充実やDV防止の啓発の割合が女性に比べて5.6ポイント多くなっており、女性は「女性対象の講座の実施」「高齢者や障がいのある人の介護制度の充実」「女性の健康増進に向けた取り組みの充実」「職業訓練・職業相談」の割合が男性に比べそれぞれ8.5ポイント、9.0ポイント、14.0ポイント、5.5ポイント多くなっている。

年齢別にみると、「20～29歳」では「保育所・学童保育室の充実」（57.8％）と「家庭における子育て支援の充実」（55.6％）が過半数を占め多くなっており、「女性の健康増進に向けた取り組みの充実」（34.4％）と「就労条件の改善努力」（34.4％）も約3分の1と多くなっている。「30～39歳」では「保育所・学童保育室の充実」（67.4％）が7割弱、「家庭における子育て支援の充実」（58.6％）が6割弱を占め多くなっているほか、「市の講座などに参加する際の託児の充実」（12.7％）が1割強ではあるものの、他の年齢層に比べて多くなっている。また、「女性対象の講座の実施」は“40～69歳”で多くなっており、「高齢者や障がいのある人の介護制度の充実」は“50歳以上”で5割台半ばから6割強を占めている。

第4章 「自由記入」のまとめ

*本章の内容は、明らかな誤字・脱字等と思われる箇所を修正したこと以外は、基本的にアンケート調査票自由記入欄への記入内容をそのまま再現しています。

1 男女共同参画全般について (31件)

- 個人情報保護法の時に、とにかく何でも公開しないのが良しとされたように、男女の平等を単純に同じにすれば良いという形になってほしくない。性の違いがあるという前提の上で「平等とは？」を考えていくのが望ましいのでは。(男性・30歳代)
- もともと男と女は違う生き物なのだから、強制的に男女平等をうたうのではなく、お互いの長所を生かし、短所を穴埋めするような施策が良いと思います。無理に同じである必要はないと思います。(男性・30歳代)
- 男女共同参画には賛成するが、男性を一方的に悪の根源であるかのような考え方は改善してほしい。悪いことを改善するのは当然のことながら、未改善の点にも視点を向けて方針を定めていただきたい。例えば、男性の片親による育児については対策が不十分である。男性の方が収入が多いという観点でしかみられないので、色々なところで不都合や問題がある。(男性・60歳代)
- 男女共同参画の存在は知っているが具体的に何を行っているのか、設立の目的、背景がわからない。(男性・20歳代)
- ジェンダーを考えると、男女平等は無理がある。男女公平な世の中にすべきかと思う。(男性・30歳代)
- 意識のある女性は、男性より積極性があるのではと感じています。(男性・70歳以上)
- ごく一部の女性は世に出たがるが、多くの女性はあまり望んではいない。声の大きい人の意見だけを聞かないように！(男性・40歳代)
- 現在の社会は男女平等ではなく、女性優位である。都合の良いときは男性から経済的に頼り、批判をする。企業の割引も女性だけを対象にするものが多い。都合が悪いとすぐ社会に頼り、我慢をしない。(男性・20歳代)
- もっと多くの女性の声が必要だと思います。(男性・70歳以上)
- 「男女共同参画」とうたっておきながら、実質は女性のワガママを聞いているだけのようになります。施策ではないのですが、電車の女性専用車両があるなら男性専用も作るべきと考えます。近年の社会では、女性だからという理由で社会的地位が脅かされることは少ないので、これ以上望むことはありません。このアンケートを答えていると、いかにも女性の社会進出が阻まれているように見えてしまいます。女性には出産や子育てといった女性ならではの重要な仕事があるのに、それらを理由・悪用していることが多い気がします。(男性・30歳代)
- “男女共同参画”という言葉がわかりづらいです。(女性・50歳代)
- 表面、男女共同をとなえても、基本になるものはその男性の育った環境によるものだと思います。女性が男女平等をいくらとなえても男性の気持ちが同じにならなければ始まりません。私の時代は男性中心の育ち方でした(夫の母親は絵に描いたようでした)。現在の人たちは、男女同格が身につけている人たちも多くなりました。女性が強くな

るのではなく、本当に賢くなることだと思います。(女性・70歳以上)

○個人個人がしっかりとした人間になれば何も良くなる。(女性・60歳代)

○我が家は姑と同居なので、つくづく昭和一ケタ世代には「男はこうあるべき、女はこうあるべき、嫁はこうあるべき」という意識が強いと思う。また、主婦2人で手が足りていることと私自身が義母に対する対抗意識から家事を頑張ってしまう、息子たちに家事をやらせてこなかったことは後悔している。男女が対等といっても、すべてをまったく同じにする必要はなく、まずは人として尊敬、尊重する気持ちが大切なのだと思う。学校等ではずいぶん共同参画が進んでいると思う。女子の生徒会長や委員長も多いです。(女性・50歳代)

○1. 新しいことを早く周知。2. 良否を知らしめる。3. 男女の区別と責任。4. 見て見ないフリをしている部分が恥ずかしい。5. 個人の重みが大事、立入りできない。
(男性・70歳以上)

○あまりすべてを平等という言葉で、女性の権利ばかりを主張するのには反対です。こういった活動のおかげで、たまにおかしなことがあっても、大分気持ちよく過ごせてますが、たまに男性が逆差別でかわいそうになったり、以前の小さな職場で既婚女性を優遇するあまり、自分や周りが本当に大変な思いをしたり、ケースバイケースだと感じております。(女性・30歳代)

○複雑な現代社会の中で、今、人としての生き方を学んでいきたいと思っております。
(女性・70歳以上)

○男、女、それぞれの能力を生かせる社会がいいのでは。(男性・50歳代)

○男女平等は賛成ですが、基本的な男、女のそれぞれの異なった部分を一緒にすることにはNGです。男らしさ、女らしさをお互いに尊重しあって協力する家庭作りや子どもさんに教育をしてほしいと思います。また、社会は働く場として男女平等をうまく調整してほしいものです。しかし、男の力、女の力は違います。難しいテーマですが…。戸田市が考えてくださっていることはうれしいことです。私は独身ですので、子育てしている方々には頭が下がります。ご挨拶がいつもできる子どもを育ててください。(女性・60歳代)

○そもそも男女共同参画社会とはどんなものか。十分にそう感じているのだが。共同参画ではないという現実を教えてほしい。(男性・40歳代)

○女性の方が色々と優遇されていると思う。本当に平等を目指すなら、男性に対しても同様な制度等を作るべきだし、知識として落とし込みも必要だと思う。このアンケートがなければ考えることはないようなことが多かった。興味、関心を集めることは難しいとは思いますが、一人ひとりが考える時間を持たせた方が良いのではないかと感じた。
(女性・20歳代)

○今までの日本の国力は「母親」が作ってきたものと私は思っています。ジェンダーの名のもとに、右往左往するばかりに、その素晴らしい仕事を手放さずに女性がいきいきと幸せになれることを祈っています。権利を主張するばかりに本質を見誤ることのないようにお願いします。(女性・50歳代)

○女性が仕事をすることで子育てを他人に任せてしまっている。任されて、育った子どもが今(30代、40代)犯罪者が多いのはなぜだろう…。保育園等でいいかげんな育て方

をされているのではないだろうか…。知人に保育士がいるが、本当に他人の子を愛情いっぱい育てているようには思えない。いつも愚痴を聞かされる。血のつながりは自然に愛を育てると思います。もう少し女性は子育てに専念すればいい。夫が稼げる社会を!! そっちが先でしょ!! (女性・50歳代)

- 年々、文化や教育が壊れ、家庭や社会が壊れ、年々感じるものが、お互いを尊重しなくなっています。世の中を変えるには時間が必要です。男女もとより人間とは個とはです。教育が人を作り地域を作り、国を作ります。文化が壊れてしまえば全てが壊れてしまいます。表面ではなく核です。(男性・40歳代)
- 基本、女は男に食べさせてもらう動物だと思ってます。それでバランスとれてると思います。(女性・40歳代)
- 男女平等は少子化の原因ではないかと考えます。男性に女性の仕事はできないし、女性も男性の仕事はできません。同じように…と無理をするから、子どもが減るように感じるのです。(女性・30歳代)
- 望むことはありません。自分で意識を変えることができれば(個々)、それでいいのです。専業主婦で過ごした者は、まだ俺が食わしていると言われてますから…。あと20年~かかるでしょう? それで皆が幸せになるのでしょうか? 男は男、女は女で尊重していけば良いと思う。ダメはダメという考えです。施策など無意味と思っています。アンケートもムダです(男女共同参画について理解していないので、このように思うのでしょうか?)(女性・70歳以上)
- 考えたことがありませんでした。(女性・20歳代)
- 日々、テレビやインターネットで報じられる男女平等に関するニュースは、普通、私たち庶民が生活を送っている中ではなかなか実感、意識することはない。つまり、一部の自意識が過剰な人々が大衆を煽っているようにしか思えない。行政には、一時の盛り上がりで流されることなく、現状で別段支障がないものには、手を加えず、他のことに予算を割いてもらいたい。(男性・10歳代)
- 今まで知らなかったため、考えていないのが本音です。(男性・50歳代)
- 男女平等は無理だと思います。(女性・30歳代)

2 市の施策・事業について (30件)

- 男性の考え(男尊女卑的考え)を軟らかくするような講座(こういう方々は来ないのかもしれませんが…)(女性・40歳代)
- 市民講座に参加したいと思っても、開講時間が夜間に限られているものもあり、仕事の関係で参加できないことが多い。様々な人たちが参加できるように、午前の部、午後の部、夜間の部のように幅広く開講してもらいたい。(女性・50歳代)
- 男女共同参画等の勉強会や他色々な教室等に参加した場合、私は場違いの所に来ているのではないかと思うようなときがあります。男、女、気を使わないリラックスした場所であれば、いつでも参加できるのではないのでしょうか(答えになっていないかもしれませんが…)(女性・70歳以上)
- 他県や他市町村に比べ、戸田市は充実している(活動など)と感じるが、社会全体として改善されない限り、女性の社会的進出や地位の向上は難しいと感じる。悩ましい

し、もどかしくも感じるが、このような取り組みをもっと続けていっていただきたい。

(女性・30歳代)

- 定年退職後の男性が地域で仲間づくりができるような気軽に参加できる講座やサークルなどの充実。(女性・40歳代)
- 戸田市に越してきて、日も浅く初耳なので何とも言えませんが、市として税金から活動資金が出ているなら、きっちりやり遂げてほしい。市として建前での活動とならぬことを望みます。言い訳の材料とならぬことを祈ります。(男性・30歳代)
- 共同参画する機会、場所を提供してほしい。家事を分担するだけでは当たり前感が充満しておりなかなか進まない。何かイベントを通じて体感できる機会を設けてほしい。(男性・40歳代)
- 男性上位の世の中ではなく、男女平等が望ましいと思っています。特に年配の方々には受け入れられないところがあると思うので、なぜ今「男女共同参画」なのか？理解を深めるためにも、講座を設けていただきたいと考えます。そして、一人でも多くの市民に浸透していけば良いと思います。(女性・40歳代)
- 男性、女性共にお互い理解すること、そのためには、男性が女性の生活を経験し、女性は男性の大変さを経験できるようなシステムを考えていただきたい。昔のカギっ子のような子どもをつくらないようにしましょう。(男性・60歳代)
- 男女共同参画に参加する機会がないので関心が薄い。気軽に利用できる施設が近くにない。(女性・60歳代)
- 必要ない施策を判断し、税金の無駄使いはしないようにお願いします。(女性・30歳代)
- 気軽に集まれる場を作ってほしい(老人)。麻雀ルーム等。(女性・70歳以上)
- ビリーブなるセンター等の施策が何のためか目的がわかりません。(男性・70歳以上)
- 県、国との連携をより密に取り、そこから生まれる政策・施策をスピード感を持って実行する。さらに理想を言わせていただければ、全国的に戸田市がモデル地区、模範に指定されることを目標に上げ、各事業を活発に進めてほしい。(男性・70歳以上)
- 税金の無駄だから何もしない方がよい。(男性・60歳代)
- 最近子育て重視で女性のための講座がどんどん廃部になってきています。子育ては家の近くの公民館などを利用してほしい。男女共同参画とはもっと違う意味だと思います(子育てだけではない)。高齢者や障がいのある人がもっと利用しやすい場にしてほしい。最近広報紙を見ても、戸田市内の施設の案内に子どもの講座が多い。子どもは地域で育てるをモットーに町会など近くを利用してください。(女性・60歳代)
- 今さらどうしてなんですか。もっとやることがあるのでは。(女性・60歳代)
- 女性の市議会議員を積極的に推進してほしいが、女性中心の考えに偏ることなく、お互いに理解できる方法を議論できる場を設けてほしいです。(男性・20歳代)
- 子どものいないカップル、独身の中高年は地域のコミュニティと無縁であることが多いと思う。戸田市の場合、これらの人々を巻き込んでいかないと、本質的な男女共同参画にならないのでは。彼らの多くは東京で仕事を持ち、東京で遊び、東京で飲食するので、いざ、戸田で何かをするというとき、異邦人です。それでいて、客観的な有用な意見を多く持つのも彼らです。(男性・50歳代)

- 離婚した者同士だけが参加できるサークル活動（互いの意見を交換できる、共有スペースなど、悩みの相談等）。（女性・30歳代）
- 結婚しない男女の増加、結婚はしたいが相手がいない、知り合う機会が減少。昔はお世話好きな仲人になる人がいたが、今は職業としての仲介人？ もっと知り合う機会を行政的にも計画をお願いしたい。（良くて悪くても結婚はしてほしいと考えています）（女性・60歳代）
- 「男女平等」言葉で言うのは簡単ですが、なかなか難しいですね。パンフレットを設置して啓発に努めても、それを持ち帰って見てもらえなければ何の意味もありません。特に我々男性の意識を変えることが必要だと思います。平日は仕事をしていて帰宅が遅い人が多いと思うので、休日に男女共同参画に関する講座を開催してみたらどうでしょうか。個人的には休日であれば参加したいと思います。（男性・40歳代）
- 男女共同参画に関して望むことは、もっと互いに助け合い・協力し合い・団結し合うことを望みます。それには一人ひとりの考え・力が必要で、交流の場（イベント、ボランティア活動などを通して!!）コミュニケーションの場を増やすなど!!（女性・30歳代）
- 実際に、男性と女性では同じではないので、無駄に共同参画などではなく、各自にあった施策を望みます。嫌な時代ですな…。（男性・50歳代）
- 大変良いことと思います。今後もよろしく願いいたします。常に弱い者の味方に立った市政を心がけてくださるようお願いいたします。（不明・不明）
- 戸田市民が総合的に自立できるよう支援することが重要であり、その成果が一步一步反映されることを希望します。（男性・60歳代）
- 男女共同参画に関して特に施策は男女平等参加が「可」ということで問題はないのではないかと。それ（平等）など問う政策よりも平等を前提とした上で、戸田市内生活向上のための提案をどんどん実行してほしい。例えば老人のための脳トレーニングや体力づくりをいつでもできる環境づくり、公民館など有効に使って講習会などどんどん実施してほしい。老人が悪くなってからの支援に力を入れるよりも、悪くならないために、未病の段階で支援、援助が重要ではないかと思う。脳トレ教室など良いと思うが、もっと多く、段階（レベル）も複数、塾のような形の講座があると良いと思う。（女性・70歳以上）
- 退職後の余暇の時間活用を考え絵画書道教室をのぞいてみたが、圧倒的に女性優位の状態でした。気弱な男には入会の意志があっても「二の足」を踏みますね！ 勇気を出して第一歩をまず踏み出すことと言われるでしょうね。男と女の性格の違いなのか？ 気軽に男も参加できるPR活動と施策してください。男は気が小さいのです…。（男性・70歳以上）
- 男女差別はまだです。子育て中の方々への配慮等は不足。また、老人に対する福祉も不足。戸田市がでなく国の問題ですが。やはり身近な市が、地域（町会）等が協力してネットワークを充実させ、何が不足で必要かを聞くことだと思う。（男性・50歳代）
- 「家事は女性がやるべき」という考えが少しずつ考え直され始めていますが、完全には直されていません。少しずつ直していくためには、市役所の役職の重役に女性を

採用するなどしていくうちに、ミクロからマクロに広がっていくと思います。(男性・20歳代)

3 情報提供・周知について (24件)

- いまいち活動内容などが不明確なのか、情報があまりなくて何をしているか知らなかったです。(女性・40歳代)
- 男女共同参画に関して、何をやっているところなのかわからない。もっとわかりやすい説明をしてほしい。(女性・50歳代)
- 男女共同参画の情報や認識がなかったです。今後、関心を持っていきたく思います。(女性・60歳代)
- 具体的な男女共同参加イベントを知らなかった。仮に自分が参加する際、どんなものかわからないため、行動が起きない。何か気楽に参加できるものがあればきっかけになりそう。そんな情報がほしい(が、たぶん情報を取りに行かない…)。(男性・40歳代)
- もっとPRをして。(男性・50歳代)
- 正直言うと、男女共同参画の建物があることは知っていますが、内容は知らず、また、広報と一緒に入っているパンフレットも見ただけありません。申し訳ありません。(女性・50歳代)
- 今年の3月まで都内に勤めていましたので、申し訳ありませんが戸田市の種々の催事については知識がありませんでした。4月から地域デビューを考えなければと思っていますが、実際にどのようにしたら良いのか、わからない状態です。(女性・60歳代)
- 単純な啓発活動を行っても、興味のある人が詳しくなるだけで、興味のない人には響かない。もっと実質的で現実的な制度改革を進めるべき。(女性・20歳代)
- 戸田市の共同参画施策についての活動を知らない。(男性・20歳代)
- こちらに引っ越してきて、まだ日が浅いのでわからないことばかりです。特にマンション住まいだと地域の情報など得にくい状況だと思われまます。(女性・50歳代)
- 男女共同参画、ビリーブという言葉はアンケートが来て初めて知りました。(女性・70歳以上)
- 男女共同参画等何も知らず、今後できれば知らせてほしい。(男性・70歳以上)
- 自分の勉強不足もあるが、戸田市としてのPR不足を感じる。(男性・60歳代)
- 戸田市男女共同参画センター「ビリーブ」を知らないなので、どういうものなのか？何ができるのか？わかりません。(女性・60歳代)
- パンフレット、チラシ等で広く知らせてほしい(女性・50歳代)
- 戸田市だけでなく、国で行われている取り組みをほとんど知らない。「自分で調べないとわからない施策」ではなく、「誰でも知っている」レベルまで広めてもらえるようにしてほしい。施策を考える人の満足でしかない。もっともっと幸せに暮らせる国になりますように。(女性・20歳代)
- どのような事を戸田市として行っているのか全く見えない。時に、市報と一緒にパンフレットが送られてくるのに軽く目を通してものの…。(女性・30歳代)
- もっと市民にわかりやすいような情報発信をしてもらいたい。活動が表面に出てきていない気がします。(男性・40歳代)

- 紙でなく電子的で知らせてほしい。(男性・20歳代)
- 男女共同参画についてあまり関心がないので、パンフレットなど読んだことがありません。身近にあった場合には関心を持つようになると思います。(男性・70歳以上)
- 男女共同参画の存在自体をあまり知りません。どのような活動をされているのか、今までの活動結果などの情報が分かるとさらに理解できると思いますが。必要なセンターなのか…とも思います。市役所で対応できるのではないのでしょうか。フルタイムで仕事をしているからかもしれませんが。(女性・60歳代)
- 広報等に加えて、情報を挟むことやニュースを提供してほしい。(男性・60歳代)
- 「男女共同参画」とは、どういうことをしているのかがよく分からない。今回のアンケートに関しては、これをどうして何をしたいのか分からない。参画センター施設を道端から見かけるが、何をしている所なのか、一般人は分からない人が多いのではと感じる。あんな大きな施設はいらないと思う。税金の無駄遣いです。(男性・70歳以上)
- 男女共同参画について、まったく知らなかった。市民にもわかるようにアピールするべきである。(男性・50歳代)

4 子育て・介護について (18件)

- 男女共働きするために、子どもを預けられる施設の充実、夜遅くまで預けられるようにしてほしい。そうでないと少子化は止められないと思う。独自の政策で国より先に進んだものを！(男性・40歳代)
- 育児・介護の家庭の負担を少しでも軽くできるような援助。(女性・40歳代)
- 問 25-9 ですが、高齢者が安心して暮らせる戸田市であってほしい。近所では80歳の女性がひとり暮らしで自分の力で頑張っていることは誇らしくもあり、これでいいのかと不安です。市役所とかセンターでの見回りなども、住民、市民の安全、安心も考えてほしい。(女性・60歳代)
- 女性は出産・育児等のため、男子に比べ、職場での産休・育休制度の有無は非常に重要である。また、産休・育休はあるのに、親・祖父母等の介護のための休暇はなく、老人ホームも金銭的に厳しい場合、仕事を辞めるしかなくなってくる。介護支援にもっと力を入れてほしい。また、保育所等で男性保育士がもっと増えるといいと感じる。給料が安いので、子どもが好きと目指している男性も、給料の面で思いとどまる人が多いと聞いた。(女性・20歳代)
- 子育てに60才以上の方に参加をしてもらいたい。(女性・60歳代)
- 気軽に入れる老人ホームをたくさん建ててほしい。(女性・70歳以上)
- 介護制度(認知症・障害者)を在宅介護をしている人の心のケア、支援はまだままで、その介護者の心労は健康を害するものです。ご自分の時間も少なく楽しみもなく、いつ終わるかわからない状況で介護をしています。もう少し介護者の気持ちを楽になるような新たな制度をつくっていただきたいと切に望みます。(女性・60歳代)
- 介護ヘルパーの仕事は大変ですが、時給が安いので働く人が集まりません。現在の介護ヘルパーも皆、高齢化してきて、体力的にも仕事がきつくなり、人手不足のため思うように休みが取りづらい現状になっています。この先、介護を必要とする人が多く

なり、介護ヘルパーは必須です。きちんとした知識と愛情を持って気遣いができる介護ヘルパーを育成、増員と共に時給の改善を切に希望します。(女性・60歳代)

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方は、男性よりもむしろ女性の側に多いのではないのでしょうか。私は男性ですが、長期の育休を取得した経験があります。その際に、女性側で作られた「壁」のようなものがあるような印象を受けました。妻は2人目の子の出産時に仕事を辞めてしまいましたが、就業する意欲はあるようです。子が2人以上いるとなかなか再就職が難しい(夏休みとかありますし…)のですが、潜在的に就労意欲がある子育て家庭のための仕事のマッチング機関や、情報提供制度があると助かります。(男性・40歳代)
- 支援を必要としている高齢者が速やかに支援を受けることができるようになる市であってほしい。(女性・60歳代)
- 保育園の拡充、保育時間延長、病気の子を預かってくれる施設の拡充。(女性・30歳代)
- 介護、高齢者対策と一体で取り組んでほしい。将来の最大の問題は「超高齢社会」の到来。戸田市として、早めに施設の充実、補助等を検討してほしい。(男性・50歳代)
- 子育てに関しての、男性が参加しやすい機会をたくさん設けてほしいです。例えばポポサロンのパパバージョンなど。(女性・30歳代)
- 昨今、3年間の育児休暇が問い出されていますが、まずこの制度を活用できる企業は本当の大企業、官公庁のみ。一般の中小企業では絶対に3年間も取れません。たとえ3年間育休が取れたとしても、3年のブランクをどう穴埋めできますか？ 職場復帰したとしても会社に戻ったら浦島太郎状態で仕事なんてできないと思う。3年育休とかよりも出産後職場にすぐ戻れるように、保育園の増設や学童の期間延長とか世の中のニーズに合った政策を取ってもらいたい。もう机上の空論は必要ありません。(男性・40歳代)
- 今とてもマンション等が増え、若い世帯が増えているので、子どもを持つ家庭が多い。子育てをしながら働ける環境がまだ整っていないと感じる。人口増加に対して女性の働ける求人も多くなく、働きたい気持ちはあっても諦めてしまっている。保育園、幼稚園の充実がもっとあってほしいと思う。(女性・30歳代)
- 今後デイサービスに入りたい時には、参加できるようお願いします。(女性・70歳以上)
- 若い世代には、男女平等、多様なライフスタイルを認める意識が根付いているが、管理職、経営側の意識改革が必要。また、男性の長期休職は、その後の社会人生活の中で、復活したり、取り戻したりするチャンスがほとんどない。現状の制度では、男性が家庭生活に協力することは不可能。強制的に育児休職をとらせるくらいの法律があってもいい。(女性・40歳代)
- もう老齢なため何のお手伝いもできませんが、保育所等のお子様を見守れるようなお手伝いくらいは、一緒に元気になれるので望みです。現在少しばかりお手伝いしてますが(個人的に)。保育所みたいな場所がうれしいですね。センターとかへ、トコバスで直行できれば参加したいですね!!(女性・60歳代)

5 社会参加・労働環境について (13件)

- 女性＝事務、雑用という意識をなくしてほしい。(女性・20歳代)
- 職場では男女共同参画ということで女性幹部の登用が進められているが、女性幹部の割合を増やすことだけが考えられているように思う。それは逆に男性差別ではないか。性別でなく能力優先が当たり前と思う。(男性・50歳代)
- 私は外資系企業の人事部におりました。このテーマについては30年以上進んでいます。企業にも聞いてみてはいかがでしょう。(男性・60歳代)
- 男女間の違いはあっても、個人の向き不向きで職場の担当を決めてほしい。(男性・20歳代)
- 国全体という視点で、若い世代にとって最も深刻なのは、就職の仕組みの問題です。実質的に大学の3年次から始まる就活と、この時期を逃すと経験もできないまま時間が経過し、非正規のまま条件の悪い状況を改善するのが困難です。海外のように意欲があれば、色々な遠回りをしてでも採用される働き方が良ければ、採用の経緯に関係なく、各自の能力に見合った役職や待遇が与えられる世の中になってほしいと思います。(男性・60歳代)
- 私は現在就職活動を行っているのですが、ほとんどの企業の方が男女平等に採用判断をしていただいている中で、女性は将来的には結婚、出産によって退職してしまうだろうという考えで男性採用を多く行う企業も存在するという悲しい情報を耳にすることがあります。女性は家庭に入るだけでなく、その後も社会に出て働き続けたいと望む方も多いためと考えますので、企業や共に働くことになる上司の方にも女性の立場を考えていただける社会となってほしいと考えます。(女性・20歳代)
- 男女の相違は主に体力、肉体的能力で、それを主に使用しない職場では男女間の相違は基本的に生じないと思う。男性は、肉体的優性をもとに女性と対峙すべきではなく、女性は肉体的劣性に甘えることなく、自分のスキルを明白に主張し、実行することで周囲に認知してもらう努力を今まで以上に行う必要があると思う。(男性・50歳代)
- 現在、子どもが通う中学校でPTAの役員をやっています。PTAの役員はほとんどが母親です。私を含め多くの方が家庭、仕事、役員の諸々のことを何とかやりくりしてこなしています。父親が参加できるようなPTA活動(役員としても)のあり方を考えていただきたいと思います。(女性・50歳代)
- 男女平等は理解、賛成しますが、それによって女性の考え方が間違った方向に行くことが心配です。建築など“力”仕事は仕方ないにしても、例えば調理師、美容師など男女とも働ける職場において、やはりその道の第一人者は男性だと思います。女性もそこら辺は理解するべきだと思います。(男性・40歳代)
- 日本は男は仕事、女は家事という習慣が強く残っていて、企業でも子育て後の女性の再就職の問題などがあり、難しい問題だと思います。そこで市が積極的に子育て後の女性の再就職について規則を作り、働きかけていくのが大事だと思います。逆に女性への優遇のしすぎで、男性の人権、平等な関係というのが壊れないようにしてほしいです。(男性・20歳代)
- 女性女性と近年特別扱いしすぎでは？ という気もしています。アベノミクスでも言われている、女性の役員を、ということに関しては、政府がそう言うからというからで

はなく、自然とそのようになっていけば良いと思います。育児休職3年ということについては、その期間の給与が保証されない限り浸透していかないと思います。(女性・30歳代)

- 私の娘は正教員として学校に勤めていましたが、結婚しその夫(教員)が海外の日本人学校に3年間勤務することになりました。泣く泣く娘は教員を辞め、夫と共に日本人学校に行きました。この間に子どもにも恵まれましたが、採用試験に受からなければ復帰できない現状があります。男女共同参加を進めなければならない県教委や市役所が一番遅れているのが現状で寂しい限りです。(男性・50歳代)
- 民間企業に新卒で入社し、25年以上勤め続けているが、どんなに女性が優秀でも、男性優位を痛感する。女性も、ダメなら家庭に入れば良いという意識を未だに持ち続け、子育てが一段落したらパートでもという考えがあるから、企業社会が男性優位で改善されないし、女性に任せられない。私は子ども4人(男2、女2)だが、子育てにも、男の子には、将来がかかっており責任を感じ、教育投資も、女の子とは差別をしてはいけないと思いながらもやっつけてしまっている。私の子どもたちが社会人となる10年、20年後の日本で、男性優位の社会が変わるとは私は思えない。(女性・40歳代)

6 アンケートについて (11件)

- こういうアンケートなどを定期的にやったら良いと思う。これで興味を持ったり、知る人もいると思うので。(女性・20歳代)
- 皆様の見せかけだけの調査は同意できません。本当の賢者の集まりをつくりなさい。質問の内容が相手の本心を聞きたいというものが伝わりません。残念です。(男性・40歳代)
- このような活動をするから、男女差別を意識するのではないか。(男性・20歳代)
- 今回のアンケートは本来の男女共同参画の主旨とは違ったものではないでしょうか。家事の役割分担等は、各家庭の事情によって決めるものです。本来、男女共同参画の主旨は、市などで決める会議には、男性、女性だけでなく、両方が入った会議体で議論して決めるといったことだと思っていたのですが。私の認識が間違っているのかも知れませんが、今回のアンケートは意味がなく、税金の無駄使いと思いました。(男性・50歳代)
- このアンケートで取り組んでほしい項目に、資料、講座、パンフレット等の安易に税金を使う項目が1~3の早い方にあり、正しいアンケートではないと思います。(男性・50歳代)
- アンケート内容が片寄りすぎで答えにくいものが多い。女性を持ち上げることで男女平等にしようとしているようにしか見えないが、現実的には男性不利の部分も多々ある。こういった「男女平等」を掲げる政策・主張はその点を見ない非現実的なものにしか感じられない。男女には有利・不利がある。その部分を洗い出した上で平等について考えれば良いのではと思う。現状「女性不利」の部分しか洗い出しが完了していない。進捗は50%である(笑)(男性・20歳代)
- 設問が不適と思われるものや、選択する例文が少し偏向しているように感ずるものが複数あり、アンケートの結果が影響されるのでは…と感じました。次回アンケートを

作成する場合は、もう少し工夫をお願いしたい。(男性・50歳代)

- 設問に対して、1つだけ○をすとか、2つまで○をすとか、コンピューター処理の問題だと思いますが、このようなアンケートだけですべてをわかったような結果、統計が出ることがすべてではないと思う。我が家は障害者がいるので、男女だけの問題のこのようなアンケートがバカバカしい！(男性・50歳代)
- アンケートにお答えしましたが、正直、男女共同参画ということに対して詳しくは分からなかった。でもこのアンケート用紙を見て、答えて、どういうものであるのかが分かったような気がします。これからもこのような調査を行ってほしいと思います。(女性・60歳代)
- 今回のアンケートの選択項目では、私の感じた通りの意見が反映されるか、少々不安を感じます。質問項目をもう少し吟味していただければ、もっと実態に近い結果が得られるのではと思います。(男性・40歳代)
- 男女共同参画についての調査について、調査以前の状態、調査時、調査後はどのようなようになったかを知りたい。(女性・70歳以上)

7 教育・学校について (8件)

- 男女お互いの人権を大切にする教育を小学校、中学校、高校で是非充実してほしい。学校内、クラブ活動等での暴力による指導がやっとな批判され、是正されつつあるようになりましたが、このような影響(子どもの時に受けた暴力)がDVに発展していかないことを祈るばかりです。(女性・60歳代)
- 暴力の問題はモラルの欠如からくるものです。義務教育では道徳を教えていないのが実状ではないでしょうか。私自身、子どもの頃に道徳ということをあまり教えられていなかったように思います。大人になればなる程、公よりも個人が優先されます。だから、自分さえよければ他人はどうでもいいということになる。暴力はまさに個人的なものです。その原因の背景には、原因の一つとして道徳教育の欠如があると思われてなりません。つまり、諸問題を解決していくには、そうした人間の育成(体の成長ではない)が必要だと思います。道徳が何故できたのかというところから教えるべきです。はっきり言いますと、道徳というものは奥が深いものです。とても子どもにはわかりません(その成り立ちについて)。ですから、本来、子どもよりも大人が学ぶべきものではないでしょうか。日常で皆さんが経験する腹立たしいことは、他人はどうでもいいという、強いものが優先する社会です。そのために、やったらやり返すということにならざるを得ません。行動は思想がもとになっています。ですから、思想を正すことです。(男性・50歳代)
- 今頃、男女共同参画しても遅い。子どもの時から教育して、男女共同参画なんてしなくてもいいようにしなかった教育が悪い。(男性・60歳代)
- 人間の大人になっての性格は物心のついた幼少期から青年期までの十数年間の家庭生活で見聞きし経験した兄弟の言動にベースを置いていると信じています。家族の言動が学校や社会の教育より影響するところが大きいです。(男性・70歳以上)
- 男性、女性のそれぞれの役割もあるので、すべてにおいて平等とはいかないのではないかと思います。小中学校においても差別なく男女を分けることはできないと思う。(女

性・40歳代)

- 問8についてですが、大人になると素直に聞いてくれる人ばかりじゃなくなると思うので、子どものうちから教育の場で（もちろんそれぞれの家庭でもだけど）教えてほしいし、それを教える先生にも差別や偏見があったらダメだと思うので、特に力を入れてほしいです。学校だから教えられることってたくさんあると思うし。（女性・30歳代）
- 日本古来の悪い習慣が連綿と受け継がれ、女性が犠牲になっている部分が多いと思いますので、学校教育から家庭実習など、実践的に低学年から教えていく必要があると思います。家庭だけでは難しいのでは？ 時代観の意味からしても。（女性・60歳代）
- 男女共同参画社会をつくるには、成人の意識改革と、子どもの教育が大前提。しかしこれには相当の年月を要します。保育園から義務教育までの教職員の男女比を同じ程度にできるような施策。（女性・60歳代）

8 DV（ドメスティック・バイオレンス）について（4件）

- 友人にもDV被害にあっていると思うケースがありますが、当人たちはDVと気付かず、子どもがいることから、一生懸命に夫婦関係を修復しようとしているケースがあります。周囲の人間がどのように力を貸してあげられるかわかりません。上手に伝えられる事例なども、パンフレットに取り入れてください。（当人向けのパンフレットでは、本人が認めていないので）精神的に追い詰められていくのを見ているのも、少しつらいです。（男性・40歳代）
- 特にDVは中学生の恋人同士時代から始まっているようです。困ったことです。男子の暴行!!（男性・70歳以上）
- DV撲滅への施策（男性・70歳以上）
- 最近の女性は強い!! 女性の顔色をうかがっている男性が多い。女の子は女らしくはどこに行ったのか？ 肌の露出はひどいし、ファッションといえばそれまで。言葉の暴力も女性の方ではないかと思う。男子は手である。DVとは、女性の言葉の暴力もあり、どうして男性ばかりだと思うのか。（女性・60歳代）

9 家庭生活について（3件）

- 家事については、個々の方法にこだわりがあり、女性も共同で家事を分担するのなら、もう少し柔軟に対応する必要があるのでは！（男性・40歳代）
- 男性に一時的に家事を強要するようにしてほしい。特にフルタイムでお互い同じくらい時間に終わるのに家事をしないことで「ダメなやつだ」とレッテルを貼られるのはおかしい。家庭内から男女平等にしていけないことには世の中は変わっていかないと。まずは意識を強制的に変える必要があると思います。（女性・20歳代）
- 同じことをやったり、同じ給料をもらうことを平等だとは思っていません。育児は本能の部分もあり、夫の協力が無いことを嘆くのではなく、楽しむくらいのゆとりが持てるような女性に育つことを希望します。（女性・40歳代）

第5章 調査結果からの課題

1 目標ごとの課題

目標Ⅰ 男女共同参画の意識づくり

(1) 男女共同参画意識の啓発

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
社会全体で男女が平等になっていると感じている人の割合を増やします。	17.8%	70.0%	21.3%
「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担に同感しない市民の割合を増やします。	36.3%	50.0%	29.5%

目標値の達成状況は、「社会全体で男女が平等になっていると感じている人の割合の増加」については、目標値には達しなかったものの3.5ポイントの増加となったが、「『男は仕事、女は家庭』といった固定的な性別役割分担に同感しない市民の割合の増加」については、6.8ポイントの減少となった。

性別役割分担意識については、内閣府の調査（「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年10月）においても、昭和54年の調査開始以降初めて、肯定派の割合が男女ともに前回調査より増加した。本市においても同様の傾向がみられ、前回調査と比較すると、男女ともに肯定派が微増、否定派が減少し、肯定派が否定派を上回る結果となっている。性別役割分担意識が及ぼす弊害等も含め、丁寧な啓発活動が必要と思われる。

情報収集・提供について、「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は前回調査に比べて増加したが、「育児・介護休業法」などで減少がみられ、おおよその内容まで知っている用語については、前回調査に比べて減少したものが多くなっている。また、「ビリーブ」で力を入れてほしい取り組みとして、「情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業」と「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」が2割と多くなっており、普段、テレビ等のメディアで触れにくい部分の情報提供について工夫が必要である。

(2) 男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

各分野の男女の地位について、「平等」との回答は「教育」が最も多くなっている。学校において力をいれてほしいことについては、「性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う」が7割強を占め圧倒的に多くなっており、性別にとらわれず、一人ひとりが個々の持つ能力を十分に発揮できる環境が求められていることが分かる。以下、「『男女平等』の意識を育てる授業をする」が4割強、「教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う」が3割強となっている。

生涯学習については、「ビリーブ」で力を入れてほしい取り組みとして、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」が2割となっており、市に力を入れてほしい施策では、「女性対象の講座の実施」が10.7%、「男性対象の講座の実施」が6.6%、「市の講座などに参加する際の託児の充実」が6.5%となっている。

(3) 男女共同参画センターの機能充実

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
男女共同参画センター『ビリーブ』を知っている人の割合を増やします。	32.9%	80.0%	27.1%

「男女共同参画センター『ビリーブ』を知っている人の割合の増加」という目標値については、前回調査と比べて5.8ポイントの減少となった。「ビリーブ」で力を入れてほしい取り組みは「特にない」が3割強で最も多いが、「情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業」「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」「市民・団体活動の支援」も2割前後の回答がある。

目標Ⅱ 人権の尊重と男女平等の推進

(1) 配偶者等からの暴力に対する施策の充実

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
DVの内容まで理解している人の割合を増やします。	未確認	80%以上	79.5%

「DVの内容まで理解している人の割合の増加」という目標値については、目標値に近い79.5%となっている。

「DV防止法」の認知度は8割を占めているが、おおよその内容まで知っている人は1割強にとどまっている。また、「デートDV」の認知度は2割強、内容まで知っている人は3.5%と、多くの人はまだ知らない状況となっている。DVは個人的な問題として捉えられてしまうことが多いが、社会意識の熟成に向け、広く現状をうったえていく必要がある。

アンケート調査では、女性の1割強が「DVを受けたことがある」と回答しており、近年多くなっている男性へのDVも1.7%みられる。DVの内容は「大声でどなるなど、言葉の暴力」が7割を占め、「治療は必要でないくらいの暴行」と「嫌がっているのに性的な行為を強要する」が3割台前半となっている。

DV被害に対する有効な援助として、全体では、回答の多い順に「身の安全を保障できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」「経済的な自立に向けた支援を行うこと」となっている。また、DVを受けたことがある人の考える有効な援助は、「経済的な自立に向けた支援を行うこと」が5割を占めており、以下、「身の安全を保障できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」と続いている。

特に力を入れてほしい施策の4位（「暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の設置」と7位（『DV被害者等に対する相談』の充実やDV防止の啓発）にDVに関する施策が挙げられており、関心が高いことが分かる。

（2）人権尊重に基づく性の理解と尊重

「ストーカー規制法」の認知度は8割強を占めているが、おおよその内容まで知っている人は1割にとどまっている。

学校において力をいれてほしいこととして、約4分の1の人が「性に関する適切な指導の実施」と回答しており、学校の役割への期待があることが分かる。

「女性の人権が侵害されている」と感じることはらについては、多くの項目で女性の割合が男性を上回っており（「痴漢やレイプなどの性犯罪」9.5ポイント、「DV」8.7ポイント、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」7.5ポイント等）、意識の違いがみられる。

（3）相談体制の充実

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
DV相談を知っている人の割合を増やします。	未確認	50.0%	7.8%

「DV相談を知っている人の割合の増加」という目標値について、「DV相談」を知っている人は7.8%にとどまっている。また、DVを受けたときに「誰にも相談しなかった」人が3割弱となっており、相談窓口のより一層の周知と相談しやすい環境づくりが必要である。なお、相談先としては「家族・親族」が33.8%、「友人・知人」が23.8%、「医師、カウンセラーなど」が11.3%で、「市の相談窓口（「DV相談」など）」は6.3%となっている。

目標Ⅲ 豊かな暮らしを育む環境づくり

（1）子育て支援の拡充

「子どもの世話や教育」の担当者については、該当者（配偶者またはパートナーと同居しており、子どもがいる人）の約4分の3が「おもに妻」または「妻が主で夫が協力」と回答している。また、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」への参加は、女性の割合が男性を11.9ポイント上回っており、子育ての多くは女性が担っている現状がある。

「戸田公園駅前子育て広場」や「とだファミリー・サポート・センター事業」は市の事業の中でも認知度が高く、特に女性は、それぞれ36.2%、26.3%となっている。

女性が働き続けたり、再就職するために必要なこととして、「保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること」が4割台半ばと多く、特に力を入れてほしい施策においても、2位（「保育所・学童保育室の充実」と4位（「家庭における子育て支援

の充実)」に挙がっており、子育て支援のさらなる充実が求められていることが分かる。

(2) 高齢者・障がい者の自立支援と介護の社会的支援の充実

「高齢者・病人の介護」の担当者は、該当者（配偶者またはパートナーと同居しており、高齢者や病人等介護が必要な人がいる人）の過半数が「おもに妻」または「妻が主で夫が協力」と回答しており、「妻と夫が半分ずつ」は1割強と、女性が多くを担っている現状がある。

介護や介助を受けることになったときの希望として、「介護保険の在宅サービスを利用する」と「老人ホームなどの福祉施設を利用する」が全体で4割台半ば、女性では過半数を占めている。また、特に力を入れてほしい施策においても、「高齢者や障がいのある人の介護制度の充実」が過半数を占め最も多くなっており、社会的支援の充実が求められていることが分かる。

(3) 生涯を通じた健康づくり

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
女性の健康診断・検診の受診率を増やします。	69.8%	80%以上	73.7%

「女性の健康診断・検診の受診率の増加」という目標値については、73.7%と前回調査に比べて3.9ポイント増加したが、男性の受診率を9.1ポイント下回っており、目標値の80%にも達していない。男女ともに生涯を通じて健康に過ごすことができるよう、関係機関と連携し、受診率の向上に取り組む必要がある。

女性の健康を支援するために必要なことについて、女性自身の回答は「子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」が過半数を占め最も多く、以下、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」が4割台半ば、「女性のための健康教育・健康相談」が3割台半ばで続いている。

特に力を入れてほしい施策について、「女性の健康増進に向けた取り組みの充実」は女性の約4分の1を占めており、比較的関心が高いことが分かる。

目標Ⅳ 男女ともに働きやすい職場づくり

(1) 働く場における男女平等の推進

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
男女雇用機会均等法の内容まで知っている人の割合を増やします。	21.2%	50.0%	16.6%

「男女雇用機会均等法」の認知度は用語の中で最も高く8割強を占めているが、「内

容まで知っている人の割合の増加」という目標値については、16.6%と前回調査に比べて4.6ポイント減少となっており、内容の周知が必要となっている。

職場での男女の地位について、「平等」との回答は2割弱にとどまっており、「男性の方が優遇」または「どちらかといえば男性の方が優遇」との回答が6割強を占めている。

セクシャル・ハラスメントの有無については、「なかった」との回答が過半数を占め最も多くなっているが、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」(17.3%)、「外部の人に話す際などに(うちの)『男の子、女の子』『おじさん、おばさん』といった呼び方をする」(8.2%)、「性的な話をする、質問をする」(7.9%)などの回答もみられる。今後もセクシャル・ハラスメント防止のための啓発活動を行い、事業所の取り組みを支援していく必要がある。

(2) 就業環境の整備

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
育児・介護休業法の内容まで知っている人の割合を増やします。	17.8%	50.0%	12.4%
ワーク・ライフ・バランスの内容まで知っている人の割合を増やします。	3.4%	50.0%	5.3%

目標値の達成状況について、「育児・介護休業法」の内容まで知っている人の割合は前回調査と比べて5.4ポイントの減少、「ワーク・ライフ・バランス」は1.9ポイントの微増にとどまっており、内容の周知が必要となっている。

仕事に就いている人の過半数が育児・介護休業制度を利用「できない」と回答しており、その理由として、「職場に休業制度があるか分からないから」(25.4%)、「経済的な理由から」(21.0%)、「職場に休める雰囲気がないから」(21.0%)などが多くなっている。まずは法律や制度の周知が必要であるが、経済的な問題や職場環境の改善など多方面からの取り組みが必要な課題となっている。

(3) 職業能力の開発と就業機会の拡大

女性の働き方については、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び仕事をするのがよい」という中断再就職型の考えが男性の4割、女性の5割を占め最も多く、次いで、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるのがよい」という職業継続型の考えが男女ともに2割で続いている。

再就職または就業継続のために必要なこととして、「夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること」が6割で最も多く、以下、「保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること」が4割台半ば、「上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること」が4割で続いている。

特に力を入れてほしい施策として、2位に「保育所・学童保育室の充実」が挙げら

れている。また、「職業訓練・職業相談」については、女性の割合(23.1%)が男性(17.6%)に比べてやや多くなっている。

目標V あらゆる分野における男女共同参画の促進

(1) 政策・方針決定過程への女性の参画促進

特に力を入れてほしい施策において、「政策等の立案・決定に参画できる人材の育成」は7.8%、「政策等の立案・決定への男女共同参画の推進」は6.4%にとどまっており、政策・方針決定過程への女性の参画については、関心が低いことがうかがえる。

(2) 家庭生活における男女共同参画

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
家庭生活の優先度で現実として「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」している人の割合を増やします。	24.0%	50.0%	22.7%

「家庭生活の優先度で現実として『仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視』している人の割合の増加」という目標値については、22.7%と前回調査に比べて微減という結果となっている。

性別にみると、男性は「どちらかといえば仕事や自分の活動を優先」が前回調査から6.5ポイント減少し、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」と「どちらかといえば家庭生活を優先」がそれぞれ2.8ポイント、4.6ポイント増加となっており、仕事等から家庭生活への優先度の変化がみられる。女性は「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が3.5ポイント減少し、「どちらかといえば家庭生活を優先」が7.5ポイント増加と、家庭生活の優先度がさらに高くなっている。

家庭生活における男女の地位については、「平等」との回答は3割にとどまっており、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の合計が半数近くを占めている。また、家事の担当者については「食事の準備」や「洗濯」をはじめ、いずれも妻が主に担当しており、女性への負担が依然として大きいことが分かる。

男性があまり家事に参加しない理由としては、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」が6割弱を占め最も多く、以下、「仕事が忙しくて疲れている」が5割弱、「家事は女性の仕事である、と考えている」が3割強と続いており、固定的な性別役割分担が背景にあることがみてとれる。

性別にみると、男性は「家事参加を女性が望んでいない」との回答が女性に比べて多く、女性は「子どものときから家事をするようにしつけられていない」「家事は女性の仕事である、と考えている」との回答が男性に比べて多くなっている。また、女性が働き続けたり、再就職するために必要なこととして、女性の6割台半ばが「夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること」と回答していることから、考え方の違

いを埋めていく必要があると思われる。

(3) 地域活動における男女共同参画

目標値の達成状況

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
地域活動に参加していない人の割合を減らします。	45.2%	25.0%	43.6%

「地域活動に参加していない人の割合の減少」という目標値については微減となっており、目標値には達していない。男性の約半数は地域活動に参加しておらず、特に、「保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動」や「趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動」などで女性の割合が男性に比べて多くなっている。

男女の地位については、「社会活動」「余暇生活」とともに「平等」との回答が4割強を占め最も多く、「余暇生活」については、男性に比べて女性の方が優遇されているとの回答がやや多くなっている。

目標VI 推進体制の整備

特に力を入れてほしい施策において、「県や国との連携」との回答が1割みられる。

計画の推進には市民の参加が不可欠であるが、「とだあんさんぶるプラン（第四次戸田市男女共同参画計画）」の認知度は3.6%にとどまっている。プランを市民に広く知ってもらえるよう、周知方法に工夫が必要と思われる。

2 目標値の達成状況一覧（アンケート調査部分）

内 容	平成 19 年	目標値	平成 25 年
I 男女共同参画の意識づくり			
社会全体で男女が平等になっていると感じている人の割合を増やします。	17.8%	70.0%	21.3%
「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担に同感しない市民の割合を増やします。	36.3%	50.0%	29.5%
男女共同参画センター『ビリーブ』を知っている人の割合を増やします。	32.9%	80.0%	27.1%
II 人権の尊重と男女平等の推進			
DVの内容まで理解している人の割合を増やします。	未確認	80%以上	79.5%
DV相談を知っている人の割合を増やします。	未確認	50.0%	7.8%
III 豊かな暮らしを育む環境づくり			
女性の健康診断・検診の受診率を増やします。	69.8%	80%以上	73.7%
IV 男女ともに働きやすい職場づくり			
男女雇用機会均等法の内容まで知っている人の割合を増やします。	21.2%	50.0%	16.6%
育児・介護休業法の内容まで知っている人の割合を増やします。	17.8%	50.0%	12.4%
ワーク・ライフ・バランスの内容まで知っている人の割合を増やします。	3.4%	50.0%	5.3%
V あらゆる分野における男女共同参画の促進			
家庭生活の優先度で現実として「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」している人の割合を増やします。	24.0%	50.0%	22.7%
地域活動に参加していない人の割合を減らします。	45.2%	25.0%	43.6%

資料

男女共同参画に関する市民アンケート調査

市民の皆様には、日頃から市政運営にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「男女共同参画社会」とは、男女が対等な社会の一員として、自らの意志で社会のあらゆる分野の活動に参加できる機会があり、利益も責任も分かち合う社会をいいます。

さて、このたび本市では、『とだ あんさんぶるプラン』（第四次戸田市男女共同参画計画）の実施期間が半分経過したことを機に、さらなる男女共同参画の推進を図っていくために、市民アンケート調査を行うことになりました。

そこで調査の対象として、満18歳以上の市民3,000人（男性・女性各1,500人）をコンピュータにより無作為に選ばせていただきました。

なお、本調査は無記名式で回答はすべて統計的に処理されますので、個人が特定されるようなことはございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成25年6月

戸田市長 神保 国男

ご記入にあたってのお願い

1. 封筒のあて名の方ご本人がお答えください。
2. お答えは、1つだけに回答していただくものと、複数に回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
また、○印は、番号を囲むようにつけてください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的に記入してください。
4. 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

例)

①

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ

6月17日（月）までに投函してください。

（お名前やご住所の記入は不要です）

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

戸田市男女共同参画センター「ビリーブ」（アンケート調査担当）

〒335-0022 戸田市大字上戸田86-1

電話：443-5046 / ファックス：444-0463

メール：believe@city.toda.saitama.jp

あなた自身のことについて

◆はじめに、あなた自身のことに関する下記の各項目についておうかがいします。

F 1 性別は、次のどちらですか。(1つだけに○)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 2 年齢はおいくつですか(平成 25 年 5 月 1 日現在でお答えください)。(1つだけに○)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 20 歳未満 | 2 20～29 歳 | 3 30～39 歳 | 4 40～49 歳 |
| 5 50～59 歳 | 6 60～69 歳 | 7 70 歳以上 | |

F 3 職業をお答えください。(1つだけに○)

- | | | |
|-----------------------|--------------------|------------|
| 1 常勤の勤め(会社員・公務員・教員など) | 2 自営業・家業(商業) | |
| 3 自営業・家業(工業) | 4 アルバイト・パート(学生を除く) | |
| 5 在宅の仕事 | 6 学生 | 7 専業主婦(主夫) |
| 8 無職 | 9 その他→具体的に() | |

F 4 結婚していますか。(1つだけに○)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 している | 2 していないがパートナーと暮らしている(事実婚) |
| 3 していた(離婚・離別・死別など) | 4 していない(未婚) |

F 5 **【F4で「1」または「2」と答えた方への質問です。】**

あなたの世帯は、次のどれに当たりますか。(1つだけに○)

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1 共働き(ともにフルタイム) | |
| 2 共働き(どちらか、またはともにパート) | |
| 3 夫だけ仕事をしている | 4 妻だけ仕事をしている |
| 5 夫婦とも仕事をしていない | 6 その他() |

F 6 あなたと同居している家族等は、次のうちどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|-------|
| 1 配偶者(パートナー) | 2 未婚の子ども | 3 自分の親 | |
| 4 配偶者の親 | 5 子どもとその配偶者 | 6 孫 | 7 祖父母 |
| 8 きょうだい | 9 ひとり暮らし | 10 その他() | |

F 7 **【F6で「2 未婚の子ども」と答えた方への質問です。】**

あなたのお子さんは、次のどれに当たりますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|-------------------|-------|
| 1 3 歳未満 | 2 3 歳以上で小学校就学前 | 3 小学生 |
| 4 中学・高校生 | 5 予備校・専門学校・大学(院)生 | 6 社会人 |
| 7 その他() | | |

男女のあり方をめぐるさまざまな問題について

問1 次の用語をあなたは聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○、およびその内容まで知っているものには◎)

1 男女雇用機会均等法	2 育児・介護休業法
3 男女共同参画社会基本法	4 ストーカー規制法
5 DV (ドメスティック・バイオレンス) 防止法	6 ポジティブ・アクション
7 女子差別撤廃条約	8 デートDV
9 ジェンダー	10 ワーク・ライフ・バランス

問2 あなたは、次の(ア)～(ケ)に挙げる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ1つずつに○)

質問 ↓	選 択 肢	→	男 性 の 方 が 優 遇	男 性 の 方 が 優 遇 ど ち ら か と い え ば	平 等	女 性 の 方 が 優 遇 ど ち ら か と い え ば	女 性 の 方 が 優 遇	わ か ら な い
(ア) 家庭生活			1	2	3	4	5	6
(イ) 職場			1	2	3	4	5	6
(ウ) 教育 (おもに学校教育の場で)			1	2	3	4	5	6
(エ) 社会活動 (地域活動・ボランティア・PTAなど)			1	2	3	4	5	6
(オ) 余暇生活 (楽しむ機会や楽しみ方)			1	2	3	4	5	6
(カ) 政治			1	2	3	4	5	6
(キ) 法律や制度上			1	2	3	4	5	6
(ク) 社会通念、慣習、しきたりなど			1	2	3	4	5	6
(ケ) 全体的に考えると			1	2	3	4	5	6

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見にいちばん近いものはどれですか。(1つだけに○)

- | | | |
|------|-------------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 どちらともいえない・わからない | |

問4 女性の働き方について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つだけに○)

- | |
|--|
| 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるのがよい |
| 2 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び仕事をするのがよい |
| 3 子どもが生まれるまでは仕事をして、生まれた後は家事や育児に専念するのがよい |
| 4 結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念するのがよい |
| 5 女性は仕事をしないで、家事に専念した方がよい |
| 6 その他→具体的に () |
| 7 特に考えはない |

問5 女性が働き続けたり、再就職するために特に必要だと思うものは何ですか。

(3つまでに○)

- | |
|--|
| 1 夫など家族が家事や育児を分担し、協力すること |
| 2 保育施設が充実したり保育時間が延長されたりすること |
| 3 家事や育児に親の協力を得ること |
| 4 育児や介護のための休業制度が充実すること |
| 5 勤務時間を短くしたり残業を少なくするなど、労働条件が改善されること |
| 6 上司や同僚に理解があり、出産後も働き続けられる雰囲気があること |
| 7 再就職のための研修や相談の機会が提供されること |
| 8 中高年女性の採用の枠(年齢・職域)が広がられること |
| 9 老人ホームなどが整備されたり、ホームヘルパー、介護サービスなどが充実すること |
| 10 その他→具体的に () |
| 11 特にない |

◆ここからは、現在何らかの形で仕事に就いている方（パートやアルバイト、契約社員などを含みます。）への質問です。該当しない方は、問8へお進みください。

問6 「セクシュアル・ハラスメント※」についての質問です。あなたの職場では次に掲げるような行為が、過去1年以内にありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1 性的な話をする、質問をする |
| 2 容姿や年齢、身体的特徴について話題にする |
| 3 結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問する、話題にする |
| 4 「男のくせに」「女のくせに」などと発言する |
| 5 外部の人に話す際などに（うちの）「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする |
| 6 水着やヌード写真・雑誌等を職場で見る |
| 7 必要以上に身体をさわる |
| 8 酒席等でお酌やデュエットを強要する、席を指定する |
| 9 執拗に交際を求める |
| 10 性的関係を求める、迫る |
| 11 戦略的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする |
| 12 上記のような行為はなかった |

※性的な言動により相手を不快にさせたり、相手の意に反して性的な行為を強要したりすること

問7 あなたに育児や介護が必要な家族がいた場合、法律で定められた休業制度を利用することができますか。(1つだけに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1 できる | 2 できない |
|-------|--------|

問7-1 【問7で「2 できない」と答えた方への質問です。】

休業制度を利用することができないのは、どのような理由からですか。

(1つだけに○)

- | |
|-------------------------|
| 1 経済的な理由から |
| 2 職場に休業制度があるか分からないから |
| 3 職場に休める雰囲気がないから |
| 4 休みをとると勤務評価に影響するから |
| 5 自分の仕事は代わり的人がいないから |
| 6 一度休むと元の職場に戻れないから |
| 7 仕事を続けたいから |
| 8 配偶者（パートナー）の理解が得られないから |
| 9 その他→具体的に（) |

◆ここからは、すべての方がお答えください。

問8 あなたが、市内の小中学校における「男女共同参画の視点に立った教育」を推進する上で特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(3つまでに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 「男女平等」の意識を育てる授業をする |
| 2 性別に関わりなく、能力や適性を重視した進路指導、生活指導を行う |
| 3 出席簿・座席・名簿など、男女を分ける習慣をなくす |
| 4 教員に対して、男女共同参画意識向上のための研修を行う |
| 5 性に関する適切な指導の実施 |
| 6 校長や教頭に女性を増やしていく |
| 7 教員の男女比を同率になるようにしていく |
| 8 その他→具体的に () |
| 9 学校教育の中で行う必要はないと思う |

問9 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------------------|----------------|-----------|
| 1 買春・売春・援助交際 | 2 性風俗店 | 3 ストーカー行為 |
| 4 DV (ドメスティック・バイレンス) ※ | 5 痴漢やレイプなどの性犯罪 | |
| 6 職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇 | | |
| 7 雑誌や広告に掲載されたヌード写真等 | | |
| 8 容姿を競うミス・コンテストなど | | |
| 9 「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉 | | |
| 10 その他→具体的に () | | |

※配偶者間(パートナー)や恋人など親しい間柄での暴力のこと

結婚や家族、生活などのことについて

問10 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。(1つだけに○)

- | | |
|-------|----------|
| 1 受けた | 2 受けなかった |
|-------|----------|

問11 あなたは、女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。

(2つまでに○)

- | |
|----------------------------|
| 1 女性のための健康教育・健康相談 |
| 2 女性の性に関する相談 |
| 3 子宮頸がん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策 |
| 4 病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実 |
| 5 妊娠・出産期における母子保健サービスの充実 |
| 6 その他→具体的に () |

問 12 「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つだけに○)

- | | | |
|------|-------------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 どちらともいえない・わからない | |

問 13 あなたは、離婚することについてどう思いますか。(2つまでに○)

- | |
|---------------------------|
| 1 愛情がなくなったら離婚する |
| 2 お互いの価値観が違ったら離婚する |
| 3 子どもがいたらその子が自立するまでは離婚しない |
| 4 離婚を安易に考えるべきではない |
| 5 お互いに妥協し、できるだけ離婚しない |
| 6 DVがあれば離婚する |
| 7 経済的に不利であれば離婚する |
| 8 その他→具体的に () |

問 14 【現在配偶者またはパートナーと同居している方への質問です。該当しない方は、問 15 へお進みください。】

あなたの家庭では、(ア)～(ク)に掲げる家事を、だれが担当していますか。

(それぞれ1つずつに○)

質問 ↓	選 択 肢 →							該 当 者 な し
	お も に 妻	妻 が 主 で 夫 が 協 力	妻 と 夫 が 半 分 づ つ	夫 が 主 で 妻 が 協 力	お も に 夫	そ の 他 の 家 族 等		
(ア) 食事の準備	1	2	3	4	5	6		
(イ) 食事の後片づけ	1	2	3	4	5	6		
(ウ) 部屋の掃除	1	2	3	4	5	6		
(エ) ふろの掃除	1	2	3	4	5	6		
(オ) 洗濯	1	2	3	4	5	6		
(カ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6		
(キ) 子どもの世話や教育	1	2	3	4	5	6	7	
(ク) 高齢者・病人の介護	1	2	3	4	5	6	7	

◆ここからは、すべての方がお答えください。

問 15 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方についてうかがいます。「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。《選択肢》の中からそれぞれについて1つだけ選び、（ ）内に数字をお書きください。

回答欄： ○現実 → () ○希望 → ()

《選択肢》

- 1 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念
- 2 どちらかといえば仕事や自分の活動を優先
- 3 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視
- 4 どちらかといえば家庭生活を優先
- 5 家庭生活に専念

問 16 「平成 23 年社会生活基本調査（総務省統計局）」によると、「1 日平均の家事関連時間は、女性が 3 時間 3 5 分に対し、男性は 4 2 分」となっています。男性があまり家事に参加していないのはなぜだと思いますか。（3 つまでに○）

- 1 仕事が忙しくて疲れている
- 2 家事参加を女性が望んでいない
- 3 勤務時間が長く、家にいる時間が少ない
- 4 家事をする手が足りている
- 5 子どものときから家事をするようにしつけられていない
- 6 家事は女性の仕事である、と考えている
- 7 家事をするのは世間体が悪いと感じている
- 8 家事の仕方がよくわからない
- 9 その他→具体的に ()
- 10 わからない

老後の生活について

問 17 あなたは、老後を誰と暮らしたいと思いますか。（1 つだけに○）

- 1 配偶者（パートナー）と 2 人で暮らしたい
- 2 子どもや孫と一緒に暮らしたい
- 3 自分ひとりで暮らしたい
- 4 きょうだいと一緒に暮らしたい
- 5 気の合う友だちと一緒に暮らしたい
- 6 老人ホームなどの施設で暮らしたい
- 7 その他→具体的に ()
- 8 特にない・わからない

問 20-2 【問 20 で「1 DVを受けたことがある」と答えた方への質問です。該当しない方は問 21 へお進みください。】

DVを受けたとき、あなたは誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 家族・親族 | 2 友人・知人 |
| 3 市の相談窓口（「DV相談」など） | 4 家庭裁判所、弁護士 |
| 5 警察 | 6 同じような経験をした人 |
| 7 配偶者暴力相談支援センター | 8 医師、カウンセラーなど |
| 9 民間支援グループ→具体的に（ ） | |
| 10 その他→具体的に（ ） | |
| 11 誰にも相談しなかった→その理由（ ） | |

◆ここからは、すべての方がお答えください。

問 21 あなたは、DV被害に対し、どのような援助が有効だと思いますか。(3つまでに○)

- | |
|---------------------------------|
| 1 経済的な自立に向けた支援を行うこと |
| 2 相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること |
| 3 家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助 |
| 4 医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助 |
| 5 市役所などの公的機関での情報提供と支援 |
| 6 民間支援グループなどの援助 |
| 7 身の安全を保障できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供 |
| 8 被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること |
| 9 加害者への指導やカウンセリングを行うこと |
| 10 お互いの人権を大切にする教育の充実 |
| 11 その他→具体的に（ ） |
| 12 特に援助は必要ないと思う |

地域活動などについて

問 22 あなたはこの1年間に、次に掲げるような地域活動等に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1 町会や自治会、商店会などの地域活動 | |
| 2 保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTAや子ども会の活動 | |
| 3 自治体の審議会等の委員 | |
| 4 趣味や文化・教養、スポーツなどのサークル活動 | |
| 5 地域の仲間同士が集まって行う勉強会や研修会 | |
| 6 環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動 | |
| 7 高齢者や障がいのある人の介護などのボランティア活動、福祉活動 | |
| 8 消防団や自主防災活動 | 9 国際交流・協力に関する活動 |
| 10 市で実施する講座等への参加 | 11 その他（ ） |
| 12 参加していない | |

「男女共同参画社会の実現」をめざすための施策について

問 23 現在、戸田市が行っている次の事業を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1 『とだ あんさんぶるプラン』(第四次戸田市男女共同参画計画) | |
| 2 戸田市男女共同参画センター『ビリーブ』 | |
| 3 とだ共同参画フォーラム | 4 男女共同参画情報紙『つばさ』 |
| 5 DV相談 | 6 とだファミリー・サポート・センター事業 |
| 7 戸田公園駅前子育て広場 | 8 上記の全てを知らない |

問 24 現在、戸田市では「男女共同参画センター『ビリーブ』」において次のような取り組みを行っています。今後どのような取り組みに特に力を入れてほしいと思いますか。(2つまでに○)

- | | |
|-------------------------|--|
| 1 男女共同参画や女性問題等に関する資料の充実 | |
| 2 男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催 | |
| 3 情報紙や啓発パンフレットなどの啓発事業 | |
| 4 市民・団体活動の支援 | |
| 5 団体・グループの相互交流の援助 | |
| 6 その他→具体的に () | |
| 7 特にない | |

問 25 「男女共同参画社会の実現」に向けて、戸田市に特に力を入れてほしい施策は何ですか。(5つまでに○)

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 女性対象の講座の実施 | |
| 2 男性対象の講座の実施 | |
| 3 「DV被害者等に対する相談」の充実やDV防止の啓発 | |
| 4 暴力を受けた場合のシェルター(避難所)の設置 | |
| 5 保育所・学童保育室の充実 | |
| 6 市の講座などに参加する際の託児の充実 | |
| 7 家庭における子育て支援の充実 | |
| 8 男女共同参画の視点に立った教育の推進 | |
| 9 高齢者や障がいのある人の介護制度の充実 | |
| 10 女性の健康増進に向けた取り組みの充実 | |
| 11 政策等の立案・決定への男女共同参画の推進 | |
| 12 政策等の立案・決定に参画できる人材の育成 | |
| 13 就労条件の改善努力 | |
| 14 職業訓練・職業相談 | |
| 15 人権の尊重や女性問題の啓発事業 | |
| 16 県や国との連携 | |
| 17 その他→具体的に () | |
| 18 特にない | |

◇あなたが、男女共同参画に関して日ごろ感じていることや、戸田市の男女共同参画施策について望むことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上で終了です。長い時間アンケートにご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ

6月17日（月）までに投函してください。

（お名前やご住所の記入は不要です）

* 調査結果につきましては、市ホームページ（<http://www.city.toda.saitama.jp/>）に掲載するほか、男女共同参画センター「ピリープ」および図書館にて報告書をご覧ください（平成25年12月以降を予定）。

男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書

平成 25 年 11 月

編集・発行 戸田市 市民生活部 コミュニティ推進課
男女共同参画センター
〒335-0022 埼玉県戸田市大字上戸田 86 番地の 1
TEL 048-443-5046 FAX 048-444-0463